

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|-----|-----|-----|----|---|---|---|
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 岡田 | 宮武 | 井上 | 植松 | 藤井 | 中條 | 大熊 | | | |
| 玉吉 | 三蛟 | 三郎 | 茂一郎 | 秀三郎 | 恒太郎 | 司馬 | | | |

山内信用購買利用組合

綾歌郡山内村には明治三十年頃既に農村金融機關あり、縣下に於けるこの種施設は先驅の部として活躍してゐたが、大正二年不幸にして破綻を來たし解散の止むなきに至つた。其後村内金融機關の再興は必然の要求として此處に同村松本熊藏、野上正樹氏等の盡力により出資口數六百五十口（一口拾圓）を得て大正十三年七月六日再び設立を見たもの、即ち現在の山内信用購買販賣利用組合である。

前身組合の破綻に先入的恐怖症に墮せし一部村民は依然これに共鳴せずためにこの新興組合を理解せしむるの努力は異

| | | |
|-------|-----|-----|
| 組合長理事 | 福井 | 虎三郎 |
| 専務理事 | 野上 | 正樹 |
| 理事 | 松本 | 熊藏 |
| 理事 | 中西 | 孫慶 |
| 監事 | 平尾 | 正平 |
| 同 | 鬼子尾 | 長八 |
| 同 | 津川 | 彦一 |

常であつた。即ち役員或ひは事務員自ら戸別に訪問し、力説するの狀勢にして斯くして順次理解する者はこれを入れつゝ、かくて金解禁後農作物或ひは諸副業品の暴落に各農村は疲弊を感じた此一般の情勢に産業組合の利用意識を更生して組合の事業分量は年と共に増加し著しき進境を示したのである。然して昭和七年度に於ては組合員數五百十二名、出資口數九百六十一口、貯金四萬八千四百七拾圓、貸付金四萬參千八百五拾七圓、準備金壹千九百參拾六圓、特別積立金貳千六百拾四圓を計示するに至つた。現在の役員は左の諸氏である。

陶信用購買販賣利用組合

陶信用購買販賣利用組合は明治三十九年十月の創立であつて信用部單營のもとに事業を開始したが、以來村民の金融硬塞は一掃され組合禮讓の聲は大いに揚つた。

斯くて大正七年四月農業倉庫を經營し、大正八年五月には更らに購買販賣生産事業を新設また組合員の主要副業たる麥稈眞田の販賣の合理化を目的として同年八月麥稈眞田販賣幹旋を開始した。又翌大正九年十月には更らに米麥の加工を目的とする精穀其の他の利用事業を開始、大正十一年一月二十六日に至り現在の如く有限責任陶信用購買販賣利用組合と改稱した。

斯くてその活躍は愈々速度を加へ同年四月には葬具の利用同六月には鹽の購買を開始、大正十四年七月には揚水唧筒の利用、昭和四年六月齒委託販賣を開始する等眼覺しき進展は續き組合員の信頼を集中して各事業とも逐年その量を増加し輝く業績を誇つたのである。

この進展に大正十三年四月十四日成績優良の廉で産業組合

| | | |
|-------|----|-----|
| 組合長理事 | 細谷 | 關雄 |
| 理事 | 新名 | 太樓 |
| 同 | 細川 | 八太郎 |
| 同 | 牧野 | 又八 |
| 同 | 上田 | 忠次郎 |
| 同 | 福家 | 數太郎 |
| 監事 | 溝縁 | 數太郎 |

中央會より表彰されたが、これ全く村民一同の理解協力に基づく發展にして祝福すべき農村風景ではある。尙その外同組合では最近電氣モーターサイレンを設備して、正確なる時刻を村民に報じ時間嚴守の美風を涵養に努め、又罹災組合員には罹災貸付規定を設け救難の實を擧げてゐる等は他組合に類例少き好事例である。

斯て最近の事業動態に於ても組合員八百二十六名、出資口數一千四百五十五口、貯金貳拾七萬六百拾四圓、貸付金拾九萬六千七百貳拾壹圓、準備金及び各種積立金五萬壹千四百四拾七圓、購買品賣却高四萬壹千四百六圓、販賣高九萬五千五百貳拾五圓、利用高參千五百參拾貳圓、農業倉庫收入壹千四百參拾七圓の盛況はこれ縣下有力組合の面目であらう、因みに現在の役員は左記の諸氏である。

同 同 福家重二郎 栗林茂夫

は左の諸氏である。

千正信用販賣組合

昭和村千正信用購買販賣組合は千正、畑田二村の合併前即ち大正七年六月十二日當時の千正村一圓を區域として創設したものである。小田伊三郎氏組合長に就任し組合員二百十五名、出資口數七百七十九口(一口貳拾圓)を以て信用單營の事業を開始したが組合員の要望は更に將來への飛躍を劃して大正十一年購買販賣部及農業倉庫を兼營し斯くして逐年業績を改め今日に至つてゐる。

今や保證責任の基本制度も整へ昭和七年度末に於ては組合員二百三十八名、出資口數八百七十八口、貸付金八萬七百貳拾參圓、貯金六萬九千五百五圓、購買部參萬圓、利用部八百九拾貳圓、農業倉庫入庫米貳千七百七十四俵、小麥一千五百九十三俵の數字を示し、特に貯金獎勵方法として特異的收穫貯金あり、農家に適切にして好成绩を擧げてゐる、現在の役員

| | |
|------|-------|
| 組合長 | 小田伊三郎 |
| 專務理事 | 澤田雅義 |
| 理事 | 小川久間太 |
| 同 | 石丸芳太郎 |
| 同 | 三好嘉市 |
| 同 | 角福太郎 |
| 同 | 宮脇次之 |
| 監事 | 加藤治太郎 |
| 同 | 大野憲枝 |

山田信用組合

綾歌郡山田村は同郡の東南部に位置し東西一里二十丁南北二里人口四千八百八十餘人を有する純農村にして村民は自作農多く夙に勤儉の美風の誇るべきがあつた。然るにかつての村内に金融機關なく特に中産以下の者は他市町民の頼母子講に依るを唯一の金融方便としこの爲めに好まざる現象にも村内の耕地は漸次他町村民の所有に歸しつゝあつた。

此處に於て村内有志福田薫、桑島康三、岩瀬辰三郎、山田利平太、桑島傳等の諸氏は共に感ずる所あり産業組合を組織して低利資金供給の途を講ずるに若かずとなし、その創設勸誘に奔走の結果加入者三百二十九名の多きにも達したれば爰に明治三十九年十月十五日初めて山田信用組合として村民歡呼裡に創設を見たのである。

斯くして金融は勿論肥料の同共購入溜池の修繕等々業績をあげ組合の發展は年次飛躍々進を續けた。その資産も今や參拾六萬參千八百餘圓に達する盛況にあり特に同組合は相互相助に對する組合意識の最も徹底し加入者の慶弔には夫々相當の金員を贈りまた七十歳以上の高齢に達したる組合員或ひは奉公人中五ヶ年勤続者には賞状並に金品を贈つて是を表彰する等社會的美風の振作に努め益々村民の信頼を厚くしてゐる。最近に於ける事業概況は組合員數五百八十七人、出資口數一千二百二十二口、拂込濟出資金壹萬壹千貳百貳拾圓、各種積立金參萬四千七百八拾貳圓、貸付金六萬九千五百四拾壹圓貯金拾四萬八千六百貳拾八圓の巨數を擧げ組合幹部の努力と村民の協力を表識して居る。現在の役員は左の諸氏である。

組合長 岡田 榮

| | |
|----|-------|
| 理事 | 山田鹿太 |
| 同 | 福田薫 |
| 同 | 桑島傳 |
| 同 | 岩瀬一太 |
| 同 | 桑島幸七 |
| 同 | 金瀧兼三郎 |
| 監事 | 山地勘平 |
| 同 | 高尾桂吾 |

瀧宮信用購買販賣組合

瀧宮信用購買販賣利用組合は大正二年六月六日の創立にして三井延次郎氏組合長に就任、組合員四百六十七名、出資口數一千七百七十三口を得て信用部の單營下に事業を開始したがさらに大正八年一月購買販賣部を兼營、同時に農業倉庫も開始した。

現在は貸付金四萬貳千參百拾五圓、貯金參萬拾壹圓、購買部參千七百圓の數字を示してゐるが、これより先同組合は大正十四年より昭和二年度まで貸付金回収困難となり事業を停

止の苦境に立つた。其後昭和三年有志岡田中央、鹽田定一氏等の努力に再興を期し貸付金の回収に努めると共に役員を初め組合員協力自力更生に邁進の結果昭和七年末倉庫一棟七十五坪七千圓を投じて新築し又事務所を併築する等捲土重來の意氣を以つて精進を續けてゐる。

殊に購買品の如きも一切現金主義を以て壹錢の貸付もせず現金ならねば安價なる品は手に入らずとのモットーを強調し此觀念を涵養に努めて居るが組合員またよく組合の精神と内情を理解して復興の氣運は勃々と漲るの快調にある。尙現在の役員は左の諸氏である。

- | | |
|------|-------|
| 組合長 | 岡田中央 |
| 専務理事 | 松岡誠 |
| 理事 | 鹽田定一 |
| | 岡田又八 |
| | 辰巳久茂 |
| | 山下嘉平 |
| | 横山信重 |
| | 中井彌三郎 |
| | 乙武鹿次郎 |
| | 大門隆道 |
| | 大林和次郎 |

粉所村信用購買組合

綾歌郡粉所村粉所信用購買販賣組合は村内中小産者の産業及び經濟の發達を企圖し生活の安定をモットーとして大正九年十二月二十設立した。

爾來村民の組合に對する理解は逐年徹し常に自己の組合といふ觀念の下に絶對的信賴を以て組合を讃仰して今や同村に於ける最も重要な金融機關の要務を果して居る、その準備金の如きも出資總額以上に達する盛況にして、現在の加入者(一口出資金拾圓)口数は七百口、出資總額拂込六千七百圓貯金參萬七千參拾貳圓、貸付四萬貳千七百圓、共同購買貳千六拾圓、販賣貳千圓の業績を擧げてゐる。

特に同組合は貯金獎勵方法として定額月掛貯金、收穫貯金

- | | |
|----|-------|
| 同 | 中尾喜三郎 |
| 監事 | 津村義信 |
| 同 | 松永卓榮 |
| 同 | 井上雪次 |
| 同 | 久保善七 |

及び學童貯金を設け月掛貯金は各部落毎に小組合長が集金して組合に納め收穫貯金は米麥藪の收入額一割を收穫の都度積立て居る更らに學童貯金は各入學の際入學祝として貳拾錢記入の通帳を贈り逐次貯蓄せしめて卒業までは引出しを禁ずる方法であるが、何れも好成績を擧げてゐる。因みに現役員は左の諸氏である。

- | | |
|------|-------|
| 代表理事 | 松岡正忠 |
| 理事 | 小比賀清忠 |
| | 松原永次郎 |
| | 松原宗太郎 |
| 同 | 湯淺祇一 |
| 監事 | 小谷源一 |
| 同 | 小谷岩八 |
| 同 | 西山嘉藤次 |
| 同 | 龜山忠敬 |
| 同 | 龜山平五郎 |

富熊村信用購買組合

綾歌郡富熊信用購買販賣利用組合は昭和三年十一月十一日

同村原岡仙八氏等の努力により富熊信用組合の名稱を以て創設した。

當初は信用部單營にて同村重要金融機關たるの使命に邁進しつゝあつたが、更に本格的躍進に入るべく昭和六年十一月に販賣購買利用部を新設して現在の名稱とはなし今日に至つてゐる、而して今や組合員三百二十名出資口數五百九十口(一口十圓)に及びその加入率は全村戸數の約八割にも相當し創業日尙淺きに拘らず業績は見るべきものがある。

昭和七年末の組合概況にも貯金六萬貳千圓貸付金參萬五千圓、購買高(主として肥料及雜貨)貳千圓、積立金貳千參百圓に達するの勢況である。現役員は左の諸氏である。

- | | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 原岡永江 |
| 理事 | 三井豐吉 |
| 同 | 松井亮平 |
| 同 | 眞鍋勘三郎 |
| 同 | 佐藤巖義 |
| 同 | 香川榮太郎 |
| 同 | 岩崎孝太郎 |
| 同 | 淺井佐太郎 |
| 監事 | |
| 同 | |

監事 竹内次郎 平尾維次 津村覺太郎

岡田村信用販賣利用組合

綾歌郡岡田村信用購買販賣利用組合は明治四十年八月五日現在の組合長木村榮吉氏等の主唱により同村一圓を區域として岡田信用組合の名稱のもとに創立し組合員三百名、出資口數七百口(一口十圓)を得て信用部單營の事業を開始した。

爾來逐年躍進を重ねて昭和三年十二月には購買販賣部の新營を劃し同四年一月事業を開始して着々實績を挙げ更に同六年十一月農業倉庫の經營をも創始したが、最近には利用事業をも始め精米所を設備して組合員多年の宿望を滿し、又肥料の配給統制に當るべく倉庫の新築も完整してゐる。而して同組合の沿革中異色とすべきは、大正六年に於て減資を斷行しこれも拂込出資金一口十圓のうち組合資産中より九圓を拂戻し、一口の出資一圓とはしたのである。この英斷は出資者

組合員をして、同組合の本質を知らしむるに充分であつた。斯くして同組合は今や組合員六百六十五名、出資口數一千四百六十五口を擁しその業績も昭和七年度末に於ては貸付金四萬六千六百五拾六圓、貯金五萬參千七百拾五圓、積立金壹萬壹千九百五拾七圓、販賣高壹千八百四拾四圓、購買高壹萬九千八百貳拾六圓を示し貸付は主として肥料農具購入、土地購入、家政整理、營業資金として貸出してゐるが、この成績を一見して本縣政界の巨頭たる組合長木村氏の面目躍如たるものがあらう。因みに現役員は左の諸氏である。

組合長理事 木村榮吉 鴨居一義 村山裁介 小谷又八 細谷佐門之助 井原孫市 佐野多四郎 古市正

監事 同 同 同 同 同

法勲寺信用販賣利用組合

綾歌郡法勲寺信用購買販賣利用組合は大正七年七月十五日當時の同村長吉馴義信氏等の奔走により創立し組合員三百九十五名、出資口數八百口(一口十圓)を得て信用單營を以つて事業を開始した。斯くて年と共にその業績は向上し、昭和元年十二月には購買販賣部を新設、更に元中國銀行支店倉庫一棟七十五坪を購入農倉を兼營する等組合の業務は順次擴充しつゝ昭和七年三月一日新事務所構築なつて、こゝに移轉し總ての陣容は一新された。

而して昭和七年末には組合員四百五十三名、出資口數八百三十四口(一口十圓)に増加するに至つたが、その事業動態を見るに貸付金六萬五千圓、貯金九萬五千圓、購買高壹萬四千圓、諸積立金壹萬六千餘圓を示してゐる、この貯金中最も異なるものは在郷軍人貯金にしてこれは一朝國家に有事の際出征費用に充つべく平素より積み立て、居るのである、その性質上分會長の許可を得ない限りこれを引き出すことを禁じてゐる、この如きは他に類を見ざる用意の高貴にして時節柄注

目に値するものである。因みに同組合の現役員は左の諸氏である。

組合長理事 平井七五三八 吉馴敏男 河村猪久五郎 香川房太郎 吉馴秀雄 増田勘太郎 宮武甚五郎 綾野宗藏 河内寛 福井喜三太 三原新太郎 新居伊三太

監事 同 同 同 同 同

飯野村信用販賣利用組合

飯野村信用購買販賣利用組合は大正十二年の創設であるがこれよりさき明治四十三年同村には信用組合あり經營しつゝあつたが大正八年に至り四圍の情勢に依つて一先づこれを解

散した。其後更に構圖を改めること五年、大正十二年に至つて當時の村長野田仲四郎、榑田歌次、宮島甚五郎氏等有志の努力により再興したこれ現組合にして、當初は野田氏組合長に就任信用部單營のもとに事業を開始し、昭和四年三月より購買販賣部を兼營現在の如く名稱を改め、更らに翌五年五十坪の農業倉庫を建設業務を開始し今日に至つてゐる。然るにこの倉庫新設に當つて物議騒然たるものあり、こゝに幹事は毀譽褒貶を外に敢然實施せしに業績意外に擧り、遂には設備の狹隘を感じるに至つた。其好績には嘆賞の外なく更に五十坪の倉庫を増設するの盛況を示したのである。

かくて野田氏は創設以來同組合の功勞者として敬慕されつゝ老境に達してこの程退任目下は榑田理事を中心に農村自力更生をモットーに甲斐々々しく組合夫其本據として一切を指導し助成に努めて居る。尙現在に於ける概況は組合員五百五十七名、出資口數一千百三十七口、無擔保貸付金參萬六千七百五圓、擔保貸付金貳萬參千五百拾圓、組合員當座貯金壹萬壹千貳百七圓、家族當座貯金六千六百貳拾圓、團體當座貯金四千七百七拾五圓、兒童當座貯金壹千參百五拾參圓、約束貯金參百拾四圓、組合員外貯金貳萬六千五百五拾五圓、家族定期貯

金貳萬貳千八百八拾四圓、月掛貯金四千五百四拾七圓、團體定期貯金五千貳百參拾參圓、週間貯金壹萬四千四百參拾六圓、準備金及び積立金四千九百七拾七圓、販賣高貳千九百六拾四圓、購買品賣却高壹萬五千貳拾參圓、利用料貳百四拾七圓等豪華的内容を見せつゝ、更に邁進して居る。現在の役員は左記の諸氏である。

| | |
|----|--------|
| 理事 | 横田 淺太郎 |
| 同 | 宮島 甚五郎 |
| 同 | 松永 友義 |
| 同 | 都築 小平 |
| 同 | 大畑 六助 |
| 同 | 平野 千太郎 |
| 監事 | 眞鍋 澤造 |
| 同 | 田邊 一美 |
| 同 | 山西 岩太 |
| 同 | 宮本 正一 |
| 同 | 中尾 駒一 |

府中信用購買^{販賣}利用組合

府中信用購買販賣利用組合は同村有志藤尾龜三郎氏創立委員長となり大正十年四月廿九日創設し組合員三百四十人、出資口數六百八十四口を得て事業を開始した。

爾來好調裡に進展してゐたが昭和五年不祥事件起り一時は正に破滅に瀕し然も役員と組合員の理解により更生其後理事飛谷榮、平田三郎の兩氏は専ら實務に携り日夜寢食を忘れて組合に献身奉仕してこの難面を打開し、今や着々基礎を堅めつゝある。

その昭和七年度末に於ける概況は組合員四百四十九名、出資口數七百九十六口、貸付金八萬參千貳百圓、貯金八萬八千七百九拾貳圓、準備金壹千七百貳拾參圓、特別積立金參百五拾五圓、購買品賣却高貳千七百八拾參圓を示して居る。現役員は左の通り。

| | |
|-------|--------|
| 組合長理事 | 藤井 龜三郎 |
| 理事 | 飛谷 榮 |
| 同 | 平田 三郎 |

加茂村信用^{販賣}利用組合

加茂村信用購買販賣利用組合は明治四十二年四月二十一日用村河合七郎、河合休甫氏等に依つて創設し組合員二百五十八名、出資口數六百三十口を以て事業を開始した。

爾來廿有五年間終始一貫堅實主義を本領として邁進し、村民の組合に對する信用信頼を蒐めた。殊に現組合長河合七郎氏は創立以來の功勞者にして、更らに同村々長として組合員の敬慕を一身に集めてゐるが、同村は戸數僅かに三百九十餘戸の小村落にもかゝらず昭和七年度末に於てはその組合員

| | |
|----|-------|
| 同 | 池浦 恒次 |
| 同 | 栗林 次郎 |
| 同 | 谷本 雪次 |
| 同 | 松本 惣市 |
| 同 | 荒井 充 |
| 監事 | 石井 虎助 |
| 同 | 尼崎 利平 |
| 同 | 橋本 浦 |

三百九十二人、出資口數九百九十六口、貯金拾參萬四千八百拾壹圓、貸付金九萬四千貳百八拾六圓、準備金壹萬五千貳百圓、特別積立金九千八百八拾壹圓、購買高壹千五百九拾四圓、販賣高壹千六百九圓の好成績を示し、殆んど全村残らず組合員たるの盛況はこれ同組合の誇る實體そのものである。
尙現在の役員は左記の諸氏である。

| | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 河合七郎 |
| 理事 | 井上芳三郎 |
| 同 | 池下雪太郎 |
| 同 | 堀市郎 |
| 同 | 末包克興 |
| 監事 | 加門實次 |
| 同 | 士居勇七 |
| 同 | 大美嘉四郎 |

松山村信用購買組合

近時村勢産業の發達を以つて知られる綾歌郡松山村は東西

| | |
|-----|-------|
| 組合長 | 三野伊三郎 |
| 理事 | 福井正三郎 |
| 同 | 松浦開二 |

一里二十町、南北二里十町、北部は瀬戸内海に面し地味肥沃にして耕作には適するも戸數八百七十戸に對し耕地餘りに尠く、さきには農家の疲弊其の極に達せんとした。而してこれを見た三野伊三郎氏は村内有志と金融機關の必要を語りひかくて勤儉貯蓄の奨励及び肥料の共同購入に便せん事を期し遂に明治三十二年六月松山村信用組合を創立したのである。
而して其後同三十四年八月之を松山産業株式會社に組織を變更したが更に大正三年四月松山産業株式會社を松山銀行と改稱すると同時に別個産業組合法に依る有限責任松山村信用購買販賣生産組合を創設し業務を開始したのである。
爾來躍進を續けて最近の組合員數は七百五名、出資金貳萬五千五百圓拂込済出資金貳萬壹千四百貳拾圓、借入金五萬七千九百貳拾五圓、各種積立金貳萬五千八百五拾貳圓、貸付金貳拾壹萬五千貳百七拾五圓、貯金拾七萬壹千七百七拾壹圓、購買高四萬五千四百九圓、販賣高九百拾五圓利用料貳百七拾九圓を示し其役員も左の諸氏である。

| | |
|----|-------|
| 同 | 小原新藏 |
| 同 | 松浦伊平 |
| 同 | 田中正明 |
| 同 | 福家留七 |
| 監事 | 杉野政太郎 |
| 同 | 川西久吉 |
| 同 | 河合半四郎 |

王越村信用購買組合

王越村信用購買販賣組合は大正十二年同村北山伊勢松、大和藤太郎、都崎六太郎、田畑卯次郎の諸氏創立委員となり全村歡呼裡に事業を開始したが同村は綾歌郡の最北端に位し由來金融機關等更になく常に不便を啣たれて居た前記諸氏の發心と同組合結成さるゝや村民の貯蓄の關心は翕然として此處に集り村内金融の窮通機關とはなつた。

殊に同地方は近時その山林は開拓され各種の果樹鬱蒼として繁茂し又除虫菊、煙草等各種生産多くまた海岸線には漁業、船舶業、鹽田業者あり。豊富なる生産を擁する産業村とし

て同組合の發展は固より日覺ましく異常の好成績を挙げた。創立功勞者北山伊勢松氏は多年同組合長として盡瘁し信望を集めてゐたが昭和六年逝去し其後長男貞市氏は任をつぎ嚴父に劣らざる名組合長の譽れを得てゐる。昭和七年度末の事業動態は組合員五百人、出資口數七百九十九口、貯金拾壹萬五千四百拾貳圓、貸付金七萬參千參拾壹圓、準備金五千六百七圓、特別積立金六千九拾參圓示して赫々たるものがある。現役員は左の諸氏である。

| | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 北山貞市 |
| 理事 | 大和藤太郎 |
| 同 | 田畑卯次郎 |
| 同 | 都崎六太郎 |
| 同 | 仲濱六郎 |
| 同 | 下津藤吉 |
| 監事 | 先崎三吉 |
| 同 | 西脇長八 |

林田信用購買組合

林田信用購買販賣組合は林田村一圓を區域として大正十

年四月五日同村福家善助、猪熊善次郎氏等の努力を集中して創設し組合員五百二十五人、出資口數一千六百二十八口を得て事業を開始した。

同村には明治四十年ごろ既に産業組合あり大正十年不幸解散せしその後とて前組合に對する村民の不信任未だ失せやらず新組合の前途に對する危惧は依然たるものがあつたが現理事福家氏等これが創設は時代の要求なりとして一途に邁進し堅實主義を高唱して勸説の結果遂に創設を見たのである以來着々基礎を固め大正十五年には倉庫部を開始しあるひは同村字東梶に出張所を新設して遠隔組合員の利便を圖り更に購買販賣部を兼營し組合員の生活必需品の安價購入と生産品の正價販賣斡旋をつとめた。

かくては必然同組合の信用草まりこれを援用して業績は驚異的發展を遂ぐるに至つた。その業績にして昭和七年度には本縣産業組合聯合會より優良組合として表彰されたのである次で同年六月には約壹萬圓の工費を投じて洋館事務所を新築し村の近代美を一堂に集むるの觀を呈すれば昨日まで遠ざかり居りし村民の一部も今日にしては組合及其の幹部を讃仰措かざる心境の變化を見て愈々全村一致の機關とはなつた。

而して昭和七年度の業況にしては組合員六百八十四名、出資口數一千六百五十口、貯金貳拾八萬五千七百六拾五圓、貸付金貳拾參萬壹千貳拾參圓、購買高四萬百貳拾參圓、販賣高貳萬四百七圓、利用部參百五拾壹圓、農業倉庫八百六圓、準備金壹萬貳千六百貳拾貳圓、特別積立金貳千九百七拾圓の活況にあるが同組合の盛況を眺めて經營の功拙こそその一切を解決の關鍵たるを知るものである。尙現役員は左の諸氏である

| | |
|------|--------|
| 專務理事 | 福家善助 |
| 理事 | 松浦和喜之進 |
| 同 | 中川精逸 |
| 同 | 濱崎嘉一 |
| 同 | 猪熊善次郎 |
| 同 | 熊本甚六 |
| 同 | 明石甚六 |
| 同 | 川井和太 |
| 同 | 松浦太次郎 |
| 同 | 吉田嘉藤太 |

西庄信用組合

綾歌郡西庄信用組合は昭和三年六月二十八日西庄村一圓を區域として同村本條光男氏等創立委員となりその創設を見たが同村は縣下に於ける最小の村であつて組合への理解者多く設立と共に組合員百十四名、出資口數二百三十五口を得て信用單營の事業を開始した。次いで昭和四年倉庫及び事務所を新築し昭和五年度より更に販賣購買部を兼營して今日に至つてゐる。

現在組合員百七十三名、出資口數三百三口、貸付金貳萬五百拾六圓、貯金參萬壹千八百四拾圓、準備金及び各種積立金壹萬壹千圓、販賣高九千九百五十七圓、購買高壹萬貳千七百貳拾六圓を示し爰には全村一致渾然たる光景が點綴されて居る。尙現役員は左の諸氏である。

| | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 本條光男 |
| 理事 | 井上駒男 |
| 同 | 山田阿吉 |
| 同 | 竹内金太郎 |
| 同 | 出田隆一 |

川西村産業組合

川西村産業組合は明治四十五年十一月五日同村倉井房義氏が中心となり創立し組合長には同村香川擔太郎氏專務理事に倉井氏就任組合員三百名、出資口數五百口を得て事業を開始した。

爾來躍進を重ねて大正九年に至るや組合員四百五十人出資口數一千口に達し倉井氏組合長に就任、同時に購買販賣利用部及び農業倉庫を新設して本格的活躍に移つた、昭和二年倉井組合長逝去の後現組合長岩崎義三郎氏その後を享けて今日に至つてゐるが創設以來二十餘年に亘る同組合の業史には一點の汚穢なく終始常に堅實なる足跡を残し組合員の信頼も年と共に強化して昭和七年末に於ては組合員數四百九十一名出

| | |
|---|-------|
| 同 | 西井正吉 |
| 同 | 西井源太郎 |
| 同 | 富田丹三郎 |
| 同 | 本條重太郎 |
| 同 | 猪熊正義 |

資口數一千口貯金七萬四千八百九拾壹圓、貸付金八萬七千七百六拾九圓、準備金壹萬壹千九百五拾圓、特別積立金壹千九百五拾圓、購買部賣却高壹萬五千八百參拾貳圓の盛況に到達し更に一層の躍進を期して居る。尙現在の役員は左記の諸氏である。

| | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 岩崎義三郎 |
| 理事 | 香川嘉臣 |
| 同 | 草薙芳太郎 |
| 同 | 宮脇輝元 |
| 同 | 鷲岡保弘 |
| 監事 | 近藤和吉 |
| 同 | 岩崎丞平 |
| 同 | 大平健之助 |

川津信用購買販賣利用組合

川津信用購買販賣利用組合は明治四十年五月二十五日同村中西孫三郎、中井六三郎、奈良國次氏發起となり創設し中井氏組合長に就任して組合員二百二十八名、出資口數七百五十二口(一口十圓)を得て事業を開始した。

| | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 佐藤忠次郎 |
| 理事 | 村井友八 |
| 同 | 藤本大八 |
| 同 | 國重緑 |
| 同 | 中西政七 |
| 監事 | 宮本旒一 |
| 同 | 中井稔 |

而して其拂込方法は最初一口に付き一圓宛を拂込み以後は剩餘金を以つて充當する外毎月一口に付き二十錢を徴収するといふ最も簡易にして細胞本位の方角を採つた。斯て爾來約三十年に亘る長歲月を幾多の業績を記録しつゝ今日の盛況に至つてゐるが現組合長佐藤忠治氏は昭和七年五月就任しその才幹を揮つて組合員の信望を一身に集め役員諸氏また熱誠事に當り昭和七年には現在の事務所及び農業倉庫を新築して飛躍發展を劃した。

昭和七年末に於ける事業状態も組合員四百十名、出資口數七百五十二口、貯金拾參萬四千五百八拾九圓、貸付金九萬貳千四百七拾八圓、準備金貳萬壹千貳百七拾貳圓、特別積立金貳千四百圓、購買高壹萬參千貳百六拾六圓の驚異すべき數字はその内容を語るものである。現在の役員は左の諸氏である。

西分信用購買販賣利用組合

西分信用購買販賣利用組合は明治四十五年四月十三日の創設にして同村南可員氏組合長に就任組合員百五十九名、出資口數五百口(一口十圓)を得て信用單營の事業を開始した。

爾來村民金融唯一のパイロットなり村内産業開發に寄與しつゝ年と共に進展し大正十年一月現在の如く購買販賣利用部を兼經して今日に及んでゐるその昭和七年度の事業動態に於ても貯金四萬五千七拾圓、貸付金四萬九千七百七拾四圓、購買品賣却高貳千四拾九圓を示してゐる。尙現役員は左記の諸氏である。

| | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 苧坂昌 |
| 理事 | 細谷勝雄 |
| 同 | 細谷彦市 |
| 同 | 南貫一 |
| 同 | 毛利杉次 |
| 同 | 三島虎一 |
| 同 | 篠原且美 |
| 同 | 岡田淺次郎 |
| 同 | 西部兼次 |

坂本村産業組合

坂本村産業組合は明治四十年六月の創設にして平尾喜惣次氏は組合長に就任し五百三十四口(一口十圓年二回一圓宛拂込)を得て信用部單營の事業を開始した。

爾來順調なる發達を遂げつゝ大正九年購買販賣部を新設昭和三年八月倉庫業を開始し目下米二千二百俵麥一千二百俵を收容してゐるが組合員には倉庫利用料を特別割引の恩典を附與してゐる。

現組合長佐藤清三郎氏は昭和三年就任、専務理事眞鍋勝氏と共に産業組合主義を高唱して啓導的奮闘を續けてゐるが前組合長小林圃、佐藤茂平太氏等も同組合成育の功勞者として輝く足跡を残してゐる斯くの如くして昭和七年度末に於ける組合の概況は貯金拾四萬五千八百八拾五圓、貸付金八萬七拾

| | |
|----|-------|
| 監事 | 森田政太郎 |
| 同 | 上原岩八 |
| 同 | 稻毛谷次 |
| 同 | 杉原鼎 |

七圓、準備金壹萬六千貳百拾七圓、特別積立金貳千貳百六拾五圓、別途積立金壹千四百五拾圓の巨數を示して居るが、赫々たる業容と謂はう。尙現役員は左記の諸氏である。

| | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 佐藤清三郎 |
| 専務理事 | 眞鍋勝 |
| 理事 | 平尾喜惣次 |
| 同 | 大林秀治 |
| 同 | 脇正 |
| 監事 | 眞鍋長平 |
| 同 | 尾崎善四郎 |
| 同 | 松永照夫 |

土器村信用購買利用組合

土器村信用購買販賣利用組合は大正十一年一月廿六日の創設にかゝり組合長に岩瀬純一氏就任し組合員は五百十名、出資口數二千五百四十三口(一口十圓)を以つて信用購買事業を開始した。

爾來積極方針を避け堅實の一路を辿つて今日に至つてゐる

が同村は鹽田業者多く故に組合の貯金は概ねこれ等鹽業關係者に因つて膨脹せしめて居る。その反面に純農家は本副業とも年來不振を啣たれこの方面組合員の貯金は餘り變化なき状態で購買部は肥料雜貨日用品の一部分を取扱つてゐるが昭和八年度より約五十坪の農業倉庫を新設すべく目下計劃中である。之を昭和七年度末の概況に依れば組合員數四百八十六名、出資口數二千三百三十九口、貸付金九萬貳千拾七圓、貯金拾八萬貳百拾六圓、準備金及び特別積立金壹萬五千貳百五拾七圓、購買品賣却高壹萬四千九拾九圓を示すがこの數字を以て村勢の一斑を窺知される。因みに現役員は左の諸氏である。

| | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 岩瀬純一 |
| 理事 | 平澤勇平 |
| 同 | 森崎萬太郎 |
| 同 | 眞鍋英夫 |
| 同 | 朝田彌三郎 |
| 監事 | 林安治郎 |
| 同 | 津田好太郎 |

丸龜市及仲多度郡

丸龜信用組合

丸龜信用組合は丸龜市一圓を區域として大正十二年二月二十日設立したが往時は瀬戸内海の要津としてその繁榮を誇つてゐた丸龜も明治維新後の急調なる交通文化の發達によりさきの殷盛は何處へと、その商工業も漸次衰頹の徴を呈し金融の硬塞又年を逐ふて深刻化して來た而も市内に大小の銀行は多く其支店銀行は概ね傳統の方針として市内一般商工業者に對する金融の圓滑を缺きその吸集せる資本の大部分は常に彼が本店所在地に吸集せられ一般は正に貧血の症狀にあり従つて市勢は日に不活潑な狀態に墮すのみであつた。

此處に同市有志は驟然信用組合の設立を企劃提唱して遂にその實現を見た時は大正十二年二月二十日にしてしかもその設立の事を聞くや心ある市民は舉つてこれに参加し旬日なら

ずして組合加入者は數百人に及ぶ盛況を示した、如何に庶民的金融機關が時代的に希求されつゝあつたかは以て窺知されるのである。

かくて出資口數は既に數千口に達し貯金も陸續として組合に集まり資金の充實を得て組合員に對する金融の道は完全に開かれたればこゝに於て組合は極力勤儉貯蓄を奨励しつゝ貯金高も逐年増加して遂に今日の盛況を見るに至つたのである。

尙昭和七年度末に於ける組合員數は一千二十二名、出資金貳拾四萬參千七百八拾圓、各種積立金拾壹萬八千九百五十八圓、貸付金六拾貳萬壹千七百四拾六圓、定期貯金百四拾七萬四千八百五拾貳圓、小口貯金貳拾六萬八千六百圓、當座貯金五千四拾九圓、月掛貯金參に八千八百八拾九圓、据置貯金壹萬壹千六百貳圓、皇誕貯金壹萬四千九百九拾五圓等貯金の總計百八拾壹萬餘圓の巨數を示すの盛況にしてこの短時日にこの如き進展を見しこそ一つに組合幹部の努力信用を語るものである尙組合幹部は左の諸氏である。

| | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 石井秀治郎 |
| 専務理事 | 竹内照雄 |

| | |
|----|-------|
| 理事 | 大久保實 |
| 同 | 尾池松太郎 |
| 同 | 三谷助四郎 |
| 同 | 高谷織四郎 |
| 同 | 竹内英雄 |
| 同 | 都村源吉 |
| 同 | 石川金助 |
| 同 | 齋藤定五郎 |
| 同 | 秋山正一 |
| 監事 | |
| 同 | |

丸龜農業倉庫

丸龜農業倉庫は明治四十二年未だ農業倉庫業法の實施せられざる以前に於て農業倉庫單營の目的に創設されたが、從てこの當時は民法に準據する丸龜米券倉庫組合の名稱を以て經營して居た。この種の組合は全國的にも稀にしてその創立に參劃せし現組合長藤田氏の如き異常の苦心を嘗めて遂に之を實現、其後幾多の難關に逢着しつゝ不撓打開し一途邁進せば漸次世の認識と共に業況の進展を遂げたのである。

ついで大正六年農業倉庫業法發布の機運漸く萌すや他府縣の同業者と共に同法律制定の請願運動を起し、參考資料を當局に提出等大いに努力し間もなく同法律の發布を見るや直ちに組織を社團法人に改め、更らに昭和二年産業組合法に準據する機構を整へて今日に至つた。

而て同倉庫の設備規模の大なるは縣下有數にして四百五十坪を整備し、最近一ケ年間の入庫數量は米麥合計八萬六千五百二俵、共同販賣數量貳萬八千七百七拾五俵、農業倉庫證券發行數二千四百九枚、金融の斡旋拾四萬八千四百九拾六圓、準備金壹萬四千九百四拾參圓、特別積立金貳萬壹千六百六拾圓の巨大なる數字を示してゐる。就中共同販賣は大正四年一月より開始し最初は一ヶ月に三回五日に開催しつゝあつたがその後一週二回火曜日及び金曜日に開催し、開始以來滿十八ケ年開催數九百六十餘回にのぼつてゐる。

また同倉庫は大正九年以來丸龜第十二聯隊の所用米納入を一手に引き受け一ケ年の取扱高七千餘百俵に達し外に政府の指定倉庫として買上米一萬二千俵も保管に任じてゐる。

この重要倉庫業務は組合長と共に功勞多き藤田専務これを處理し誇るべき成績を掲げて居るのである。尙組合の役員諸

| | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 藤田政男 |
| 専務理事 | 藤田八百一 |
| 理事 | 馬場良太郎 |
| 監事 | 入江俊輔 |
| 同 | 竹内照雄 |

購買組合丸龜共榮社

購買組合丸龜共榮社は丸龜市一圓を區域として組合員の生活上必要な物品・米麥、薪炭、味噌、醬油、砂糖、茶、肉酒等を購買しこの中米麥類は組合に於て精白これ等の物品を組合員に買却する事を目的として大正八年十月創立せる産業組合である。

斯てその合理的機能と存在價値は忽ち區域内の供給生活者勞働者、商工業者の認識する所となり加入者は逐年増加して昭和七年末に於ては組合員四百七十四人、出資口數六百八十六口、出資總額參千四百參拾圓、購買高貳萬九拾五圓、準備金五百五拾九圓に達し年四分以上の出資配當を行ひ着々業

| | |
|-------|-------|
| 理事組合長 | 齊藤定五郎 |
| 理事 | 横田郡太郎 |
| 同 | 白杵運三郎 |
| 同 | 藤田政男 |
| 同 | 合田松次 |
| 同 | 谷本榮吉 |
| 同 | 中山喜平 |
| 同 | 永井愛太郎 |
| 監事 | |
| 同 | |

南村信用購買組合

南村信用購買組合は大正二年四月六日の創立にして大岡濱吉氏組合長に就任し、組合員二百五十二名、出資口數六百口（一口拾圓）を以て事業を開始した。

爾來躍進を續けて昭和七年末に業況は組合員三百八

績をあげてゐるが、その發生すでに尖端的なる同組合が其後の業容も逐年充實し一般市民の實生活に介入して完全に所期の目的を達成しつゝあるはこれを時代の要求と謂はなければならぬ。尙現在役員は左の諸氏である。

十名、出資口數一千二百三十九口、貸付金八萬七千五百五拾九圓、貯金拾四萬六千六百七拾七圓、準備金壹萬貳千參百九拾圓、積立金壹萬參千六百貳拾圓を示す盛況にある。特に同組合は貯金を奨励しその方法として團體貯金、出生貯金、青年團貯金を數へ就中出生貯金は名付けの贈答物を節約して貳拾圓以上を貯金せしめ男子は徴兵検査まで女子は結婚まで繼續せしめてゐるが、この成績極めて良好である。更らに日下自方更生の秋に當り其新計畫にも納税者は各々一ヶ年分の税金を前以て貯金せしめ翌年の税金に充つる方法にして又組合員の肥料購入にも何らか新方法を講ずべく考究して居るが近く實施する筈であると尙現役員は左記の諸氏である。

- 組合長 福崎 磯治
 理事 山内 佐源太
 大岡 武治
 直江 與三郎
 藤澤 喜之助
 廣田 德三郎
 豐岡 政太郎
 大岡 利八郎
 横井 駒助

郡家信用購買販賣組合

郡家信用購買販賣利用組合は大正十四年八月の創立にして組合長に高畑澤太郎氏就任し組合員五百二十名、出資口數一千三百口(一口拾圓)を得て信用單營の事業を開始した。

爾來役員の献身的努力と組合員の支持により逐年飛躍を重ねて昭和四年より更らに購買販賣利用部を兼營して今日に及んでゐる。現在組合員は五百二名その出資口數一千二百九十五口、貸付金四萬壹千五百五拾八圓、貯金參萬八千四百四圓、準備金二千七百拾六圓、積立金壹千九百五拾六圓にして役員は左記の諸氏である。

- 専務理事 高畑 澤太郎
 理事 白川 登代七
 堀家 與市
 由川 定雄
 武田 一男
 小林 宗七
 行成 宗七
 河井 貫四郎

龍川村信用購買組合

龍川村信用購買組合は大正三年二月九日同村和氣卷太氏等の努力により創立し同村組合長に就任した。その組合員は二百九十七名、出資口數七百二十二口(一口十圓)を得て事業を開始したが、創立當時は事務所を同村役場に置き事務を村當局に委嘱して居たが充分其機能を發揮されず従つて本格的發展も見なかつた。其後大正十四年三月十六日現在の事務所を新築移轉すると共に一轉組合員の利用繁盛を來し躍進を見つゝ

- 同 香川 榮一
 同 横井 忠太郎
 同 藤本 今治
 監 高畑 定五郎
 同 河井 宇八
 同 平尾 義雄
 同 池田 忠雄
 同 谷口 蔭藏
 同 行成 傳吉
 同 平尾 忠次郎

逐年業績を向上せしめて居る。

而して現在に於ける組合内容中積立金の僅少な事は琴平銀行破産により受けし貳萬壹千圓の損失を年次の剩餘金より補充せる故にして此打撃後組合幹部は勿論一般組合員も大いに奮起し近くこれが補填も完了すべく更に目下五ヶ年計畫として購買部の發展増資をなし飛躍の姿勢をとつて居る。

その昭和七年末に於ける業況を見るに貸付金六萬四千貳百四拾九圓、貯金拾萬貳千六百參拾圓、準備積立金貳百六圓、購買品利益金貳百貳拾貳圓にして近き將來の發達も期待されて居る。現役員は左記の諸氏である。

- 組合長 次田 徳左衛門
 理事 松浦 半吾
 同 小田 猪一郎
 同 高田 實奈次
 同 次田 公威
 同 入江 小市
 同 高田 理太郎
 同 士井 武
 同 谷本 半四郎
 同 大平 權次郎

| | |
|---|--------|
| 監 | 眞部 熊太 |
| 同 | 宮武和右衛門 |
| 同 | 高木 齊 |
| 監 | 山地紀一郎 |
| 同 | 佐藤 兼彦 |

與北村信用購買組合

與北村信用購買販賣利用組合は大正十三年十月の創立にして當時の功勞者堀家清氏組合長に就任し、組合員數二百八十名、出資口數九百十八口(一口貳拾圓)を以て信用單營の事業を開始した。

爾來躍進を重ねて村内唯一の金融機關を任じつゝ。昭和七年三月現在の如く信用購買販賣利用組合と改稱各部の多彩的活躍に入つた、同組合に於て最も賞讃されてゐるものは貸付金返済の誠實なる美習にして期限が至れば執務時間外其夜中に於ても元利を揃へて持參返済する、従つて未だ回収不能を來せしもの等曾てなく萬一の場合は證人が進んでこれを支拂ひ組合に對して毫末の累をも及ぼすことなきことはこれ一般

組合員の道徳率高きと又内容の充實責任感強きを證左するものでその金融觀念には學ぶべきものがあらう。
昭和七年末に於ける業況に於ても組合員數三百三名、出資口數九百十四口、貸付金拾萬六千八百七拾六圓、貯金總額八萬參千九百七拾九圓、準備金四千貳百七拾圓、特別積立金貳百圓を示してゐる。尙現役員の諸氏は左の通りである。

| | |
|-------|--------|
| 組合長理事 | 堀家 清 |
| 專務理事 | 關居 筆之助 |
| 理事 | 片山 讚三 |
| 同 | 堀家 力太郎 |
| 同 | 高畑 景民 |
| 同 | 紫和 尙太郎 |
| 同 | 秋山 十太郎 |
| 同 | 和泉 正三 |
| 同 | 山下 彌平太 |
| 同 | 松原 八郎 |
| 同 | 浮田 常太郎 |
| 同 | 横田 登良太 |
| 同 | 坂本 茂 |
| 同 | 田村 精 |
| 同 | 平田 嘉次郎 |

| | |
|---|--------|
| 監 | 川邊 涉 |
| 同 | 宮田 晋次郎 |
| 同 | 篠原 吉之進 |
| 同 | 岡崎 長太郎 |
| 同 | 大平 良雄 |
| 同 | 紫和 善太 |

金藏寺農業倉庫

金藏寺農業倉庫は大正十年三月に創立、山地陽三氏外六氏役員に就任し組合員百七十二名を得て事業を開始した。而も當時は未だ農業倉庫に對する一般の理解乏しく活躍の域に至らなかつたが、昭和四年頃より漸次利用者増加し更に現専務理事山地栞氏就任するや銳意活動を續けこの結果在庫數量も遂に一萬俵を突破するの盛況に到達し縣下有數の倉庫業績を示すに至つた。

茲に於て倉庫の狹隘を感ずればとて三十坪一棟を増築し收容量二萬俵を有する擴充振りを成したが、更に最近の業況と將來の躍進に備ふべく一萬俵收容の倉庫を増築計畫中である

尙從來は保管のみに止つてゐた業務を一步を進めて金融販賣を行ふの外既に着意せる醬油釀造業の兼營をも爲すべくまた嘗て存否の程も疑問視するの狀態であつた信用部をもこの機に増資し倉庫事業と併進せしむべく加入者の勧誘に奔走しつゝあるが何れ時代の要求に棹さゝんとする同倉庫今後の活動こそ眞に刮目期待すべきものがあらう。
尙昭和七年度末の概況は組合員百七十名、出資口數三百口(一口五拾圓)保管料貳千四百五圓、雜收入貳百拾九圓、燻蒸料百九拾四圓、復興貯金壹千九百參拾八圓、貸付金八千五百五拾貳圓、準備積立金百壹圓を示して居る。因みに現役員は左の諸氏である。

| | |
|------|--------|
| 組合長 | 高田 砂吾一 |
| 專務理事 | 山地 栞 |
| 理事 | 元木 瀧太郎 |
| 同 | 宮下 久太郎 |
| 同 | 次田 茂 |
| 同 | 佐藤 熊吉 |
| 同 | 高畑 宜五郎 |
| 同 | 松本 菊次郎 |
| 同 | 横田 八郎 |

同 同 同
 同 尾崎千葉次
 同 坂本定夫

垂水村信用購買組合

垂水村信用購買組合は大正二年十二月廿五日の創立にして同村岡政助氏組合長となり組合員二百五十名、出資口數六百九拾壹口(一口拾圓)を得て信用購買部の事業を開始した。以來組合は極めて純良にして些かの波瀾もなく圓滿順調なる業績を續けつゝあつたが、大正十五年琴平銀行破産のため參萬圓の大損失を蒙つたのである、こゝに於て現事務小松鷹鷹氏等は痛く責任を感じ之が善後策には全く日夜寢食を忘るゝ苦力を捧げ結局組合事業には何等の支障も來すことなく事業を繼續するを得た。爾來同組合は嚴に虚飾を避け堅實を一途の精進を續けて今日に至つてゐるが、昭和七年末に於ける事業狀況は組合員數三百六十名、出資口數六百九十一口、貸付金八萬九千六百六拾八圓、貯金拾萬九千九百八拾圓、購買部壹千貳百七拾圓、純益金九百貳拾五圓、準備金七百九拾五圓

特別積立金壹千參百六拾八圓に達してゐる。而して同組合の貯金獎勵方について異色とするものに部落集金貯金がある。同貯金は各部落毎に「貯金は誰にも出来る御奉公」の文字を記入せる袋を配布して部落代表者が集金して持參するものにして非常に好成績を擧げてゐる。尙現役員は左の諸氏である。

組合長 岡政助
 専務理事 小松鷹鷹
 理事 尾崎千葉次
 同 西川鯛平
 同 金武治郎一
 同 奥田透吉
 同 今田孝
 同 本田茂市
 監事 明地安造
 同 宮川秀男

豊原村信用購買組合

豊原村信用購買販賣利用組合は大正五年十二月の創立山本

二男氏最初の組合長に就任し組合員百二十六人、出資口數二百二十三口を以て信用部單營の事業を開始した。

斯くて逐年飛躍を爲しつゝ大正十年購買販賣部を新設、更らに昭和六年利用部を兼營して現在の如く信用購買販賣利用組合と改稱した。而て茲にも其途次琴平銀行破産により五萬參千圓の大損失を課せられたが逐次剩餘金を以て補填昭和八年度に於てこれを完結し得ることになつた。

從つて目下一錢の準備金も保有せざるが組合員一同はよく理解し今後に於ける經營に期待して捲土重來組合員の福利増進を冀つてゐる。殊に現事務北村小太郎氏は質素を以て聞へ炭火、茶菓の如きものは絶對に事務所に用ひず新聞等も自辨の節約振りにして爰に期せずして組合員の信望は集り組合は日に堅實性を加へて居る。

昭和七年度末の業況を擧げるに組合員數二百六十名、出資口數四百六十口、貸付金壹萬九千六百五圓、當座貯金四千三百九十四圓、團體貯金七千五百九拾四圓、定期貯金七千八百參拾八圓、豫約貯金八圓、記念貯金九百四拾九圓、購買品壹千貳百八拾貳圓を示して居る。現役員は左記の諸氏である。

組合長 山地虎之助

理事 北村小太郎
 同 神原卯三郎
 同 青山茂一郎
 同 笠井理吉
 監事 山本勇
 同 藤林房太郎

多度津信用販賣組合

仲多度郡多度津信用販賣組合は大正十一年同町有志の發起に係り、創設されたが當時は信用部及び農業倉庫を經營し以來相當發展を見つゝ其後世の一般的不況の重壓に貸付金の回収の如くならず遅々たるに於てその有機的機能は頓に減殺され遂に業務整理の止むなきに至つた。

かくて昭和二年小國芳助氏理事長に就任するや一意組合匡出回天を目して邁進した即ち氏は敢然として貸附金の整理回収を強行し且その倉庫業務を一時、景山氏の經營せる勵商會に委託經營したのである。

然るにこの如き氏の快刀亂麻に、關係組合員は相次で脱退し、纏てさきの半數にも漸減を見た。爰に於て小國氏は自己の抱負と組合の將來性を極力組員を説得し脱退防止に努めると同時に着々整理の實績を挙げ昭和六年度に至つて略々整理を完了し一陽來復の事業内容を確立し得たのである。

かくては其倉庫業も委託を解き貯金貸出等一切の業務を運営し産業組合として本格的活動を再開した、この小國氏の献身的努力に半ば崩壊と見た同組合もその歩地を再建し目下巨費を投じて所用倉庫を増設中であるが更に近く縣聯合會の支倉をも設置さるべき筈にして同組合更生後の、發展や、思ふべしである。

殊に小國氏はさきに組合整理期間中と雖も組合員への配當は、他を節して實施し組員に對する最低の義務と快談とを頌てし如き實に氏の輝く面目にしてそれにして整理を順調に導き然も再開後の業務運営には極めて好しき影響を來しつゝある事は否定し難き事實である。

尙組合の現況としては組合員百七十三名(一口五拾圓)一千三百九十九口にして貯金四千二百餘圓貸出四萬六千七百餘圓七年度の剩餘金又五千六百二十四圓を計上されて居るがこの

業績こそ誇るに足るものではあらう。尙現役員は左の如くである。

| | |
|-----|-------|
| 理事長 | 小國芳助 |
| 理事 | 景山卯吉 |
| 同 | 武田茂祐 |
| 同 | 鹽田知章 |
| 同 | 岩田政之祐 |
| 同 | 吉田健忠 |
| 同 | 合田健吉 |
| 同 | 鹽田光治 |
| 同 | 武田亮太郎 |
| 同 | 鹽田安治 |
| 監事 | |
| 同 | |
| 同 | |

下吉田信用購買組合

善通寺町下吉田信用購買利用組合は明治四十一年二月廿九日に創立し爾來逐年業績を擧げてゐるが同組合に於て最も異色を盡へられるは金鐵をも徹す組合員の強靱なる團結力である而してその設立の動機にもこの特異性を如實に物語るエピソードが綴られては居る。

即ち現在同組合の區域たる善通寺町大字下吉田の部落には明治三十七年日露戰役記念として生れた一日一錢貯金會が存在し然してその蓄積せる貯金は産業資金に運用して居たが異常なる好績を示し他の部落も漸次之を倣ふの傾向にあつた。この時下吉田の部落内に於て一小作人が部落外の某地主と小作米改正の件に就き紛擾を醸しその解決の曙光も容易ならざるに至るや區域民は一致團結斷然として陳情款願遂に小作人側の希望を貫徹するを得たのである。茲に於て團結力の偉大性を體得した部落民は是を契機に一層産業開發を意識して明治四十一年二月廿九日諸般の手續を完了し壹錢會の舊套を脱した生氣潑刺たる下吉田信用組合を創設し更に利用を料すに至つたのである。

以來團結意識も磐石に生れた同組合の進展はいよゝゝ堅實を本領として躍進を遂げた最近の事業狀況の如きも組合員百三十六名、拂込濟出資金八千貳百八拾圓諸積立金參千四百七拾貳圓、貯金拾萬參千四拾壹圓、貸付金五萬參千八百拾五圓購買品賣却高貳萬八百拾四圓を示して居るが一致協力の賜こそ偉大である。尙現役員は左の諸氏である。

組合長 遠山源治

象郷信用購買販賣組合

象郷信用購買販賣利用組合は大正六年六月十四日の創立組合長に大西英一氏就任し組合員三百五名、出資口數五百二口(一口貳拾圓)を以て信用部單營の事業を開始した翌年更らに購買部事業を兼營昭和六年より販賣部事業を開設せる外農業倉庫も大正六年十二月以來經營して一般組合員の便益に資して居る。

殊に同組合の特異とするものに減債貯金と名付くる貸付金回收方法がある一回五拾錢以上の貯金を以て借入額に達するまで繼續せしめ簡易に返済し得る効果的便法である又組合員は農會と協力して其生産物販賣に利用し揭示場を村内十ヶ所

| | |
|------|-------|
| 専務理事 | 遠山長治 |
| 理事 | 西山彌三郎 |
| 同 | 横田加壽一 |
| 同 | 森塚茂太郎 |
| 監事 | 武内憲三 |
| 同 | 谷口今治 |

に設置して組合の状況を告知し購買部は組合員の希望により物品を配給し組合員死去の時は組合より弔意を表して會葬香奠を贈る等産業組合主義の高揚に努めて居るが組合に對する信頼の念愈々濃やかにして戸數四百四十戸中殆ど悉く加入せるの徹底振りである。

かくて昭和七年度末の事業状況に於ても組合員數三百八十一名、出資口數五百三十三口貸付金七萬壹千九百九拾貳圓、ら金拾壹萬七千四百八拾貳圓準備金九百七拾壹圓、特別積立金百五拾壹圓、購買部賣却高四萬壹千六百六拾圓、販賣高八千八拾六圓、農業倉庫入庫數八千二百八十二俵の好績を示してゐる。現役員は左記の諸氏である。

| | |
|-------|--------|
| 組合長理事 | 大西英一 |
| 理事 | 西山久雄 |
| 同 | 大西唯一 |
| 同 | 大西桑太郎 |
| 同 | 大西利吉 |
| 同 | 氏家兼太郎 |
| 同 | 氏家與三郎 |
| 同 | 山内嘉藤太郎 |
| 同 | 宮内桐太郎 |

| | |
|----|-------|
| 同 | 森德治 |
| 監事 | 永原時太郎 |
| 同 | 氏家茂次郎 |
| 同 | 安川淺一郎 |
| 同 | 安部利章 |

琴平信用購買利用組合

琴平信用購買利用組合は大正十年十月一日琴平土產物業者信用購買組合の名稱のもとに創立しこの背景をなす神郡琴平町は人口七千人戸數約二千戸にして土讚線各社電鐵等交通機關は錯交終點を爲すが必然仲多度綾歌三豊の一部を擁する經濟的衝地をも形成して居る。

かくて毎年三百萬人の養客を吞吐する同町は旅館、飲食店土產物店櫛比してそれ等業者の發展は縣下他に類例なく從つてこの斯業者間に産業組合を組織すべくその聲は夙に叫ばれて居たのである。爰に大正十年十月一日土產物業者中の有志數十名發起となり土產物信用購買組合を設立し、鈴木憲三氏組合長に就任二百餘名の組合員を得て事務所を同町本町十七

番地に置き事業を開始した。

而もその當初は經營意の如くならず組合長を初め役員苦心は筆舌にも盡きざるものゝその中に組合事業の理解徹底は漸時業績あがり接客業者以外の加入者も來り参じ遂に大正十二年三月十七日現在の如く琴平信用購買利用組合と改稱し區域を琴平町一圓及び榎井村字横瀬に擴張今日に至つた。

その間琴平銀行の破産を初め幾多の苦難に遭遇しつゝ、一路共存共榮の理想を實現に邁進し大正十五年三月廿九日現在の場所七百九十四番地に事務所を新築移轉し以來その活躍は愈々本格的にして躍進又目ざましきものであつた。

今や同組合は擴充五ヶ年計畫を樹立し更に一層の發展充實を期して努力してゐるが昭和七年末に於ける組合員は四百十四名出資口數一千百十一口(一口參拾圓)貸付金九萬七千五百六拾七圓、定期貯金拾參萬九千貳百參拾參圓、當座貯金貳千五百圓、小口貯金參萬八千七圓、定額貯金四萬四千百拾八圓準備金六千百參拾貳圓、特別積立金壹千參百四拾貳圓、購買高五萬五千八百拾五圓、利用高壹千四百六拾五圓の業績を示し縣下組合中錚々たる業績を示して居る。因みに現在の役員は左の諸氏である。

| | |
|------|-------|
| 組合長 | 鈴木憲三 |
| 専務理事 | 前田熊吉 |
| 同 | 臼杵政太郎 |
| 同 | 山田爲三郎 |
| 同 | 細川元次 |
| 同 | 崎馬太郎 |
| 同 | 平田次郎 |
| 同 | 平田元次郎 |
| 同 | 増田伊吉 |
| 同 | 鈴木信太郎 |
| 同 | 橋嘉市 |
| 同 | 安達正 |
| 同 | 三德彌太郎 |

高篠信用購買利用組合

仲多度郡高篠村高篠信用購買販賣利用組合は明治四十四年八月八日の創立にして爾來同村民共存共榮の趣旨の下に村内唯一の金融機關となつてゐた然るに昭和五年末不測の蹉跌を

招来したが各役員の犠牲的努力に依つて辛じて窮地を脱し以
來自力更生の眞劍溢る、精進裡に村民の支持をかち得て今や
着々光明の彼岸に近づきつゝある。

尙貯金者も年毎に増加を見更に組合活用を意欲して近くは
農業倉庫も計劃して居る。而て最近の加入者数は四百二十名
出資總額六千拾圓、積立金貳千七百拾貳圓、貯金六萬四千圓
貸付七萬五千參百八拾五圓、共同購買費萬九千貳百五拾壹圓
を示してゐる。因みに現在の役員は左の通り。

- | | | |
|----|----|--------|
| 代表 | 理事 | 岸村 森太郎 |
| 理事 | 事 | 篠原 和七 |
| 同 | 同 | 田中 忠太郎 |
| 同 | 同 | 富田 多藏 |
| 同 | 同 | 古市 房太郎 |
| 同 | 同 | 多田 和助 |
| 同 | 同 | 渡邊 主馬八 |
| 同 | 同 | 本田 喜惣次 |
| 同 | 同 | 古川 祐太郎 |
| 同 | 同 | 田中 正義 |
| 同 | 同 | 平田 喜代次 |

四條村信用購買組合

四條村信用購買販賣利用組合は明治四十五年五月十三日四
條村信用購買組合の名稱の下に創立大西純一氏組合長に就任
し組合員百二十二名、出資口數二百三十五口を以て信用購買
事業を開始した。

爾來逐年進境を示して大正七年十二月倉庫業を開始し精米
部及び倉庫部の兩面に互り活躍を続け同十一年五月廿四日四
條村信用購買販賣利用組合と改稱して今日に至つてゐる。そ
の間大正七年十一月縣支會より優良組合として表彰され組合
幹部並に組合員の面目も光彩陸離たるものである。

昭和七年末に於ける事業状態を見るに組合員三百二十九名
出資口數六百六十六口、貸付金五萬參百拾圓、貯金九萬
四千貳百參拾參圓、組合員外貯金貳萬七千參百六十五圓準備
金貳萬貳千參百九拾參圓、特別積立金貳千八百拾四圓、販賣
利益金百六拾四圓、購買利益金壹千六百五拾貳圓、利用料壹
千四百拾參圓、倉庫部入庫數米四千九百三十三俵、裸麥五千
六百依小麦四千八百依、精米部米二千依、麥二千八百依の大

活況を示してゐる。

更に同組合では昭和八年度よりの新事業として農會と協力
し吠の共同作業場を新築して生産及び販賣を斡旋すべく計畫
中である。因みに現在の役員は左の諸氏である。

- | | | |
|-----|----|--------|
| 組合長 | 理事 | 大西 精一 |
| 理事 | 事 | 杉野 菊次 |
| 同 | 同 | 東條 吟次郎 |
| 同 | 同 | 關友 市郎 |
| 同 | 同 | 堀下 政五郎 |
| 同 | 同 | 杉上 助三郎 |
| 同 | 同 | 上原 政市 |
| 同 | 同 | 大西 文雄 |

吉野信用購買販賣組合

吉野信用購買販賣利用組合は大正二年五月二十一日の創立
安達熊次郎氏初代組合長となり組合員六十一名、出資口數二
百六十四口を以て事務所を同村役場内に置き信用部單營の事
業を開始した。

以來飛躍發展を重ねて大正十年五月購買販賣部及び利用部
を新設し同時に民家を借り入れ農業倉庫をも開始した。現在
に於いては信用購買、農業倉庫を主として活躍してゐるが昭
和三年二棟百八十坪の倉庫を琴平町に新設し好績を擧げその
昭和七年末の業況に於ても貸付金六萬壹千貳百五拾貳圓、貯
金八萬七千參拾參圓、準備金五千參百圓、特別積立金壹千
圓、購買部利益金壹千九拾七圓に達してゐる現在の役員は
左の諸氏である。

- | | |
|----|--------|
| 理事 | 安達 建賢 |
| 同 | 齋藤 治雄 |
| 同 | 鈴木 宇三郎 |
| 同 | 黒木 五百枝 |
| 同 | 天米 精一 |
| 同 | 齋藤 忠太 |
| 同 | 黒木 潔矩 |

神野村信用購買販賣組合

仲多度郡神野村信用購買販賣利用組合は大正十五年一月十

解々消と熱誠を加へて其施設事業も逐年進捗し又一面には極力堅實主義を採つて邁進したれば總て組合の利用も加速的に増加し大正十二年末の成績は三豊郡組合中の首位に立ち爰に其基礎は築かれて昭和二年六月縣支會より表彰さるゝに至つた。

而て此組合にして異色とする所は組合員又は家族中に出生ある場合は祝意を表して金三十錢記入の教育貯金通帳を贈り爾後毎月五錢以上の金額を積立しめ男子は徴兵適齡まで女子は結婚まで据置くのである又昭和三年度よりは就學兒童に對しても同様の金額を贈り貯蓄を奨励し。更に組合員の死亡の際には悔として金五拾錢を贈り弔意を表す會葬には組合長又は其の代理者必ず参列し組合員の出漁中難破遭難等の時も其の都度臨機の救済をしてゐる。

この外貯金方法中特異的な日掛貯金もあり之は毎日一口十錢を單位として滿三ヶ年間掛込み滿期後元利金の拂渡しをなす方法で他組合には類少き貯蓄法である。なほその他教育貯金、函貯金、特別貯金等もある。また經營に常任理事及び當番監事制を設置して組合の統制を圖る等萬全的なる機能を發動は昭和七年末に於ては其組合員數一千九百十名、出資口數

九千五百八十九口に達し出資金額九萬五千八百九拾圓、拂込濟出資金八萬九千七百九拾五圓、諸積立金七萬八千五百圓、借入金拾貳萬圓、貯金百六拾壹萬參千圓、貸付金百四拾貳萬八千圓、剩餘金壹萬九千六百圓を示してゐる、尙最近組合は一般組合員の要望に由つて手形の割引及一般的預金の取扱をなす事になつたが其現實内容と共に道が西讃の中心的生产の町の時代的生彩として注目に値するものである。因みに現在の役員は左の諸氏である。

| | |
|-------|--------|
| 組合長理事 | 齋藤 楠馬 |
| 理事 | 西川 友次郎 |
| 同 | 高辻 健太郎 |
| 同 | 津田 清太郎 |
| 同 | 宮本 秋四郎 |
| 同 | 中山 卯三郎 |
| 同 | 片山 松太郎 |
| 同 | 大西 兼美 |
| 同 | 坂田 龜吉 |
| 同 | 化野 倉二郎 |
| 同 | 三宅 徳次郎 |
| 同 | 寶積 義愛 |

| | |
|----|--------|
| 監事 | 藤原 千代松 |
| 同 | 藤原 房吉 |
| 同 | 眞鍋 才太郎 |
| 同 | 大西 衆一 |
| 同 | 高橋 春太郎 |
| 同 | 高田 久吉 |
| 同 | 澁谷 米太郎 |
| 同 | 白井 淺吉 |

縣下隨一として謳はれ縣下四大倉庫として農林省の指定下に政府買上米の保管を托されてゐる。なほ昭和七年度末に於ける概況は組合員數六十九名、出資口數五百口、出資金貳萬五千圓、諸積立金壹千圓、入庫數玄米二萬八千三百三十俵、小麥一萬二千一百一十一俵、裸麥二萬二千六百六十四俵、證券發行數玄米一萬六千八百八十五、小麥八千九百四十五、裸麥一萬七千九百五十一保管料四千九百七十一圓にして縣下四大農倉の一たる實勢にして同年度に於ける販賣數量も三萬六千俵を計上し、その多くは大阪宇品の兩糧秣支廠に直賣して居るが何れも婦々たる業績と謂ふべきである。現在の役員は左の諸氏である。

| | |
|-------|--------|
| 組合長理事 | 請川 奎治 |
| 理事 | 浮田 秀太郎 |
| 同 | 宮本 秋四郎 |
| 同 | 大西 甚五郎 |
| 同 | 大西 龍平 |
| 同 | 安藤 家隆 |
| 同 | 三木 猛一 |
| 同 | 高橋 式三郎 |
| 同 | 伊藤 正史 |

販賣利用組合觀音寺倉庫

販賣利用組合觀音寺倉庫は昭和四年二月八日の創立にして由來觀音寺町は三豊郡の中心的地勢の下に各種物資の集散地として其利用取引は盛況を極めて居る。

同倉庫は大正八年社團法人觀音寺農業倉庫として設置以來經營し來つたが産業組合法によるの利便を認めて組織を變更し現在の名稱に改めた其後年次に成績をあげつゝ昭和七年に至るや飛躍倉庫を増築して全收容力三萬二千俵百坪の煉瓦造モダン倉庫の竣工も見したのである。かくて貯藏設備の完璧は

同 松浦熊吉

豊濱町信用購買組合

豊濱町信用購買販賣利用組合は大正十四年の創立である。これより先現組合長白井光次郎氏は夙に同町進展の軌道として一般金融とそれに産業開發機關として産業組合法に準據する組合設置の必要を痛感しまづ同町有志に謀つたが忽ちにして多數の賛同あり茲に同氏自ら發起人として組合員二百八十六名、出資口數三千四百二十二口(一口拾圓)を以て全町の共鳴裡に事業を開始した。

爾來白井氏は終始一貫組合長としての激務に全能を委ね逐年隆盛に導きつゝあり。數年前より五分配當をなし得るの業績を擧げてゐるが現在の事業は信用部と農業倉庫に主力を注入して居る昭和七年度に於ける概況を見るに組合員數三百九十九名、出資口數三千九百十三口、貸付金拾參萬五千貳百八拾圓、貯金貳拾壹萬九千圓、出資金參萬九千百參拾圓、準備金五千九百七拾參圓、特別積立金六千圓、倉庫部積立金貳萬

五千圓の活況を示し、それが貯金の獎勵方法としては月掛及び日掛の契約貯金と納税貯金等の特異的なるものがあり町勢の發展と共に一層の飛躍進展が期せられて居る。尙現在の役員は左の諸氏である。

| | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 白川光次郎 |
| 理事 | 平井彌裕 |
| 同 | 片木四郎平 |
| 同 | 大久保克己 |
| 同 | 大久保精一 |
| 監事 | 合同孫六 |
| 同 | 藤村猛 |
| 同 | 合田恒三 |

笠田村信用購買組合

有限責任笠田村信用購買販賣利用組合は大正二年六月二十日創立し同村一圓を區域とする縣下屈指の優良産業組合である。由來笠田村は三豊郡の中央位にあり東西二十五町、南北二十町地勢概ね平坦にして戸數四百四十餘戸、人口二千三百

餘人耕地二百五町畑五町、山林六十町を有し村民殆ど農業に従事する純農村であるが村内に銀行、郵便局等の金融機關一切なく人情質朴勤勉ながら爰に貯蓄觀念に乏しく一朝資金の必要迫りたる場合には村内或ひは他村の個人間に於て一割二三分の高利融通を受ける外は頼母子講を以つて唯一の金融機關とするの状態であつた。

従つて其の數は逐年増加し同組合設立前には村内に八十を數ふる頼母子講は簇生しその濫設の結果毎次の掛戻金に窮し倒産者相次ぐの慘狀をも眼の邊りし、一方農産物の販賣及び肥料の購入の如きも何等の統制なく資金なき農家は常に商店より掛買により一時を凌ぎその決済は米麥の收穫期に於ける相殺的の引渡強要となり徒らに地方仲買人、小賣商人の懐を肥すのみにして従つて村内の産業振はず。かくて時代と共に醇朴なる農村の前途も實に暗澹たるものを想見されて居たのである。

斯て偶々郡當局から産業組合設立の意趣に接した當時の村長島取柔三郎氏はこれ同村として起死回生に唯一の救世策なるを悟り村内有志に相諮り直ちに組合設立の準備に着手し遂に大正二年六月二十日これを設立信用單營の事業を開始し

た。

爾來その躍進は眼覺しく大正八年には農業倉庫百坪を建築して米麥の保管と共同販賣事業を開始大正十年購買事業を兼營して肥料及び日用經濟品の取扱ひを開始し同十一年頃の販賣に着手同十四年利用部に於て精穀事業を開始し翌十五年より鶏卵の買取り販賣に着手昭和二年より繭の販賣同五年より葬具興を設備し更らに六年には鶏、蔬菜、果實の出荷販賣を開始する等年と共に事業分量は擴充の一方を辿つた。しかもその間には理解に乏しき組合員の指導統制に或ひは商人の反對競争等幾多の難關に逢着しつゝも熱誠なる役員と努力と多數組合員の支持は遂に今日の盛況を招來するに至つた。

今同組合の業況として昭和七年十二月末現在に於ける組合活動状況を擧ぐれば組合員數四百四十七人、出資口數九百七十七口、出資總額壹萬九千五百四拾圓、諸積立金參萬貳千貳百八拾八圓、貯金參拾五萬七千五百五拾壹圓、貸付金拾四萬四千九百拾壹圓、購買品販賣却高五萬四千五百九拾九圓、販賣品販賣高拾貳萬貳千六百貳拾圓、精米三千三百九十三俵、精麥一千六百七十二俵、拉麥九千四十五俵、葬具使用回数二十八回等の潑刺たる數字を示し貯金の如きは一戸當り約八百圓を保有

し村内生産物の販賣、物資の購入等總て同村産業經濟の中心機關として所謂一村一團の組合組織の確立を見て居る。

また昭和八年一月參千五百圓を投じてトラクタ一臺を購入同年度よりトマトチャップの製造を開始するため加工場を建築完整したが、この超俗的躍進擴充一往く同組合に對して大正十年三豊郡長より表彰あり同十一年香川縣支會長より表彰十四年産業組合中央會より表彰、昭和六年重ねて中央會より特別表彰、恩賜財産特別獎勵金貳百五十拾圓の拜受等其榮光は愈々同組合をして理想の社會の重要機關たる面目を擔はしめたのである。

この光彩を加へた組合ではその協力と努力の名譽を永遠に記念せんがため同年九月工費約壹萬圓を投じて約二百坪の記念館建築に着手、昭和七年三月竣工したが同館は平常は小學校の講堂として使用せしめ機會ある毎に講演會、講習會、活動寫眞會等を開催し公民教育施設の一助とし尙將來は結婚式場その他各種の會合にも充てる事になつて居る更に同組合の誇るに足る特殊施設として

- 一、小作米の委託徴收である。
- 方法は小作料全額徴收(端米込)と丸俵のみの二種とし全

額徴收は一石につき五升丸俵は一俵に一錢の手數料を徴收し小作者より小作米を受取ると同時に小作米受領書を發行し小作者は此の受領書を地主の宅へ持參し端米の精算をするのである。

二、購買部肥料、學校用品の取扱ひ方。

少量の各種肥料は常に用意し季節的の大量仕入れは其の都度世話係協議會を開き農會副會長、技術員臨席熟議の上購入の種類時期を決定して世話係は各戸につき申込みをとり纏めて組合へ報告する。また學校用品は從來一般日用品と同様に取扱うてゐたが昭和七年十一月より小學校に模倣産業組合を設立し其の取扱品の仕入れ全部を組合に於て爲し販賣記帳整理等は生徒及び教員の役員が當つてゐる。

三、金庫室

構造は一間四方防火的土蔵造りのもので金庫及び帳簿書類等を保管してゐる。

四、精穀事業

五、馬力の電動機一臺、磨擦精米機二臺、精穀機三臺、拉麥機一臺、製粉機一臺、粉碎機一臺大豆粕切一臺を設けて米麥の精白、魚粕、大豆粕、苞米、高粱、カキ殻飼料の粉

碎をする。

斯くの如く最も合理的産業組合の諸機能を發揮せる同組合は各方面の絶讃を浴びつゝ感謝勤勞向上の三則を組合是となしより善き理想郷建設に孜々として精進を續けて居るが八年四月にはこの異常な好成绩に徴し全國的の模範組合として表彰されたのである。因みに現在の役員は左の諸氏である。

| | |
|------|-------|
| 組合長 | 鳥取爲三郎 |
| 専務理事 | 大西榮吉 |
| 理事 | 池田光三郎 |
| 同 | 成木嘉吉 |
| 同 | 藤目喜代造 |
| 同 | 平尾甚平 |
| 監事 | 高橋米太郎 |
| 同 | 細川佐源太 |
| 同 | 千秋虎太郎 |
| 同 | 關政助 |

和田村産業組合

三豊郡和田村産業組合は大正十二年六月三十日の創立であ

る。由來同村は農業、漁業、工業の三地帯に區分され組合員の統制困難にしてその間役員苦心また少からざるものがあった。

事業開始當時に於ける組合長及び専務理事の經營方針はその有機的活動に就て自ら相當の自信を持つまでは徒らに組合加入又は貯金等の勧誘を避け役員の人格を陶冶し村民の組合に對する信頼を獲得することを第一務としたのであるかくて鋭意内省的事業經營に腐心した結果組合員は加速的に増加を見大正十四年に至るや加入者六百名を突破するの盛況を示したのである。

而して同組合は先づ販賣部の事業より開始し組合員の製産せる乾うどん、焚砂糖を岡山、廣島、愛媛の諸縣の有力産業組合に向つて通信販賣を行つた。他方購買事業としては醤油酒、木炭、石炭等を組合にて直接仕入れ村内の信用ある小賣商店を指定して販賣せしめ更らに大正十五年には農産物加工事業を起すべく一農家の小納家を借り受けて醬油の試験的醸造に着手したが豫想以上の成績を収めたかくて翌年には百餘坪のバラック建倉庫を設けて一般農家の委託醸造を始め更らに本來の目的に邁進すべく意したが爰に果然地方醸造家との

さきに大正十年三月二十八日三豊郡長より表彰を受け翌十二年五月二十六日香川縣支會より表彰され又昭和六年五月九日産業組合中央會頭より表彰を受くる等その光彩は斷然陸陸たるものあり尙これに功勞切なる組長福岡一郎氏も大正十二年及び十四年三豊郡長並に中央會縣支會より表彰され面目を施して居るが今や同組合は戸數五百八十餘戸中組合員數五百八十七人出資金壹萬五千圓にして全村全組合員にしてその基礎又磐石不動を建立して居る。

昭和七年度末に於ける業況は貯金拾七萬六千五百六拾六圓貸付金拾貳萬壹千六百八拾九圓購買品參千拾壹圓販賣品參百九拾八圓準備金壹萬五拾圓の巨數を示してゐる而して貯金中異色とすべきものに消費節約貯金、三デー貯金、奉公貯金等あり消費節約貯金はその主旨に基き永久に貯金を繼續實施し組合員は毎月參拾錢以上の貯金をなすべき義務を有すとなし三デー貯金は毎月上旬を酒ナシデー中旬を禁煙デー下旬を菓子ナシデーとして節約し金額を一口壹圓四拾錢掛として五ヶ年満期にして百圓を拂戻す方法で又奉公貯金は在郷軍人分會員が有事の際に對する特別貯金である。

この外定期當座出産記念組合擴張記念据置御成婚記念學童

定額の諸貯金もあり据置三デー組合擴張消費節約貯金に限つて外勤員が毎日集金に出張してゐる。尙購買部は産業用品に主力を注ぎ經濟用品は季節に共同購入をして居る而してこれ等は各部落の世話役と連絡も密に萬遺漏なきを期して居るが更に家庭用藥に就ては確實な種別を撰定し組合より各戸に配給しつゝある。

又販賣部は米穀生繭鶏卵産の販賣取扱にして概ね競争入札に依つて處理しつゝあり何れも巨額に達して居る利用部は何處も同じ收穫用、大豆粕粉砕、水揚ポンプ等々發動機の利用であつてこの外葬具の貸與等は費用と努力に時間も極めて經濟的に利用されて居る尙爰に特筆すべきは醫療所にして村内に醫院なく醫療の不便に因つて創設された劃機的機關としてその寄與は多大である。

尙農業倉庫は收容力約一萬依にして年次活用の尺度を高めつゝ發展しこの外雜誌購讀部、部落懇談會、産業組合青年の養成又敬老會各種品評會を隨時に開催して居るが更らに將來の理想として貯金の増成精穀事業乾繭貯繭鶏卵と飼料の購販育英基金の蓄積圖書設備産業組合婦人會の結成自作農等農村生活の全部面に一層の活躍擴充を期して居る。

上高瀬村は同村を貫流してゐる高瀬川が古來幾度か繰り返す氾濫によつて村民の粒々辛苦の收穫物を奪はれ明治末年ごろに於ける村内の疲弊はその極に達してゐた。此處に當時同

上高瀬信用販賣利用組合

| | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 福岡一郎 |
| 理事 | 小野岩夫 |
| 同 | 石井計之祐 |
| 同 | 藤井増吉 |
| 同 | 蔦田常太郎 |
| 同 | 琢磨珍彦 |
| 監事 | 小川三勝 |
| 同 | 丸田博弼 |
| 同 | 杉山仍一 |

これ等は聞くだに快き社會ニュースにして組合長以下幹部にその人あり組員一同の協力を合せたこの偉大な実績は産業組合時代とも謂ふべき現時及び將來に處して明瞭にして確たる進路を示すものであり且本縣産業組合史上燦然以つて飾るべき業績とはするものである尙現在の役員は左の諸氏である

村小學校々長たりし小山久吉氏は日夜村勢の振興を念じて心膽を碎いて居たが種々考究の結果産業組合の設立こそ同村唯一の濟世策たることに想到して村内有志と相謀り先づ第一歩として村内の一部落を區域とする信用部單營の新名信用組合を設立し組合員八十五名、出資口數千七百六十六口（一口參拾圓）を得て事業を開始した。時は明治四十四年一月十九日であつた。

而て小山氏は教育家として事業の表面に立つ能はざれば第一期は山下吉三郎氏を第二期は藤田武雄氏を組合長に推し氏はその蔭の人として活躍してゐたが大正四年以來同氏自ら組合長として陣頭に立ち事務所も自宅に置き教鞭を採り任を果しつ其側ら早晨と深更の兩面繁務に没頭した。殊に氏は事務所に用ふる薪炭の如き費消品の一切まで自辨する文字通りの獻身的努力を以て組合發展否村勢充實に一意邁進した。

かくてこの精進を続ける事十有七年この間幾度か非難と困苦の嵐に襲はれたが同氏の確固不拔の信念と努力は年と共に組合員を初め村民の感激と信望を集めて組合は隆々たる躍進を續けた大正十三年には購買販賣利用部を新設して區域を全村に擴張して稱名も現在の如く改稱し更らに昭和二年に至る

や組合設立後十七年目にして元山陽銀行出張所の事務所附属建物五棟及び舊農業倉庫五棟、建坪四百十三坪敷地八百二十九坪を買収して現在の場所に移轉勢張するに至つたが正に旭日昇天の業況にして今日の發展擴充そのものである。

昭和七年度末に於ける概況に於ても組合員數六百七十二名出資口數三千四百七十七口、貸付金參拾參萬七千五百九拾八圓貯金拾六萬壹千九百八拾壹圓、組合員外貯金拾參萬七千四百八圓、準備金及各種積立金貳萬八千五百參拾壹圓、農業倉庫純益參千五百六拾九圓の巨數を示してゐるがこの赫々たる業績を示現せしめた最大功勞者小山久吉氏は他に組合製糸を経營し晝これに勤め夜間本組合の統理に當りつゝありこの建設的益世的偉材に昭和四年同村々長は感謝狀を進せしを初めとして同年縣農業倉庫聯合會より感謝狀を昭和五年四月産業組合中央會香川縣支部より表彰狀を更らに昭和七年四月中央會々頭より綵綬功勞章を下附される等その榮光は實に燦々たるものがある。因みに現在の役員は左記の諸氏である。

- 組合長 小山久吉
- 理事 藤森藤太
- 同 諛間季治
- 同 安藤熊太郎

- 同 眞鍋竹治
- 同 眞山熊之助
- 同 戸城福一
- 同 白井康
- 同 安藤善助
- 同 政本義一
- 同 田岡福一
- 同 前川定次
- 同 安藤次

勝間信用購買販賣組合

三豊郡勝間信用購買販賣組合は純農村勝間村一圓を區域として明治四十四年二月六日創立した當時の組合員數は四百十六名にして組合長に矢野芳隆氏、専務理事に豊島藤三郎氏就任外に理事五名監事三名全十名の役員を以て事業に着手したが未だ一般村民の組合に對する理解乏しく脱退者相次ぐの情勢にして貯金貸付固より意の如くならずその間の苦心は言語に絶するものであつた。

立金壹萬五千四百拾貳圓といふ盛況を示して居る。尙現在の役員は左記の諸氏である。

- 組合長 前田萬太郎
- 専務理事 豊島權七
- 常任理事 岡田嘉幸
- 理事 矢野傳一
- 同 米谷源造
- 同 香川常治
- 同 安藤此八
- 同 豊島宇三郎
- 同 後藤信敬
- 同 前田常吉

諛間信用組合

諛間信用組合は大正二年三月同村松田友良氏創立委員長となり創設に着手し組合員二百八十三名、出資口數三百六十二口(一口五圓)を得て事業を開始した而も當時は組合の趣旨未だ徹底せず業績又不振の中に幹部の不撓の努力は漸次業礎を築きつゝあつた。時に大正九年ごろ財界變動旋風の如く起り

第一回總會後矢野氏組合長を辭するや理事前田萬太郎氏代つて組合長となり豊島藤三郎氏と共に實務に盡瘁したが大正八年豊島氏死去の後をうけて岡田定彦氏専務理事となり組合長を補佐して組合員の統制その他事業の發展に銳意し此結果大正十五年には貸付金八萬餘圓、貯金七萬餘圓に達し更らに昭和三年度には貸付金拾壹萬餘圓、貯金拾萬餘圓に及び準備積立金壹萬參千五百圓を計上組合員數も三百九十名に増加を見た同年岡田氏死去後専務理事豊島權七氏は爾來打續く經濟界の不況にも善處して漸次健全なる發達を遂げつゝ組合員も逐次組合に對する理解を深め昭和五年度には組合員數四百四十名を數へ更らに昭和六年度には購買販賣部を新設し岡田嘉幸氏常任理事に就任して組合の活動機構を備ふと共に事業又日進月歩の躍進を見た今や組合員總數四百六十二名、全村戸數の約七割に及び出資總額貳千八百參拾圓に對し諸積立金貳萬貳千餘圓の巨額に達してゐる。

而して現組合長前田萬太郎氏は就職以來二十有餘年の長歲月に亘り高齡尙壯者を凌ぐ活動奮身的努力を續けてゐるが昭和七年度に於ける業績は貸付金九萬七千五百九拾四圓。貯金拾壹萬四千五百貳拾五圓、準備金六千七百六拾六圓、特別積

同 藤 田 林 治
 同 白 川 千代太郎
 同 田 井 一 彦
 同 安 藤 智

百四拾參圓の稀れに見る大活況を示してゐる。現役員は左の諸氏である。

一谷信用購買販賣組合

一谷信用購買販賣利用組合はさきに明治四十四年創設されし信用購買販賣組合を大正十四年一旦解散し同年五月更めて再建に着手し組合員百十六人、出資口數二百五十口（一口貳拾圓）を得て信用購買事業を開始した。これ現在の一谷信用購買販賣利用組合である。

爾來年と共に利用部の兼營など村民大衆の便益と共存共榮の理想境に躍進を期して着々進展の跡を見せつゝ、現在に至つて居る昭和七年度に於ける組合の概況は貸付金拾壹萬壹千八百八拾五圓、貯金組合員貳萬五千貳百五拾圓、組合員外五萬五千參百貳拾七圓、準備金五千圓、特別積立金四千貳百貳拾八圓、建築準備積立金參千四百八拾七圓、購買品賣却高六千七

組合長理事
 事 大 森 東 三 郎
 香 川 啓 作
 岩 本 磯 治
 大 西 小 三 郎
 細 川 良 助
 小 西 大 三 郎
 細 川 喜 三 郎
 德 永 荒 太 郎
 高 橋 長 太 郎
 篠 原 豊 彦
 石 川 新 太 郎

本山生産販賣組合

本山生産販賣組合は大正十年五月二宮、上高瀬、笠田、比二大、桑山、常磐、一谷、本山の八ヶ村長發起となり創立、組合長に矢野千馬太郎氏就任し組合員六百二十二名、出資口數一千二百七十八口を得て生産米麥藪の委託販賣を開始し

同 大 西 榮 吉
 同 神 原 伴 造
 同 田 井 甚 五 郎
 同 中 野 樑 太 郎
 同 秋 山 孝 平
 同 西 谷 藤 七
 同 森 川 定 吉
 同 今 川 友 太 郎
 同 篠 原 友 太 郎
 同 川 上 象 輔

桑山信用購買販賣組合

桑山信用購買販賣組合は明治四十三年四月一日の創立にして矢野英憲氏組合長に就任し組合員三百七十八名出資口數六百一口（一口拾圓）を得て信用部單營のもとに事業を開始したが爾來躍進を重ねつゝ大正十四年購買販賣部を兼營し名稱を現在の如く改めた。

昭和五年に至り購買販賣部を一時休止し農會に委託して信

組合長理事
 事 大 江 善 右 衛 門
 同 田 淵 箭 太 郎
 同 三 郎 兼 彦
 同 高 野 長 太 郎
 同 萩 田 長 治
 同 關 亘
 同 鳥 取 爲 三 郎

た。
 今や百三十坪の大倉庫二棟を有し丸龜市、多度津町、觀音寺町、白方村等の間屋を経て更らに他府縣へも大量販賣を行ひつゝあり、昭和九年度より更らに精穀部を開營し精穀を阪神、和歌山縣へ輸出する計畫もある。
 昭和七年度に於ける業態を見るに組合員數六百四十二人出資口數一千二百七十三口、貸付金七萬九拾六圓、準備金參千五百七拾貳圓、特別積立金壹千六百拾九圓、保管料壹千貳百六拾七圓、玄米入庫數八千四百四十二俵、出庫數八千六百八十三俵、小麥入庫數二千五百五俵、出庫數三千五百七十三裸、裸麥入庫七千四百四十二俵、出庫數六千二百九十五俵、繭入庫數五千五百二十貫、出庫數六千九百二十貫を示上してゐる尙役員は左の諸氏である。

用部の一途に主力を集注してゐたが昭和八年四月より再びこれを開始し又同組合獨特の鶏卵共同處理場をも新築して同事業の發達を期してゐる。

尙九年度よりは更らに利用部を開始する計畫もありかつて同組合は翠平銀行破産によつて受けし瘡痍もこれを年次に剩餘金を以て補填し遂に完了したが又昭和六年末の如きは中央金庫よりの借入金參萬壹千圓を一時に仕拂ふ如き其堅實なる内容と綽々たる餘裕の程こそ窺はれる。

斯て大正四年三月十日には郡長より大正六年五月十九日には香川縣支會より表彰される等誇る業況の下に昭和七年末の事業狀況も貸付金拾壹萬七千八百八圓、組合員貯金五萬五千七百八拾六圓、組合員外貯金七萬參千五拾四圓、準備金壹萬七千六百六拾壹圓を示してゐる現役員は左記の諸氏である。

- 組合長 宇川 虎雄
理事 田淵 箭太郎
砂 留 近 治
石 井 八 十 一
大 森 彌 八
矢 野 庄 九 郎
矢 野 秀 太

- 同 同 同 同 同 同 同 同
事
西 谷 藤 七
瀧 本 勝 治
齋 藤 武 七
岡 子 卯 市
岩 田 荒 太 郎
加 藤 松 造
筒 井 長 五 郎

常磐村信用購買利用組合

常磐村信用購買販賣利用組合は大正十五年二月十八日の創立にして高橋式三郎氏組合長に就任組合員三百九十名、出資口數七百七十三口を得て信用部單營の事業を開始した。

爾來躍進昭和四年に至り購買部を兼經糞及び肥料の共同購入を開始昭和六年販賣部を新設して米麥の販賣を斡旋し同年六月十五日更に農業倉庫一棟を新築これを開始した。

昭和七年八月には更らに利用部を兼營して葬具の利用を始め近く精穀部をも開始すべく申請中にしてなほこの外將來の計畫として肥料の統制を圖る外負債貯金、學童貯金の獎勵販

賣事業の發達を期して居る。

昭和七年度に於ける組合概況は組合員數四百十八人、出資口數八百口、貸付金七萬參千參百貳拾五圓貯金九萬參千四百八拾五圓、準備金貳千八百六圓、農業倉庫收入百九拾參圓、購買益金參百貳拾五圓を計示して居る。尙現役員は左記の諸氏である。

- 組合長理事 高橋 式三郎
理 事 安 藤 家 隆
同 三 野 兼 彦
同 横 山 濱 吉
同 横 山 嘉 平 太
同 横 山 孝 平
同 長 船 友 次 郎
同 杉 村 貞 彦
同 長 野 鶴 董
同 岡 田 庄 太 郎
同 監 事 小 西 市 郎
同 平 岡 定 吉
同 田 井 孝 行
同 長 船 又 一

高室信用購買利用組合

高室信用購買販賣利用組合は大正十四年三月十七日同村一圓を區域として創立した近藤正直氏初代組合長となり先づ信用購買の二事業を開始したが、從來村内に何等金融機關を有せず農作肥料購入の如きも何等の統制なかりし同村民に對しては特に旱天の冤雲の如き存在を謳はれて爾來飛躍の一路を辿り昭和六年二月には利用部を新設してその形態完備となり愈々本格的活躍を開始した。

而して昭和七年度末の事業概況は組合員四百九十二名出資口數一千四百三十三口(一口貳拾圓)貯金額拾四萬九千參百九拾八圓、貸付金拾四萬四千八百七拾五圓、購買部日用品肥料飼料等の購買高貳萬八千圓、鶏卵販賣高四千五百圓の巨數を計示してゐる。現在の役員は左の諸氏である。

- 組合長 田代 貞雄
理 事 氏 野 直 一
同 藤 原 蔭 次 郎
同 香 川 重 義
同 松 浦 熊 吉

立瀧川靜雄氏初代組合長となり出資口數三千二百口（一口拾圓）を得て信用購買販賣利用部の事業を開始した。

その初期に當つて購買部に於ては肥料の共同購入販賣部は麥稈の共同販賣に主力を傾注して漸次その進展を圖りつゝ昭和四年度に至つて八十坪の農業倉庫一棟を新築し同事業を兼營した。最近に於ては一ヶ年の取扱高米一千二百俵麥八百六十餘俵に上つてゐる昭和七年度に於ける事業状態としても組合員一千八名、出資口數三千三百九十二口（一口拾圓）、貸付金拾貳萬貳百六拾五圓、貯金拾九萬壹千五百圓、準備金九千參百五拾四圓、特別積立金壹千九百六拾圓、購買部參萬參千六拾六圓、販賣部壹千五百貳拾七圓の盛況を示して居る尙同組合は常に消極的堅實主義を以て進み過去に於ても専ら業礎を築くにのみ腐心しつゝ今日に至つたが今後は聊か積極味に飛躍を以し販賣部事業も一段擴張すべく目下準備中である現在の役員は左の通り。

| | | | | |
|-------|--------|--------|--------|---|
| 組合長 | 理事 | 事務 | 理事 | 同 |
| 瀧川 靜雄 | 篠原 要之助 | 守屋 保太郎 | 淺野 九衛門 | |

| | | | | | | | |
|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|---|
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 吉川 薫之 | 合田 重博 | 高城 荒吉 | 尾藤 茂次郎 | 高木 初治 | 中井 虎男 | 福田 源一 | |

萩原村信用購買販賣利用組合

萩原村信用購買販賣利用組合は昭和四年五月二十一日矢野豊八氏等二十數氏創立委員となり協力賛旋の結果創設を見た而して昭和七年十月より事業を開始するの運びに至り先づ同年十月七日より購買部の開始によつて其スタートを切り學生服其の他日用品の購買を斡旋し同年十二月十日より鶏卵の販賣をも併せて開始した。

斯くて同年十月末に於ける組合員數は二百四名口數四百九口となつたが未だ所期には達せずこゝに於て組合長及び事務理事は各戸を訪問熱誠以て加入を勸奨せる結果同年十二月末

に於ては組合員二百七十一名、出資口數五百十二口を得るに至つた。尙組合の役員は左記の諸氏である。

| | | | | | | | | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|---|
| 組合長 | 理事 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 大久保 善吉 | 瀧川 良八 | 清水 茂三 | 岡下 金吉 | 岡田 政吉 | 藤川 倉太郎 | 岡田 清七 | 高丸 武平 | 細井 荒吉 | |

小豆郡

池田町信用購買販賣組合

小豆郡池田町信用購買販賣組合は大正十一年七月三十日の創立當時専らその衝に當りし八木啓次氏組合長に就任し組合

員五百七十名出資口數一千三百二十七口（一口拾圓）を得て信用部單營の事業を開始した。

爾來年と共に躍進して購買部販賣部を新設し其購買事業は今や同村使用購買肥料の七割を農會と協力同組合に於て取扱ふの盛況にある更らに昭和二年七月一日には農業倉庫を開始し小麦素麵等を取扱ひ夫々業績を挙げつゝある、同組合に於て最も異色とするは役員熱心努力を印す各組合員の組合意識にしてことに貸付金の返却方に就ても至極圓滑に行はれ利子の未收入等會つてなく組合との共存觀念を理諒せるは稀れに見る所である。

斯くして昭和三年三月廿七日中央會縣支會より優良組合として表彰されるに至つたが昭和七年創立十周年記念には其出資金一口（拾圓）を現金にて拂戻し他所組合の羨望を爲したこの一事を以ても同組合の良績は窺知さるべく今や組合員は出資をなさずして業容を誇る組合を所有經營せる譯であつて縣下組合中でも輝く異風を誇つて居る、其昭和七年末の現況を見るに組合員七百二十六名貯金參拾六萬八千貳百五拾壹圓、貸付金拾萬九千五百九拾圓、準備金壹萬貳千九百九拾圓、特別積立金貳千五百參拾五圓の盛容を示現して居る。

尙現在の役員は左記の諸氏である。

| | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 高尾藤太郎 |
| 理事 | 萩本清市 |
| 同 | 眞砂員行 |
| 同 | 岡田伊造 |
| 同 | 中塚宮次 |
| 同 | 木村勝治郎 |
| 同 | 野村庄七 |
| 同 | 佐々木幸治 |
| 同 | 中井勘次郎 |
| 同 | 岡本龜吉 |
| 同 | 岡田善一 |
| 同 | 佐々木和 |
| 同 | 市 |

部單營の下に事業を開始した。
爾來躍進を續けて大正九年には購買部利用部を新設次いで大正十三年隣村淵崎村を合せ土淵信用購買利用組合と改稱した。而して購買部は主として豆粕の共同購入にして利用部はその購入せる豆粕を粉末とし分配等に當つて居る。昭和七年度の現況は組合員數七百九十六名、出資口數一千二百十八口、貯金四拾六萬八千六百圓、貸付金拾四萬壹千貳百四拾九圓、準備金及各種積立金貳萬五千貳百貳拾六圓の尅大なる數字を示す盛況にして斯くて大正十三年四月十一日中央會縣支部より表彰された。尙目下農業倉庫の建設準備中にして近く實現せば更に精彩を副へるであらう。現役員は左記の諸氏である。

土淵信用購買組合

小豆郡土淵信用購買利用組合は明治四十三年十二月七日土庄信用組合の名稱を以て創設し大森貞資氏組合長に就任組合員百五十一名、出資口數二百六十五口(一口拾圓)を得て信用

| | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 大森大造 |
| 理事 | 原田茂 |
| 同 | 大原熊吉 |
| 同 | 緒松五郎 |
| 同 | 蓮池房次郎 |
| 同 | 西瀧彦吉 |
| 同 | 濱田松次 |
| 同 | 西口勝太郎 |

四海信用購買組合

有限責任四海信用購買組合は明治四十二年創設當時同村の出身にて小豆郡長たりし森遷氏の發意に因り創設し氏は直に推されて初代の組合長に就任組合員二百十九名、出資口數三百口(一口拾圓)を得て信用單營の事業を開始した。
爾來同氏の献身的努力と組合員の支持に相因つて同組合現在の盛況に至つたがその基礎を築きし森氏の後を承けた現組合長今下重太郎氏も創立當時より同組合の書記として實際的事業遂行に携り次いで理事となり更らに組合長の榮職に就き組合員の信望を一身に集めて著々業績を擧げてゐる。昭和七年度末の業況を示すと信用部は貯金貳拾貳萬五千六百五拾八

| | |
|---|-------|
| 同 | 酒井梅吉 |
| 同 | 岡田儀八 |
| 監 | 笠居百太郎 |
| 同 | 高橋時治 |
| 同 | 高尾久吉 |
| 同 | 三枝秀治 |
| 同 | 笠井傳太 |

大鐸信用購買組合

大鐸信用購買組合は大正十二年三月三十一日の認可申請同年五月二十九日許可を受け佐々木關太郎組合長に就任組合員二百五十三名、出資口數五百二十五口(一口拾圓)を得て先づ信用部單營の事業を開始した。
次いで昭和五年購買部を兼營し肥料、地下足袋、石鹼粉、養鶏飼料等の取扱ひを開始し組合員の福祉に邁つてゐる尙信用部の貯金獎勵方法中異色となすは大正十四年二月より月掛

四、貸付拾九萬五千四百拾八圓、購買部は肥料參千四拾九圓、雜貨七百參拾圓の巨數を擧げて居る。尙現在の役員は

| | |
|-----|-------|
| 組合長 | 今下重太郎 |
| 理事 | 岡田哲道 |
| 同 | 増井治二郎 |
| 同 | 滋田甚太郎 |
| 同 | 石井精一 |
| 同 | 中岡市十郎 |
| 同 | 九富義正 |
| 同 | 中止木會治 |

貯金を設けて一ヶ月拾錢掛三ヶ年満期としてその集金は青年團に委託能率を擧げてゐることである。この同組合が昭和七年度末の業況も組合員數二百九十九名、出資口數五百六十九口、貯金九萬九千八百參拾參圓、貸付金六萬壹千貳百七圓、準備金五千七百六圓、特別積立金四千九拾壹圓を示してゐる。因みに現役員は左の諸氏である。

| | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 太田喜十郎 |
| 専務理事 | 佐々木樂治 |
| 理事 | 佐伯梅二 |
| 同 | 三木駒太郎 |
| 同 | 佐竹幸吉 |
| 監事 | 三浦啓太郎 |
| 同 | 藤原仲藏 |
| 同 | 太田英一 |
| 同 | 羽座重治 |
| 同 | 佐伯辨一 |

北浦信用購買販賣組合

小豆郡北浦信用購買販賣利用組合は大正十年三月卅日同村

三宅繁氏等の努力に依り創設されたが組合員二百八十二名、口數七百三十五口(一口拾圓)を得て信用部單營の下に事業を開始した爾來順調なる成育を遂げて昭和三年二月廿九日現在の名稱に改め購買販賣利用部を新設して此處に組合の整備全く成り今日に及んでゐる。

昭和七年度末に於て組合員數四百三十六名、出資口數一千二百六十九口、貸付金拾四萬壹千六百七拾七圓、貯金拾五萬參千四百圓、準備金七千八百九拾壹圓、特別積立金五千五百參拾壹圓に達してゐるが同組合に於て獎勵せる貯金中特異をなす更生貯金は自力更生的見地より何等拘束される所なく組合員の自由意志として定額も定めずこれを取り扱ひ豫期以上の好成績を擧げてゐる。

また購買部の事業は目下主として肥料の共同購入の外に石鹼運動靴等の購入を斡旋し組合員の便益を圖り昭和七年六月參千圓を投じて事務所を新築完工したが爰に於て村民の金融殿堂は更らにその存在を謳歌されるに至つた。現在の役員は左記の諸氏である。

| | |
|-------|------|
| 組合長理事 | 石床菊二 |
| 理事 | 三宅留吉 |

| | |
|----|-------|
| 同 | 前川角太郎 |
| 同 | 藤本輝二 |
| 同 | 中村正司 |
| 同 | 福原智三 |
| 監事 | 岡原上登 |
| 同 | 黒原長吉 |
| 同 | 藤本濱夫 |
| 同 | 宮本増藏 |

大部村信用購買組合

小豆郡大部村信用購買組合は大正元年八月廿二日の創設同村山本覺治氏等の努力に依り組合員二百四十五名、口數三百二十口(一口五圓)を得て大部村信用組合の名稱のもとに信用部單營の事業を開始した。爾來躍進を重ねて大正十年購買部を兼營し名稱を現在の如く改めて今日に及んでゐる。

而して昭和七年度末に於ける業況は組合員四百六十一名、出資口數七百九十八口貸付金拾九萬六千五百七拾圓、貯金貳拾七萬四千九百參圓、準備金參萬九千五百貳拾四圓、特別積

立金壹萬貳千六百四拾參圓の活況を示して居る。尙現在の役員は左記の諸氏である。

| | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 橋本仁太郎 |
| 理事 | 椎木政平 |
| 同 | 小川竹三郎 |
| 同 | 砂子正藏 |
| 同 | 杉本政助 |
| 同 | 山本長五郎 |
| 監事 | 三浦多藏 |
| 同 | 母倉淺太郎 |
| 同 | 丸西富士助 |
| 同 | 橋本勝太郎 |

二生村信用組合

小豆郡二生村信用組合は大正七年二月廿一日同村八木治良吉氏等の努力により創設組合員百九十九名、出資口數三百三十三口(一口五圓)を得て八木氏組合長就任信用部單營の事業を開始した。

その後昭和六年に至り一口拾圓に変更を見たが同組合は創

立以來絶對に配當を行はず利益金の全部を積立金としてゐる
斯て一口拾圓も事實上準備金を合算して拾七圓七拾錢に達す
る堅實振にして初代組合長八木氏は稀に見る人格者として勤
儉力行献身的努力を以て組合の基礎を確立した功人である現
組合長武部安太郎氏は八木氏の素志を繼承して更らに組合の
進展に全力を傾注し今日に至つて居るがなほ近き將來には販
賣部の事業をも加設すべく準備中である。

昭和七年度末に於ける概況を示すと組合員數三百二名、出
資口數七百三十九口、貯金拾壹萬貳千五百九拾五圓、貸付金
八萬四百拾壹圓、準備金壹萬貳千七百五拾圓、特別積立金八
百六拾圓を示して居る。尙役員は左の諸氏である。

| | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 武部安太郎 |
| 理事 | 大原牛太郎 |
| 同 | 山口幸七 |
| 同 | 岡野喜太郎 |
| 同 | 須佐美熊吉 |
| 同 | 八木村藏 |
| 監事 | 山元彌市 |
| 同 | 三木飾造 |
| 同 | 八木金藏 |

草壁町信用販賣利用組合

草壁町信用販賣利用組合は大正八年一月一日の創立同
村中田延次氏組合長に就任組合員數二百三十名、出資口數五
百五十四口(一口拾圓)を以て信用單營の事業を開始した。

爾來順調なる歩行を續けて昭和二年四月二十一日現在の名
稱に改め購買販賣利用部を兼營内容愈々整備して今日に及ん
で居る現組合長菅豊三郎氏は創立以來の功勞者にして組合員
の信望を集め本縣支會より特に功勞者として表彰されて居る
尙昭和七年度末に於ける事業動態を見るに組合員數五百四十四
名出資口數三千七百七十七口、普通貯金九千貳百七拾五圓定期
貯金貳拾七萬壹千參百八拾貳圓、据置貯金貳萬參千八百七圓
當座貯金貳萬五千貳拾六圓、小口貯金參萬九千四百拾七圓、
積立貯金貳百貳拾五圓、約東貯金壹千六百五拾五圓、家族貯
金壹萬貳千參百拾參圓、行啓記念貯金六千八百貳拾圓定期貯
蓄貯金貳萬七千參拾九圓、團體貯金壹萬參千五百圓特別積
立貯金壹萬參千六百參拾七圓の多彩にわたり、貸付金七萬七
千六百四拾九圓、手形貸付金拾萬貳千九百六拾六圓、準備金

及び積立金壹千貳百參拾四圓、購買品賣却高壹萬八千八拾六
圓の盛況にある。因みに現役員は左の通り。

| | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 菅豊三郎 |
| 專務理事 | 中西延三郎 |
| 理事 | 長西長次郎 |
| 同 | 平地實太郎 |
| 同 | 森伊十郎 |
| 同 | 中田仙治 |
| 同 | 堀久治 |
| 監事 | 山本浪吉 |
| 同 | 橋本龜吉 |
| 同 | 谷上秀吉 |

安田村信用販賣利用組合

安田村信用販賣利用組合は大正四年十月二十六日現組
合長永車萬藏氏創立委員長となり最も意義多き御大典記念事
業として奔走斡旋の結果全村民歡呼の裡に創設出資口數六百
五十一口を得て事業を開始した。

爾來躍進を續けて昭和七年度末に於ては組合員數五百十三
名、出資口數壹千七百六十七口(一口拾圓)貸付金參拾六萬六
千九百九拾圓、貯金參拾壹萬五千九百圓、準備金壹萬八百八拾六
圓、特別積立金壹萬四千九拾貳圓、購買品賣却高貳萬壹千九
百參拾五圓の巨數を示し活況を誇つて居る。而も同組合では
利用部に精白工場を設けてその利用料も一ケ年に貳千六百餘
圓を擧げ購買部に於ては米麥、産業用品、養鶏飼料及び肥料
統制等各般に亘つて研究供給し組合員の便益に資してゐる。
尙現在の組合員は左の諸氏である。

| | |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 永車萬藏 |
| 理事 | 高橋筆四郎 |
| 同 | 高橋永藏 |
| 同 | 松下爲八 |
| 同 | 阪田甚造 |
| 同 | 高橋荒吉 |
| 監事 | 炭山力藏 |
| 同 | 長町甚平 |

第三類 香川縣水産組合と漁業組合

香川縣水産組合は縣下一帯の一般水産業の福利増進をはかり同時に水産製品検査等を目的として明治三十六年二月漁業法によつて設立されたものである。組合員は漁業者、水産製造業者、養殖者、販賣者を以て組織され現在九千人の多きに達してゐる。

本縣水産業者の出漁は香川縣下は勿論近くは和歌山、千葉、栃木の沖合から遠くは朝鮮、關東州、シソガポールに及び其の起源は他府縣に率先して水先路を開拓し其の年産額も亦壹百萬圓に達して縣下主要の産業とし重要視されてゐる。

就中朝鮮方面への出漁は明治三十九年頃全國漁業者に先じてこれに従事し現在五十餘隻の出漁船は鯛延網、打瀬網によつて年産額四、五拾萬圓、別に鯖巾着網五號によつて拾五萬圓内外の漁獲物を揚げ又關東州方面へは明治三十九年頃より進出して年産額拾萬圓以上に達しシソガポールから南洋諸島にかけても大正五年頃より鱈流網によつて年産額拾萬圓内外の成果を収め最近七、八年前より和歌山沖方面に秋刀魚へ

の出漁も漸次盛大さを加へこれ又相當の成績を擧げてゐる。これ等漁獲物は出漁先に於て各漁獲者によつてそれ〴〵處分して居る。組合では本年度より鱈、ニボシを競賣による共同販賣に於て斡旋しつゝ、ありその入札購買者も地元卸商人の外廣島、岡山方面からも續々これに参加するの盛況である。尙組合豫算は、組合費及び縣並に國庫補助金から成立し通常費壹萬四千圓、臨時費壹萬五千圓を計上し香川縣からの補助金は五千五百圓で其の割當は事業費貳千五百圓、船舶補助費參千圓となつてゐる。國庫よりの補助金は船舶建造補助として壹萬八百圓を計上して居る。

從來水産組合は専ら水産物製品改良、縣外出漁、養殖其他悉ゆる水産事業發達の爲に努力獎勵し今日の盛大さを見るに至つたが同組合では更に來年度事業として特に漁船救護にも當ることとなり海上取締の爲に最新式救護船を壹萬八千圓の豫算で新造し又縣下水産物を京阪神方面に進出せしむる目的で大阪に出張所を設け共同販賣を開始すべく着々準備を進め

てゐるがこれ等は本縣水産界に劃期的壯舉として斯業の發達に貢獻する大なるものと大いに期待されて居る。現廣瀬組合長は永年に亘つてこれに就任し組合の功勞者である。尙現役員は左の人々である。

組合長 廣瀬 小三郎
副組合長 藤田 金三郎

同 八木 啓次
評議員 中岡 市十郎
外 八名
代議員 田中 保茂
外 三十九名

香川縣漁業組合及役員

高松市漁業組合 (高松市)

組合長理事 板井 宗藏
監事 伊藤 安市
同 泉 吉太郎

理事 茂木 役吉
同 龜山 敬四郎
監事 島 道行
同 荒井 寅吉

丸龜漁業組合 (丸龜市)

組合長理事 若山 祥太郎

土庄漁業組合 (土庄町)

[小豆郡]

組合長理事 岡坂次

池田町漁業組合 (池田町)

理事 岡田宗吉

組合長理事 中西倉次郎

同 蓮池伊勢松

理事 平間隆義

同 山下庄吉

同 萩本信逸

同 谷熊吉

同 野村牧次

同 岡本岩吉

同 中塚熊次郎

監事 中村初藏

二生村漁業組合 (二生村)

同 西脇勝藏

組合長理事 森口茂市

同 濱口音藏

理事 廣瀬熊吉

同 濱本熊吉

同 岡野喜太郎

同 長池宇之助

同 松本寅吉

淵崎村漁業組合 (淵崎村)

同 山元彌市

組合長理事 八代田勝次郎

吉野神浦漁業組合 (三都村)

監事 渡島次郎

組合長理事 濱瀬實吉

監事 棟保岩吉

理事 大西正義

草壁漁業組合 (草壁町)

同 山口藤吉

同 中島政次

組合長理事 菅豊三郎

同 大西松之助

理事 三好平三郎

蒲野漁業組合 (三都村)

同 三好茂次郎

組合長理事 八木啓次

監事 宮本清太

理事 谷岡由松

同 中田保衛

同 片岡末義

苗羽村漁業組合 (苗羽村)

同 八木治助

組合長理事 河野龜太郎

監事 中岡初治郎

理事 鹽田常藏

西村漁業組合 (西村)

組合長理事 芹井鐵太郎

同 森福松

同 河村龜太郎

同 河井豊次郎

原大町浦漁業組合 (牟禮村)

組合長理事 鶴身 藤太
 理事 中村 文六
 監事 鶴身 宇平次
 同 小山 伊太郎

理事 泉川 文内
 監事 津島 政吉
 同 福家 佐吉

浦生壇浦漁業組合 (屋嶋町)

組合長理事 佐野 兼太郎
 理事 吉川 勘藏
 監事 松野 寛

組合長理事 鶴川 市次郎
 理事 川原 亮平
 同 谷澤 數光
 監事 青木 伊太郎
 同 吉村 吾市

〔香川郡〕

香西漁業組合 (香西町)

組合長理事 久保 榮吉
 理事 久保 徳次

直島漁業組合 (直島村)

組合長理事 松島 九三郎
 理事 石橋 太平
 同 花岡 數太郎
 監事 堺谷 虎之助

監事 中村 秀太郎

〔綾歌郡〕

男木島漁業組合 (雌雄島村)

組合長理事 藪上 清次
 理事 濱口 藤兵衛
 監事 森下 金次郎
 同 濱川 正市
 同 濱中 秋次

木澤浦漁業組合 (王越村)

組合長理事 西脇 長八
 監事 遠藤 直三郎

女木島漁業組合 (雌雄島村)

組合長理事 武田 利右衛門
 理事 網本 彌吉
 同 山口 米之助
 同 中塚 兼次
 同 山下 岩次

乃生浦漁業組合 (王越村)

組合長理事 田畑 卯次郎
 理事 三木 浪藏
 同 太和 藤太郎
 監事 三越 大三郎
 同 三木 幸吉

松山浦漁業組合 (松山村)

組合長理事 三野 伊三郎
 理事 高橋 幸七

林田浦漁業組合 (林田村)

同 監 事 松浦伊平
川西久吉

組合長理事 濱崎嘉平次

理事 濱崎長四郎

同 濱崎金平

監 事 包本喜代治

同 北原彌四郎

江尻浦漁業組合 (金山村)

組合長理事 網野勘吉

理事 山中十太郎

監 事 網野文太郎

同 樋口清八

坂出浦漁業組合 (坂出町)

組合長理事 中本宇右門

理事 川崎信太郎

同 中野藤吉

監 事 中野幸一

同 松岡淺市

宇多津浦漁業組合 (宇多津町)

組合長理事 木谷元吉

理事 木谷甚松

監 事 木下嘉造

同 木下鶴吉

[仲多度郡]

多度津漁業組合 (多度津町)

白方漁業組合 (白方村)

組合長理事 今井浩三
理事 塩田鍋吉
監 事 輦野千太郎
同 福井清助
同 出來田惣吉

與島村漁業組合 (與島村)

組合長理事 濱本晴司

理事 川田右平次

監 事 宮崎鐵之助

廣島村漁業組合 (廣島村)

組合長理事 大石富太郎

理事 山本磯吉

同 山口庄太郎

監 事 白杵平五郎

同 尼崎幸三

本島村漁業組合 (本島村)

組合長理事 村井清太
理事 村井清治
同 新原伊與吉
監 事 大山千代造

高見村漁業組合 (高見村)

組合長理事 宮崎安吉

組合長理事 田中茂穂
理事 高倉正惠
監 事 信原政治

鹽飽漁業組合聯合會 (本島村)

理事 田中善吉
監事 渡邊藤吉

香田漁業組合 (詫間村)

理事 渡邊雄
同 佐野龜吉
監事 磯野宇八
小林愈

組合長理事 田中茂穂
理事 宮本勘助
同 宮崎安吉
同 吉田倉吉
同 東山幸壽
同 東山幸壽
監事 物部彰
同 藤原啓司

栗島漁業組合 (栗島村)

組合長理事 佐名貫一
理事 濱本國松
監事 倉本利造

〔三豊郡〕

詫間漁業組合 (詫間村)

組合長理事 大野芳三郎

組合長理事 洲上善助
理事 豊島利彦
同 武内光平
監事 遠山九六

同 森岡宗助

志々島漁業組合 (栗島村)

組合長理事 高島榮吉
理事 上田秀一
同 上田伴太郎
同 上田貞
監事 上田貞
同 西山市太郎

積浦漁業組合 (莊内村)

組合長理事 植田宗治郎
理事 關谷多市
監事 柿本卯吉

大濱漁業組合 (莊内村)

組合長理事 森菊次郎
理事 森廣太郎
同 蛭子太吉
同 久米榮治郎
同 豊田庄太郎
同 堅石龜吉
同 藤戸伊勢三
同 北戸林太郎
同 井上光平
同 岡田嘉平

三崎漁業組合 (莊内村)

組合長理事 門野要平
理事 三宅米吉
監事 門口幾太郎

同 監事 大西吉松

家浦漁業組合 (仁尾町)

組合長理事 岡田從衍
理事 番輝治
監事 松下友吉

仁尾漁業組合 (仁尾町)

組合長理事 吉田熊吉
理事 安藤岩吉
同 藤田源治
同 藤田源治
監事 小山茂吉

室本漁業組合 (高室村)

組合長理事 八百勘治
理事 中川宇吉
同 三谷常一
監事 石本藤七

觀音寺漁業組合 (觀音寺町)

組合長理事 齋藤楠馬
理事 三好往太郎
同 小西多吉
同 勝田寅五郎
同 中田政吉
同 佐川安吉
同 中村嘉吉

伊吹島漁業組合 (觀音寺町)

豐濱漁業組合 (豐濱町)

組合長理事 三好文司
理事 河野岩吉
同 三好福松
同 三好福松
監事 合田岩吉
同 三好安治郎

組合長理事 合田春次
理事 合田寅太郎
監事 植村祐市

柞田村漁業組合 (柞田村)

箕浦漁業組合 (和田村)

組合長理事 高谷麻之祐
理事 高谷豊四郎
監事 片山嘉幸

組合長 田中愛三郎
理事 菱田金四郎
監事 山田忠雄

花稻漁業組合 (大野原村)

三豊郡漁業組合聯合會 (仁尾町)

組合長理事 細川祐次郎
理事 合田久太郎
監事 米谷祐太郎

組合長理事 山路圓治
理事 宇賀庄太郎
監事 吉田熊吉

第四類 本縣各地商工會及議員

高松商工會議所

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 議 | 理 | 同 | 副 | 會 |
| | | | | | 員 | 事 | | 會 | 頭 |
| | | | | | | | | 頭 | 頭 |
| 若 | 畑 | 井 | 岩 | 入 | 池 | 川 | 大 | 安 | 細 |
| 宮 | 尾 | 上 | 部 | 船 | 田 | 口 | 西 | 田 | 溪 |
| 平 | 龍 | 進 | 幾 | 幸 | 伊 | 喜 | 禎 | 美 | 宗 |
| 太 | 太 | 之 | 太 | 造 | 三 | 一 | 夫 | 代 | 次 |
| 郎 | 郎 | 亟 | 郎 | | 郎 | 郎 | | 造 | 郎 |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 議 |
| | | | | | | | | | | | 員 |
| 藤 | 蔭 | 間 | 松 | 村 | 長 | 中 | 高 | 武 | 吉 | 川 | 片 |
| 原 | 田 | 島 | 田 | 井 | 西 | 山 | 橋 | 田 | 田 | 野 | 山 |
| 與 | 兵 | 要 | 春 | 清 | 源 | 東 | 茂 | 宇 | 益 | 茂 | 政 |
| 三 | 作 | | 次 | 三 | 三 | 助 | 太 | 次 | 榮 | 吉 | 吉 |
| 郎 | | | 郎 | 郎 | 郎 | | 郎 | 郎 | | | |

丸龜商工會

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 同 | 同 | 同 | 常 | 同 | 副 | 會 | | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | | | 議 | | 會 | 長 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 員 | | 長 | 長 | | | | | | | | | | | | |
| 倉 | 神 | 小 | 松 | 森 | 吉 | 三 | | 鈴 | 平 | 新 | 宮 | 木 | 福 | | | | | |
| 井 | 原 | 野 | 尾 | | 田 | 谷 | | 木 | 井 | 佐 | 本 | 村 | 田 | | | | | |
| 正 | 直 | 理 | 義 | | 清 | 助 | | 金 | | 清 | 和 | 義 | 美 | | | | | |
| 一 | 吉 | 喜 | 一 | 傳 | 亮 | 四 | | 之 | 實 | 太 | 太 | 久 | 登 | | | | | |
| | | 松 | | | | 郎 | | 亟 | | 郎 | 郎 | 久 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | | | | | | | 許 | 理 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | | | | | | | 議 | 事 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 員 | | | | | | | | | | | | |
| 河 | 岡 | 神 | 新 | 吉 | 白 | 片 | 山 | 岡 | 橋 | 富 | 平 | 水 | 前 | 尾 | | | | | |
| 口 | | 原 | 名 | 塚 | 杵 | 桐 | 地 | 田 | 井 | 田 | 尾 | 行 | 田 | 崎 | | | | | |
| 佐 | 品 | 義 | 榮 | 與 | 七 | 久 | 繁 | 健 | 豐 | 義 | 都 | 恒 | 政 | 武 | | | | | |
| 市 | 八 | 夫 | 吉 | 一 | 五 | 助 | 太 | 一 | 市 | 夫 | 郎 | 三 | 市 | 治 | | | | | |
| | | | | | 三 | | 郎 | | | | | | | 郎 | | | | | |

評議員
 同 三谷兵吉
 同 都村源吉
 同 藤井忠太郎
 同 備酒理吉
 同 寒川岩吉
 同 奧川岩吉
 同 土田甚吉
 同 松本傳治
 同 中野茂吉
 同 小山市太郎
 同 林登茂治
 同 香西重夫
 同 齋藤壽太郎

坂出町商工會

總裁 鎌田勝太郎
 會長 須崎角太郎
 副會長 綾喜七
 副會長 森田虎三郎
 評議員 (イロハ順)
 和泉政吉 濱田六藏
 原田萬次郎 馬場常一
 西川馨 岡崎多市
 河合健太郎 香川善吉
 神崎正藏 鎌田正行
 鎌田秀夫 鎌田岩松
 津島才助 野口專次
 久米仲三郎 山田長松

觀音寺商工會

會長 宮本秋四郎
 副會長 中山卯三郎
 理事 松崎秀太郎
 理事 大西幸吉 田代敏夫
 理事 中川重久 宇賀庄太郎
 理事 須崎宇太郎
 理事 鹽崎信之
 松尾由太郎 松成善作
 眞鍋彌平 小松勳
 阿河德助 木田惣助
 水尾長八 峰伊勢松
 島田修平 末澤藤太

評議員

北野倉二郎 近藤照男
 澁谷米太郎 清水民治郎
 新谷勝二郎 森安正秋
 入谷文平 井下律治
 石井伊久彦 市村寬藏
 細川秀吉 細川卯三郎
 荻田藤吉 大西兼美
 香川彌三郎 片山松太郎
 神田彌助 橫山清造
 吉田十七八 田中虎吉
 高田久吉 植木茂太郎
 宇賀福三郎 矢野房吉
 松崎龜四郎 松崎新平
 藤田惠次 小林健二郎

高松市丸龜町
鎌倉 鑊

電気機
具
ラ
子
オ

明治四十三年開業にして鑊とは(村雲尼公御命名)だと氏は各種電気機具、ラヂオ布設、電話機等の營業をし鎌倉電気商會として雄名である。

高松市丸龜町
清水 小 平

酒 商

明治六年先代小次郎氏の創業にして酒の松屋として著名である。大正元年當主小平氏繼承し各國酒の外特に奈良漬も好評を博し日本食糧品共進會に於ては名譽牌を受領した。尙氏は當市隨一の清酒鑑定家にして又常に産業方面の關心も深い。

高松市丸龜町
松田 久 太郎

蓄音器
レ
コ
ー
ド

大正十三年開業市内蓄音器商としてビクター、コロニア、ニットー、ポリドール、バルロホーンを販賣し別に名古屋オルガン佐藤商會三笠號の特約販賣して居る。

高松市丸龜町
千切谷 盛次郎

賣藥、製劑

氏の創業は一百年前にして先代愛助氏夙に賣藥製造を以て知られ特に感冒藥としてカフピリン、アンマ散外五十幾種あり販路も全國的に布陣し目下關東地方に盛名を馳せて居る。尙特約店は關西方面を主とし年五十萬袋、東洋醫藥の普及とより安くよく効く藥を營業方針に千切谷大壯園藥局として活躍して居る。

高松市丸龜町
筒井 伊 平

足袋製造業

創業以來八十年の歴史は天狗足袋の名も高くその白朱子、紺朱子、紺金巾、別珍白羽二重等は特に著名である。目下販路は關西方面を主とし別に福助アサヒ、地下足袋の特約店もして居る

高松市丸龜町

川野 茂 吉

モスリン
富 士 絹

同店は明治十四年上村屋と號し先代茂吉氏の開業にして特にクレヤグレス、八千代、グロリー、マーシヤル等のモスリン、つぼみ錦紗、ブレザン錦紗等銘品を扱ひ薄利多賣をモットーのモスリンと富士絹専門店である殊に氏の經營商策の尖端振りにはよく先行的濺刺味あり發展を謳はれて居る、尙同氏は高松吳服太物商組合長にして商工會議所議員にも推されて居る。

高松市丸龜町
山口 政 太郎

漆器製造及
彫刻卸小賣

同店の創業は明治二十一年であつて讃岐特産各種漆器彫刻品の卸小賣を営み特殊製品として蒔繪がある其取引は全國的にして斯界に盛名を馳せて居る。

高松市九龜町

伊川新太郎

銘仙吳服商

大正十四年以來各種銘仙商として商號銘仙の萬龜は名も高い秩父、伊勢崎、八王寺産を主として扱ひ常に親切丁寧を主義に精進し一般顧客の認識を博してゐる。

高松市九龜町

築田常三郎

モスリン太物商

明治四十三年頃の創業にかゝる同店はモスリン、セル久留米紺の専門店として雄名を馳せ近時の活躍は目覚ましいものがある。

高松市九龜町

宮原桂太郎

化粧品小間物

同店は創業百年の歴史も赫々たるものあり商號ミハラヤを以て化粧品小間物、嫁入道具卸問屋として市内有数の老舗と内容及び信用をよく誦はれて居る。

高松市九龜町

宇治原貞藏

化粧品小間物
雑貨

創業以來三十年にして各種化粧品、小間物、雑貨の巨商である。殊に東京理容館の化粧品資生堂製品アイデアル、フアインゴム等著名品を取扱ひ宇治原本店として縣下は勿論近縣に喧傳されてゐる。

高松市九龜町

小西常吉

家具製造業

同店は創業以來二十年箒笥茶棚、火鉢、花臺、水屋等を販賣し特に飯櫃、風呂の製造を以つて知られ其各品は共進會、博覽會の褒賞多數授與されて名聲を博して居る。

高松市九龜町

鹿庭吉太郎

靴商

同店は明治四十三年以來商號カニワ靴商として各種靴眼鏡袋物の専門店であるが逐年商聲を築き愈々専門の特異を發揮し活躍して居る

高松市南新町

森 茂

賣藥業

同店は創業以來一百年の歴史を有する老舗にして先代森惣太郎氏風に陸海軍御用藥として千金丹(第五師團)を納め一躍聲價を博した。其他金龍丹、腸胃丸、六神丸、雷神丸等何れも古來より有名にして外に七十餘種あり、而て近來高名なるにんにく人蔘劑セロナーは強壯劑として全国的に其効驗を誦はれて居る。目下同氏所産全製藥を通じて商號森回生堂の名は全國に轟いてゐる。

| | |
|--|--|
| <p>高松市南新町 岡本哲二 足袋問屋</p> | <p>大正十三年柏野屋の號を以て開業各種足袋、服、運動靴商として縣下全圓を販路に活動して居るが足袋なれば何でもあるを主義とし且薄利多賣は有名である。</p> |
| <p>高松市南新町 綾田安次郎 化粧品問屋</p> | <p>明治七年の創業たる同店は各種化粧品卸問屋として著名である。其特約には美顔化粧品、レイト化粧品、ライオン齒磨、仁丹ハミガキ、ニード洗粉等の外石鹼、ボマード等各種あり、殊に同店の經營に就ての異彩は同族の者これに従事のことであつて随つて營業の堅實は知るべしである。</p> |
| <p>高松市南新町 伊達彌平 履物商</p> | <p>創業以來一百年の榮ある業史を有し各種下駄を製造販賣して取引は全國的に及ぶ特に四國地方は同店の勢力地帯とする。優良製品の薄利多賣主義こそ同氏の特異にして業礎又稀に見る堅實である。</p> |
| <p>高松市南新町 本郷茂太郎 文具問屋</p> | <p>同店は創業以來三十五年であるが先代寅吉氏の開業にして各種文具を網羅し特約品多々あり特許ラップル王様繪具、第一繪具、ポブラーワグナイインキ、ボンントン、三德筆洗、くれ竹墨TRパレット製造發賣し當主は大の活動家で知られて居る。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>高松市南新町 吉原文五郎 各種製帽</p> | <p>同店は大正元年の開業にして各種製帽販賣である特に一文字帽及び經木帽の各自家製帽は資質を謳はれて販路も山陰、四國、九州、朝鮮地方に取引され盛名を博して居る。</p> |
| <p>高松市南新町 三井龜次 雜貨綿布商</p> | <p>大正元年の開業にして各種の雜貨綿布品特にシーアイサルマタ、ヒシエツチ羅紗セル地製品を特約販賣してゐるがその誠實なる商策は絶大な信用を獲得して居る。</p> |
| <p>高松市南新町 藤尾清次郎 藥局賣藥業</p> | <p>創業大正七年舊來賣藥製劑として三十數種あり年産拾萬圓に近く販路は全國的なるも特に奥州方面に活躍し藤尾製藥として著名然も堅實なる取引と効顯なる良藥は特に讃仰を集めてゐる。</p> |
| <p>高松市南新町 林宇三郎 荒物問屋</p> | <p>創業明治十五年初代は宇平氏である、旅行用諸具多種あり特に鞆、柳行李、菰上敷、鞆、ロープ、傘等を以て知らる、當主は總てに着實を旨として飾りなき商法をかざして不動の商況にある。</p> |

高松市南新町

吉川儀平

酒醬油商

大正十年の創業各種清酒麥酒あり銘酒天寶發賣元及丸藤醬油特約店として著名である、取引販路は市内を主に縣下に發展して居るが常に堅實主義を信條として邁進してゐる。

高松市南新町

岩佐武平

佛壇佛具
獅子頭製造

明治十八年先代武平氏は木田郡古高松村春日の伏見家より獨立して開店玩具用獅子頭を創製し専ら資質の改良に専心して成功し目下高松名産として全国的に聲名高く又その古き佛壇佛具類も縣下は勿論愛媛、岡山、九州等より注文殺到し信用篤く異常の發展を見て居る

高松市南新町

榎原徳太郎

金物商

五十年の歴史を有し先代伊太郎氏の開業である各種金物卸問屋として特に祭祀獅子鐘は京都、紀州(粉河)産を販賣し薄利多賣を以て聲名を轟はれて居る。

高松市南新町

杉山利一

紙問屋

同店は創業以來八十年の歴史あり紙の筑前屋商標として和洋紙及文房具を販賣し市内屈指の老舗である。當主利一氏は新進よく祖業に精進し店勢の擴充に努め人格者として斯界に重きを爲して居る。

高松市南新町

山崎米吉

和洋樂器商

同店は創業慶應年間にして先代惣平氏を始祖となす明治三十九年當主米吉氏業を繼承したが依然和樂器の製作をなし阿波屋の琴三味線は愈よ著名である尙米吉氏は常に邦樂及樂器の研究を怠らず斯業の爲多大の貢獻をなして居る。

高松市兵庫町

浮田安太郎

藥局

氏は觀音寺の名望家浮田勝次郎氏の息にして嘗て大阪藥學を卒へ更に熊本第五高等長崎醫學部を卒業其後教職に入り明治三十四年高中の教諭として歸高此時天神前に於て副業的に藥店を経営間もなく兵庫町に店舖を移したが獨立獨歩の氏は僅かに戸棚一本の構へたのみ時に資を父に頼めど今は仕方がないとの情なき一言安に斷はられては決然人に依らざる事を本意し大正二年高中十ヶ年の勤續を斷ちて退職この時の手當二百圓を資本に一意藥業に邁進した其後歐戰時に際會して一躍基礎を固めた目下縣有數の財を擁する氏は餘齡を奉仕に樂まん心境にあり藥局は大阪藥專出の新進也君に依つて時代的經營に當り好評裡にあつて營業所も新装大いに活躍して居る。

高松市南新町

正木佐次郎

帳簿、印刷
文具商

明治四年先代久芬氏開業し文具類と特に和洋帳簿製作印刷所の經營を以て知られてゐる特に官廳方面の信用を博し又多度津に支店を設置活躍して居るが氏は公的方面にも盡す所も多大である。

高松市兵庫町

福家豊吉

毛糸と小間物

先代のせんこ製造販賣を初期として築かれた同店は豊吉氏が業務に熱心と進取の方針に因つて漸次店勢を張り明治三十四年頃より小間物を併せ更に毛糸類と小間物に専心した、豊吉氏は常に取引の確實を念として問屋への拂ひは遠はず、かくて必要な品を安く仕入れると云ふ方針の下に今日の店勢を示現したが目下息惣太郎氏専ら店業に當り豊吉氏は健康を憚びつゝ餘齡を過して居る。

高松市兵庫町

谷川徳太郎

自轉車商

二十年前二十六歳にして本業を創始し以來潑刺な營業を續けて躍進然かも人を疎らさない才氣才能濃厚を以つて信用あり目下市内同業組合の副長を勤む。

高松市兵庫町

桑島熊太郎

彫拔漆器

大川郡福江村出身明治三十七年縣立工藝卒業以來斯界の研究を續け明治四十五年店舗を開き目下京阪神東京名古屋を主なる販路とし前に商工會議所議員にも推されて居た。

高松市兵庫町

小島彌太郎

下駄製造小賣

大正二年二十八歳にして無經驗にも本業を始めたが時機に恵まれ且つ素人なるが故に只一筋に邁進日ならず斯業を了得し着々歩地を固め又製品は優良を誦はれて今日の實質と信用を築いた

高松市兵庫町

松本春次郎

時計商

縣立工藝及び美術學校鍛金科を卒業俊敏の氏は東京震災後直ちに歸高逸早く現店舗を構へ鋭氣を奮つて邁進した元々弦打村有数の實力を擁せば總ての場合機を制して餘さず着々として實績を収めて居る。

高松市兵庫町

勝本惣太郎

洋品雜貨

先代の創業にして明治九年以來堅實主義を以つて名あり道が舊士族商家の面目は躍如たるもの當主惣太郎氏は温容の本市代表的商人仕入に心を砕き大衆の商店として盛況を極む。

高松市兵庫町

湯淺臘吾

洋服商

三代四十五年の歴史あり新
瀧出身にして香川縣制初代
林知事の勸説に因つて東京
より來高洋服店として本市
の嚆矢とするが以來年と共に
内容を築き信用を高めつゝ
目下三十餘名の職人を擁
して盛況を謳はれて居る。

高松市兵庫町

藤井安太郎

パン製造

商號を藤若屋とする氏は西
通町出身にして本來電機諸
機械設計を職としたが感ず
る所あり自ら考案の機械を
以つて昭和六年開業衛生施
設其他最善完備し模範的パ
ン製造商にして滋養と新鮮
なる各種パンは大衆の印象
を獲得して顧客を集中して
居る。

高松市兵庫町

井上進之亟

藥局

西讃の人丸中より長崎醫專
藥學部を出明治四十五年開
業酒々落々たる氏は一般人
は勿論官廳方面にも氣受よ
く内容の堅實と共に町内有力
者の一人にして又商工會
議所議員でもある。

高松市片原町

新明嘉

藥局

綾歌郡富熊の人明治二十五
年東京英學出身初め縣立病
院(現赤十字病院)に藥劑師
として就任し次いで三十六
年市内唯一の藥局として開
業以來約十年間は全くの一
人舞臺にして意外の好績を
収めたものである從て地盤
も築成し不動的内容と信用
を謳はれて居る。

高松市片原町

片山政吉

材木問屋

明治四年先代常太郎氏の創
業以來各種建築建具材木特
に床柱として著名な森久商
舗の製品を販賣して居るが
氏は寡言勤儉力行の言をそ
の儘によく實踐の功を積ん
で今日の店勢を展開せしめ
て居る嘗て氏が祖業に熱心
なる證左として其往時丸龜
聯隊に入營し日曜祭日の休
暇にも店業に携つて居たと
は總てを察知される目下高
松商工界の重鎮として實力
信用を謳はれ商工會議所議
員に二期推されて聲望を蒐
めて居る。

高松市片原町

入船幸造

菓子製造商

同店は氏が三十餘年前の創
業にして以來堅實なる營業
振りは年と共にその内容地
盤を築いて居る。殊に自己
營業の傍ら高松製菓業組合
長として斯業の發展に貢献
しその功勞は屢々表彰され
又其他の公的盡瘁も至大に
して目下商工會議所議員に
推され活躍しつゝある。

高松市片原町

小林熊太

麵包製造

商號鈴木パンとして創業以
來多年その食パン、菓子パ
ン等は食糧品にして滋養美
味重量多大なるを特色とし
得意には香川縣廳、高松市
廳、高等商業各中等學校及
小豆島、宇野方面あり又昭
和八年四月十七日伏見宮家
御買上も蒙つた氏は京都高
等工藝學校卒、豫備陸軍工
兵少尉である。

高松市片原町

宮宇地嘉太郎

紙商

同店は先代松太郎氏が斯業を創始し以來五十年にして帳簿製造と和紙専門を以て知られ縣下に活躍して居る

高松市片原町

三村忠三郎

食料品

創業の歴史も古く海産物加工品、洋食器、洋酒、陶器金物と各國名物食料品問屋として著名である取引は全國的に亘りその稀に見る崇高なる人格は無形の信用と讃へられつゝ店業の基礎を築いてゐる。

高松市片原町

萩本雄治

菓子商

大正四年安太郎氏開業にして以來各種製菓をなし特に高名饅頭の製造を以て名も高く知られてゐるその年産額參萬圓に達し支店七ヶ所は共に薄利多營を主義に發展して居る。

高松市東濱町

株式會社 金谷商店

米穀問屋

同店は創業以來六十年の歴史も輝き先代嘉吉氏の歿後現嘉七氏は克行氏と共に米穀問屋として縣下内外に雄名を馳せて居るが、取引は紀州阪神地方を主として商號金谷の盛名は誦はれて居る。

高松市百間町

山本金四郎

酒醬油商

氏は綾歌郡飯野村に有名を誇る山せ醬油經營者山本清太郎氏の令弟で、丸龜中學校卒業後一年志願兵として丸龜聯隊に入營し歸宅後高松市現住所に山せ支店として開業以來生家の經驗に依つて活躍し奮闘よく今日の基礎と信用を築いたのである。目下氏は高松酒商組合長にして且商業會議所議員にも推されその近來の活躍は目覺しい。

高松市東濱町

永田伊勢松

清酒問屋

創業以來七十年の歴史あり祖人清平氏の開業にして直吉氏これを繼ぎ更に當主に至るが南海譽、丸永を發賣し男山、白鶴、菊正宗、アサヒビール等も取扱ひ卸商として發展して居る。

高松市東濱町

江村芳松

漬物、味噌製造

創業以來三十五年各種漬物卸商として又別に味噌製造を以て知られて居る殊に味噌は美味にして從來の製法に氏獨特の改良を加へ丸江味噌として聲價を極めて居る。

高松市東濱町

内海市太郎

米穀、精米業

創業以來六十七年の歴史あり先代宗七氏の始業にして斯界屈指の老舗である市外鷺田村に於て精米所を經營し大阪神戸地方と取引し盛況を極めて居る。

高松市東濱町

中橋源太郎

船具材料問屋

同店は創業以來八十年餘にして先代幸七氏の開業であるベンキ、諸油、ロープ、チエーン、カーバイト、防腐劑を主としヤシマ印ベイント製造元として發展し又特約としては日本石油株式會社、大東製鋼株式會社、東亞ベイント製造、末廣香油等を扱ひ斯界の有力商店として夙に令名を馳せて居る

高松市通町

多田光之輔

諸機械附屬品

開業以來三十年諸機械附屬品、電機類、内外機械油、各種ベルト、ボールベアリングを販賣し別にSKT高松販賣店、新田帶革製造特約として發展して居るが他方市會議員として市政に貢獻しつゝある。

高松市東濱町

讚岐肥料會社

肥料問屋業

本縣米穀界の巨頭灘波清平氏を社長とする同社は創業以來四十年の歴史あり各種肥料製造販賣を以つて斯界に君臨し特に製造肥料八千代は著名にして其取扱年額貳拾萬圓に上るが日本窒素肥料會社製品の特約店もなし高松肥料界の雄たる所である。

高松市東濱町

永木清太郎

清酒問屋

明治三十年頃の創業にして當代清太郎氏は二代目である松陵、三帆、四國長の發賣をなし特約品としては澤之鶴、富久娘、朝日ビールリボンシトロン等あり其信條たる共存共榮をモットーに縣外優良酒を取扱ひ縣中東濱に異常の發展聲價を博し堅實な其内容も謳はれて居る。

高松市新材木町

若宮平太郎

石炭商

同店は先代平次氏が四十年前製紙原料商より石炭商の將來有望を理知して轉業したが現店主平太郎氏は父業を享けて以來益々發展し殊に商才に富み敏腕を以て知られて居る。氏は近來の不況對策として高松石炭會社を創設し又時代の要求たる同業組合を組織して購買販賣の統制取引の改善に資する等斯界に貢獻の士である。

高松市通町

新佐清太郎

乾物商

同店は先代嘉吉氏が明治初年の創業にして以來氏は人一倍の刻苦を以て店業の地盤を築いた。かくて乾物問屋新嘉の名實を整へた嘉吉氏は昭和三年他界したが氏の長男現店主清太郎氏は父の在世中より身に經驗を積みめば直ちにこれが經營に當つた。尙氏は一年志願兵として丸龜聯隊に入營中も其成績よく拔擢されて陸軍中尉に任官從七位に叙せられた。目下確乎不動の店業に至誠を全注從事し斷然斯界の雄をなして居るが他面又高松在郷軍人聯合會副會長及商業會議員として二期に及び當市有力商家として活動して居る。

高松市通町

長西源三郎

陶器問屋

陶器商として三十年の歴史あり市内屈指の老舗として聲名を博して居る他方高松醬油購買組合の専務理事をなし組合員を中心に小豆郡の優良品を供給して居る尙多年商工會議所議員として貢獻も洵し難いものがある。

高松市通町

三村房信

諸種機械油
植物油卸賣

明治三十年頃政吉氏當町に於て斯業を創始し大正十年房信氏繼承して以來日夜奮勵努力親切丁寧と優良品の提供とは普く知らるゝところである。

高松市通町

眞田彦次郎

海陸物産問屋

創業は明治十年にして初代は喜一郎氏である海産物問屋にて煎子專業を特色とする眞田彦次郎氏家業を繼承せしより三十數年終始不斷誠實を以て進み殊に其優良なる性向は當然店の繁昌を招來してゐる。

高松市通町

多田勇

綿布加工品
製造卸問屋

創業四十年の歴史を有し宗平氏は開業以來日夜精進を續け業礎を築いた是を繼いだ勇氏又綿布加工品製造として優品廉價多賣を主義にその取引も縣下、伊豫、九州地方に亘つて活動してゐる。

高松市通町

山田武男

海産物

同店は先代力藏氏が五十年前開業し其後當主父業を繼承以來堅實主義を信條として一意邁進し業礎を固め盛況を謳はれて居る。

高松市通町

木村長七

米穀、精米業

明治三十九年米穀、精米業を開いたが當時電力は無く各種設備も又不整にしてその経営は困難を極めたが克苦精勵以て事業の基礎を築いたそは一に氏の着實勤勉と親切なる性格の然らしむるところである。

高松市通町

山地熊吉

海産物

氏は小豆島土庄に生れ同町に於て營業しつゝあつたが大正十二年將來を期して高松現地に於て開業目下海産物卸商とし其進取的商策に以て盛名を馳せて居る。

高松市通町

太田宗次郎

内外各種砂糖、小麥粉、雜穀、卸問屋

創業大正九年、砂糖、雜穀、小麥粉の卸問屋にして當市屈指の商舗である日清製粉大日本製粉、三菱商事の特約店としてグルコースを販賣し業績赫々たるものあり取引先は關西方面を主としてゐる。

高松市新通町

小松市太郎

石炭商

伊勢島やの屋號を以て知らるゝ同店は四十年前の創業にして氏は性來勤儉力行の人、青年時代より自ら荷車を挽き得意の開拓をなし一步は一步と現況の如き誇る地盤を固めた。然かも内容の充實は仕入販賣共に信用高く三池炭の一手販賣、宇都元山鑛工株式會社の指定人として活躍して居るが市太郎氏は五十餘歳にして尙年中無休外部に活躍し最近長男直利君を加へて商線を強化したがその將來は刮目される。

高松市塩屋町

笠井常吉

茶舖

有名な茶舖である四代にして一時中絶の商舗を明治三十年常吉氏が再興し更に擴充したのである尙氏は鹽屋町郵便局長及び自治組合長として令名を馳せて居る。

高松市塩屋町

金倉勝三郎

食料品

八島屋の商號を以て知られ歴史も輝く二百五十年前政三氏の創業にして名實共に同町の有力商家である當主勝三郎氏は四十四歳の壯年で祖業に精進して居る。

高松市塩屋町

森口安次

吳服反物商

小豆郡出身の氏は嚮に陸軍上等計手として十九ヶ年を軍籍にあり退役後大正十二年不況裡に奉仕事業として丹後より端布を仕入非常に好評を博し爾來發展を續けて居るが他面社會事業に多大な貢獻を爲しつゝある。

高松市塩屋町

中村進

手袋、靴下製造
雜貨商

進氏は牟禮村の出身にしてさきに看守として十ヶ年を勤続し三十三歳實業に轉向して本業に移るや本縣最初の軍手製造に着手し一大飛躍を遂げ日下其雜貨と共に縣下一圓に盛況を誇つて居る氏は本年四十六歳。

高松市鹽屋町

水野英一商店

建築金物
家庭用器具全般

明治四十年先代光吉氏に依て此の町に創業し各種金物卸小賣を業とする。大正七年當主英一氏之を繼承し建築諸種金物及家庭用器具材料卸小賣をするが金物類としては何一つとして充足せざるなく宛然金物百貨店の觀あり取引は阪神、關東、廣島方面を主とし薄利多賣誠實町嚮のモットーも光つてゐる。

高松市塩屋町

大山龜太郎

材木商

氏は今より三十三年前に開業し穩健着實を以て漸次店勢を拓き信用を高めて居るが息健一氏又町内の範として將來を期待されて居る。

高松市塩屋町

岡田源次郎

醬油卸小賣

岡田屋を以つて知られる同店は創業以來三百年にして祖人新平氏乾物及醬油販賣の業をはじめ當主源次郎氏に至つて東讃引田町井筒屋佐野醬油販賣に轉じたが町内屈指の舊家として商盛を極む。

高松市塩屋町

中津平吉

各種線香製造販賣

先代角田ヒサ氏明治十六年頃開業大正九年實弟當主平吉氏營業を繼承し今日に至る其製造する各種線香は安價にして品質優良親切町嚮なるを特色とするがその堅實なる商策こそ今日の業運を招來したものである。

高松市塩屋町

大場繁太郎

各種硝子及
硝子器具販賣

明治四十年當主繁太郎氏の開業であつて内外各種硝子及器具の卸小賣を營み地の利と堅實主義に由つて發展しその基礎確固たるものがある。

高松市鹽屋町
森 忠

箆笥製造業

創業明治三十三年頃勝次郎氏を初代とするが雜木(硬質材)箆笥製造業の嚆矢にして柘黒櫛、櫓、櫻等を以てミツヨセ、戸棚、本箱、ミヅヤ等の製作も多繁製品は主に西讃(坂出、丸龜)等方面に取引され殊に當主忠氏は斯界の新進として卓越せる技倆の所有者である。

高松市鹽屋町

佐々木 佐市

化粧品問屋

當主の創業にしてすでに二十數年を數へ化粧品石鹼小間物等の卸問屋として斯界に令名あり取引は主として大阪、名古屋、東京、横濱神戸方面にして優良なる品質を廉價に由つて業容の盛大を來してゐる。

高松市鹽屋町

三宅 常八

各種雨傘日傘製造

創業慶應元年六月先代を始祖とし當代常八氏に至る各種傘製造販賣の老舗にして然も品質優良價格低廉を特色とするが其取引は全國各地に盛賑にして讃岐特産日傘と共に當店の雨傘は夙に好評されてゐる。

高松市鹽屋町

中村 正三郎

乾物、海産物卸問屋

大正十二年の創業各種乾物海産物の卸小賣にして品目の充實なる最鮮優良品に於て店頭市をなす盛況である取引は全國的にして阪神及直接漁場を主とするが誠實と安價供給を以て其發展も當然である。

高松市鹽屋町

高畑 健次郎

自轉車及附屬品

同店は明治四十年の創業にして内外各種自轉車及び附屬品を販賣し特に氏の新案特許たる製作品天狗警報機は目下全國的に發賣聲價を博して居る。

高松市鹽屋町

樫村 清次郎

賣藥製造業

讚盛堂製劑所は創業以來百年の歴史を有し起業者は初代清次郎氏である明治二十三年頃先代清次郎氏當地に居を卜し賣藥德盛會なるものを起し會長となつたが當主清次郎氏に至り各種新藥を製劑發賣して居る特に著名なるは清直丸、六神丸、八神丸、金龍丸、大學湯にして關東、九州、北海道は勿論海外各地殊に朝鮮、滿洲支那方面等へも盛んに移輸出し特約店の如き北海道に於てすら二百三十餘あり古き歴史と功顯遮切なるは普く世の周知するところである。

高松市北古馬場町

中村 德平

佛具商

氏は明治四十一年頃父業鍋釜の販賣より轉じて佛具商となつた爰には信仰に出發して美德ありその營業に於ても人に恥ざる人間生活の一方便として飽くまで正しく進むを信條としかくて今日の成功を與へられたのである。

高松市北古馬場町

武田新平

呉服太物卸商

氏は三豊郡仁尾町に生れ明治四十年卅歳にして現營業を創めたが以來勤儉力行以つてよく今日を築いた其昔小學校時代には友の讀本を借りてこれを全部寫字し遂に讀本を買はず修學した程で其後自地の太物店に這入りその後は毎日中讃坂出林田方面まで太物の行商に従事し一生懸命業務を修めた後少資を以つて高松に來り本業を開業し爾來渝らざる信念刻苦を續けて今日の盛況を築いた現に高松呉服太物同業組合長として十六年これを勤め其他公私に奇特の行爲多々あり今日の發展は全く氏の人格と努力の成果である。

高松市北古馬場町

田所完造

紙問屋

同店は完造氏が開業して以來七十年の老舗であつて各和洋紙、蠟燭、マツチ卸商と、そして又名物線香仙年香の製造を以つて令名あり市内の有力商店である目下氏は成功の晩年を自適に過し、店業は専ら息定美氏に依つて經營し、よく中村屋の商號と信用を市人に誦はれてゐる。

高松市今新町

植松良直

各種塗料商

昭和三年の創業で其以前氏は永らく高松商業に教諭を勤め殊に同校野球部の父として是が育成に努めた事は周知の事目下業務盛況の側ら市會議員を勤めて居る。

高松市今新町

重村傳次郎

樂器製作

同店は六代の老舗にして初代は材木商二代の祖は京阪地に樂器製作を研究し歸高京阪屋と號して開業これ本縣樂器商の初祥である、次いで明治初年琴の製作を創始し聲價を博しつゝ盛況の日を誇り且續けて現在に至る。

高松市福田町

北川安吉

酒造卸小賣商

同店は明治三十四年氏が二十二歳の時獨立開業して以來熱心從事して逐年業況の發展を來し四十年頃より卸しを初め更に大正八年高松三番丁に於いて知人と共に酒造會社を創設し次で昭和七年圓座村所在の酒造會社を獨力買収經營しつゝあるが水質に恵まれ酒質の醇良を以つて好評を博して居るかくて高松酒斯界に雄として誦はれつゝさきには高松酒商同業組合長にも推されて居た。

高松市福田町

久本清太郎

彫抜漆器製作

明治四十一年の着業であるが製品の優秀に於て逐日販路を開拓し目下氏の製品は全國的名聲を博して居る尙先年組合副長に推され出品組合工藝組合の理事でもある。

高松市井口町

池田長三郎

酒醸造卸商

同店は明治三十二年の創業して以來酒類卸商として只一途に邁進し今日の發展を見て居るが就中夙に好評の祝醉長、占領、正念、鯛の盃、祝醉の醸造元として市内三番丁に醸造場を經營し酒質の優良と商策の堅實は必然其名聲を高め目下本市酒界の巨商として實力信用を贏はれて居る。

高松市福田町

久米加壽穂

諸油商

市内に於て油の久米加その明るき存在は何人も認識して居る同店は先々代の開業で油類一切を扱ひスタンダードト其他一流の直取引然も現加壽穂氏の新鋭敏活は時代的經營商策を以つて常に目醒しき商況を示してゐる

高松市井口町

笠井政吉

綿製造、木綿商

創業は七十年前にして各種製綿卸商として市内屈指老舗である綿製品の多種なると薄利多賣の堅實主義は一般の信用を高めて居る。

高松市鶴屋町

廣直登其美

米穀問屋

同店は明治十四年の開業であつて創主義次郎氏は猶活動しつゝあるが其精米精麥業は市内に於る斯業の嚆矢にして且代表的商舗である當主登其美氏は夙に時世を達観して常に堅實商策を把握し内地は固より朝鮮方面とも盛に取引しつゝある。

高松市井口町

吉岡熊吉

菓子製造

創業以來四十年各種菓子製造をなし特に屋島名産として著名なる源平餅の本舗殊に風味雅良價格低廉は恰好の土産物と賞されその年産十萬箱はよく實質と信用を立證する所である。

高松市鶴屋町

木曾廣太郎

建築材料

創業以來五十年先代當義氏の創業で其縣下一手販賣たる磨砂は特に著名である外に宇部セメント、小野田セメント等の特約並に墨炭煉瓦等を取扱ひ多年に築かれた基礎と信用も牢固たるものがある。

高松市鶴屋町

寺尾 宇平

柄杓曲輪製造

明治五年の開業にして柄杓曲輪の製造業として市内屈指の古商である曲輪の年産は五萬枚杓は一萬枚販路を四國中國九州地方に求め斯界に稀な發展盛況にある。

高松市鶴屋町

明石 卯吉

傘問屋

創業以來三百年各種雨傘、日傘を製造卸商として特に紺蛇目雨傘、番傘、三寸蛇目は全國特産品博覽會に於て褒賞を受けてゐる、販路は内地各地と北海道、朝鮮方面にして何れ特記すべき名聲を博して居る。

高松市鶴屋町

川井 卯平

荒物卸商

創業以來百八十年の老舗にして特に疊表、傘、菰、諸ロープ柳行李等を以つて東讃及高松及瀬戸内海島嶼には確たる信用を築いて居る

高松市南龜井町

森本 武雄

和洋家具製造販賣業

同氏は昭和二年年齢二十七歳にして決然現在の場所南龜井町に和洋家具製造工場を新設し爾來一路其の製造販賣に心血を傾注して今や縣下一圓に販路を布有せる新進工業家である。

高松市北龜井町

多田 武市

自轉車及部分品卸商

高松市の中央部に於て自轉車及部分品卸賣の大店舗を張る多田武市商店は大正五年の創業である、爾來才幹豊かなる當主武市氏の活躍は眼覺しきものあり信用と堅實を以て店是となすに於いては其の躍進は更らに加速し商材を名古屋、阪神、東京の各地より精選して成る優良製品は縣下を初め四國一圓に大販賣網を築成して盛況を極む。

高松市南龜井町

末澤 七郎

和洋家具製造業

今や縣下諸官衙學校の御用達として業運隆々たる末澤商店は當主七郎氏が大正十三年若冠二十二歳にして創業し爾來同氏の異常なる努力精進に因り今日の盛況を招來せるものにして其の前途は更に囑目されてゐる。

高松市南龜井町

八木 阿南

國旗商

上繪描きとして四代の歴史あり當主は十九歳にして業を繼ぎ各種刺繡國旗及金玉の製造販賣を以つて近時發展し殊に金玉は斯界に著名である。

| | |
|--|--|
| <p>高松市中野町 清水芳太郎 土産物商</p> | <p>栗林公園北門に店舗を構へた氏はかつて久原鐵業に奉職し大正十年退職と同時に斯業の經營に當り高松土産物の改善と一般顧客の満足为本位に定評を受けて居る</p> |
| <p>高松市旅籠町 佐久間小三郎 生鶏々肉商</p> | <p>明治二十三年先代創業であるが以來本縣一の生鶏問屋にしてその取引は全國的である昭和二年先代歿後當主父業を継ぎ更に一層の飛躍展開をなして居る。</p> |
| <p>高松市田町 ひらたや 福田美登 銘茶卸商</p> | <p>松若堂の同店は二百七十年前の開業で同町有名老舗である先代鶴太郎氏壯年迄は鹽及茶の卸商であつた明治三十八年頃より現在の各種銘茶と茶器商に移り縣下を主として更に關東、關西、北海道、朝鮮等各地より茶の本場を越へて注文に接し特に店主美登氏は温厚の士多年同町自治組合副長として盡瘁しつゝあり名實共に同町代表的商舗である。</p> |
| <p>高松市田町 天野徳平 綿毛糸商</p> | <p>約七十年前に創業し爾來其誠實は逐日店勢を擴充して赫々たるものあり目下高松斯界に内容を誇る有力商店として自他共に許して居る</p> |

| | |
|--|---|
| <p>高松市田町 平野宗造 藥種商</p> | <p>創業は三百年前約二百年前の萬寶年間にして其着創せし家傳秘藥萬寶振出藥は婦人病其他頭痛に適効あり化學醫藥の萬能時代にも超然として令名こそ高い。</p> |
| <p>高松市田町 平井八郎 時計商</p> | <p>同店は創業以來約四十年の歴史あり着々基礎を固め高松南部商店街の異彩として活躍して居る。が其技術長達は異とする所である。</p> |
| <p>高松市田町 中山覺三郎 諸油商</p> | |
| <p>氏は明治三十二年の開業にして三十八年ライジングダッシュ石油の縣下一手販賣をなし商路の開拓に一意して好績を示したが四十一年電氣瓦斯の普及に仍つてこれを轉じ大正二年日本石油との間に輕油及ガソリンの代理店を引受け以來油商界の雄として活躍して居る目下重油と機械油ガソリンの卸小賣をして居るが性來宏量果斷機敏の士であつて市内有数の商傑とされて居る。</p> | |

高松市田町

眞田 徳榮

菓子商

七年前に開業して以來異常の躍進を以つて斯界に注目されて居るが奮闘家たる氏の面目もこの短期間の精進を以てすでに赫々たるものがある。

高松市田町

佐藤利三郎

薬局

佐渡屋の號を以つて知らるゝ同店は五十餘年前父大吉氏の創業にして當主は大正十三年大阪藥專卒の新進人格者であるが懇切なる處方に好評を受けて居る。

高松市田町

川口 貞吉

建築材料商

同町に本店を有し濱ノ丁には出張所を有する氏の營業はその建築左官材料を以て赫々たる業況にあるが元々氏の父松造氏は名代の左官で内外に其技を謳はれて居た現貞吉氏は大正十一年斯業を創始しセメント、タイル、石綿、煙突、灰等の建築用材料を販賣し得意の造詣を奮つて斯界需要者の名聲を獲得して居る。

高松市田町

渡邊 義則

ポンプ商

四國ポンプ商會の氏は幼少より斯界の本場名古屋に於て鈴木製作所に修練し昭和三年歸高開業日淺くして尙今日の盛況にあるがこれ蓋し體験練達の優越性を語るものである。

高松市田町

諏訪 正太

製帽業

同氏は明治十五年父安次氏が川岡村より轉住開業した當主は長男として永年この經驗を重ねて力圖發展して居るが目下四國は勿論阪神九州まで進出して居る。

高松市藤塚町

宮本治三郎

度量衡商

度量衡の販賣を以つて知らるゝ宮本氏は讃岐度量衡合名會社を經營して同町の有力商家であるが目下縣下内外に活躍發展して居る。

高松市藤塚町

今澤 義三郎

藥種商

氏の營業は天保年間に創始し商號今崎屋の名は一般市民の印象深く當主義三郎氏は營業の外に熱血の士としてかつて村會市會に目下縣會等議員に選ばれて居る尙本縣藥劑師會長をも勤め恬淡たる所は一般に朗さを感じしめて居る。

高松市藤塚町

岡 藤吉

金物商

現世浮薄の中に立志成功者たる氏は十四歳にして斯業に弟子入りし翌雪十三年間の修業後獨立し實に晝夜の別なき刻苦精勵を續け遂に今日同町有数の金物商となつた。

| | |
|--|---|
| <p>高松市藤塚町 宮地芳太郎 鐵工業</p> | <p>大正元年創業以來自らハンマーの主として多數職工に伍しついに其基礎を固めた目下建築材料、ボイラーを製造し中國四國を販路として活躍して居る。</p> |
| <p>高松市藤塚町 喜田太次郎 菓子商</p> | <p>明治四十三年師範學校を卒業教育界にあつたが大正十一年父死亡後その業を經營しつゝ昭和五年發心教職を退き業務に専念目下町内中堅の人である。</p> |
| <p>高松市藤塚町 田淵半藏 傘製造</p> | <p>明治二十二年創業十七歳にして父業を繼ぎ現に息渡氏と共に精進内地向及海外向として發展し市内同業間にも好評である。</p> |
| <p>高松市藤塚町 佐藤菊次郎 蘭荒物</p> | <p>同店はかつて三代の歴史あり當主は四十年前本業を繼ぎ逐日販路を擴張しつゝ商程を刻み目下盛況を續けて居る。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>高松市藤塚町 原茂次郎 乾物商</p> | <p>市内屈指の乾物商にして大正元年創業以來異常の努力に業況の進展目覺しきものあり店業奉仕の信條に南部の顧客を集中して居る。</p> |
| <p>高松市藤塚町 中山源太郎 金網商</p> | <p>岡山縣人にして明治三十六年二十二歳の時開業以來川崎式鐵線蛇籠の一手販賣をなし又大阪金網會社製品の特約店として信用を博して居る。</p> |
| <p>高松市藤塚町松生 岡野利吉 煉炭炭團製造</p> | <p>創業昭和二年にして養蠶、養鶏、家庭用煉炭炭團を製造しその製品優良にして薄利多賣主義に同氏の熱心努力を附加して今日の盛況を招來して居る。</p> |
| <p>高松市藤塚町 山口政吉 鐵工業</p> | <p>歴史七十年を有し先代米吉氏の開業である大正三年當主政吉氏之を繼承し製紙機械、濾紙機の製作修繕に専心努力し工作の技を誇つて居る。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>高松市栗林町 藤本民三郎 機械製紙業</p> | <p>氏は當町屈指の機械製紙家にして明治元年の創業である。厚紙製造を専門とし特に藤の花、生塵紙、中抜紙等全國的に令名あり主として關西大阪方面に移出するが製品の優良は稀に見るところにして各全國紙業博覽會に於て數種の褒賞を受領してゐる。</p> |
| <p>高松市栗林町 藤田治一郎 一文字製帽業</p> | <p>昭和三年以來四國製帽所として四菱一文字帽子製造を専門とし製品の堅牢美麗と薄利多賣を以て好評あり年産額一萬ダースにして大阪へ七割の移出する外九州、中國地方、北陸、臺灣、朝鮮等へも移輸出してゐるが氏は常に嶄新なる意匠と堅牢をモットーになし日夜健闘發展を一途に邁進して居る。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>高松市栗林町 下津董 傘繪紙業</p> | <p>創業大正十二年當舗は内地向日傘型刷込及貿易美術傘模様彫抜絹裏打を營業主目とし一日生産高内地向約三千貿易一千にして近時の活躍は目覺しい。</p> |
| <p>高松市花ノ宮町 久本實次 各種酒類、醬油卸商</p> | <p>創業以來三十年内外諸酒及醬油卸し老舗として知られ西讃多度津の特産最上醬油を特約して南部に地盤を築き發展して居る。</p> |
| <p>高松市栗林町 桑名芳一 各種肥料問屋</p> | <p>創業實に數十年を閱し内外各種肥料商として高名である特に獨逸産窒素磷酸加里肥料及理想的國産肥料として硫磷安あり外に帝國肥料末廣化學肥料、小野田セメント等特約販賣店として活躍して居る。</p> |
| <p>高松市花ノ宮町 藤澤好太郎 農具材卸小賣商</p> | <p>當町屈指の舊家にして祖父秋藏氏夙に農具材料木材卸商として名あり當主好太郎氏に至り益々發展擴充され櫛、櫛雜木類の問屋として名聲を博して居る。</p> |

高松市鹽上町

木村久吉

吳服商

同店は慶應元年四月初代木村半次郎氏煙草問屋を開業に發し明治三十八年三月官營になるや之を廢したがその名残は今猶煙草小賣商に止めてゐる斯く煙草問屋閉業に代るべきものとして明治四十年先代久吉氏吳服太物を開業した次いで大正十四年三月當主久吉氏繼承現在に至つてゐる同氏は地方開發に努力し今日東部の賑盛には一に同氏の犠牲献身的熱誠の賜とも謂はれて居る他面商工議員として活躍したがその一般的信用は益々店業の發展を來して居る

高松市鹽上町

青木政一

精穀業

鹽上町に營業所を置き精米業として本市の雄をなす青木政一氏は明治四十年本縣産米の移出業を目論み精米業を創始した以來斯業に熱心且努力して逐年好實績を收めつゝその精米は阪神紀州に多く移出して名聲を博して居る氏は目下高松米穀商同業組合長として斯界に活躍貢獻し尙商業會議所議員にも推されて居る。

高松市鹽上町

中村一一一

一文字帽

同氏は明治三十年頃南新町にて各種製帽及び卸賣業を初めたが昭和六年現在の場所に宏大なる工場を設置して一途に活躍しつゝありその取引先は大坂、九州、山陽、山陰、東北地方を主として製品の優秀を謳はれて居る。

高松市築地町

中村清太郎

食料洋酒店

氏は學窓を出るや老舗新嘉商店に勤め大正十年頃現在の食料品及洋酒類卸商として獨立自營に一步した、爾來一意販路を開拓に努め而して不況の中にもよく今日の地盤を築き好評を得て居るしかもその少壯敏腕家は營業の外市會議員及消防部頭としての公的寄與は實に頼もしい。

高松市築地町

平木爲吉

石炭商

同店は明治初年三代前平造氏の開業で二代目芳太郎氏は刻苦よく營業の基礎を築いたが大正十一年五十九歳で他界當主は祖業を繼承今日に至つて居る、殊に内容の充實堅實を商策とする斯界有数の業者にして、現在の販路は縣下、愛媛、徳島岡山方面にも専ら信用を謳はれて居るかして昭和八年推されて會議所議員に當選本市商工界に寄與して居るが氏は本年四十二歳のこす春秋こそ期待されて居る。

高松市塩屋町

半井熊三郎

足袋綿布卸商

氏は徳島縣の出身にして大正の初年現在の地に來り足袋卸商を開業し其積極商策は早くより一冬一足と云ふ鬼足袋の縣下代理店續いて關西唯一の福助足袋の縣下代理店九州日本足袋株式會社のアサヒ地下の特約店を契約して本縣足袋界の王座に躍進した、かくて以來縣下至る所に半井商店の聲名を轟はれたのである、更に昭和七年度よりアサヒ地下足袋は旭商會株式會社に福助足袋を福助足袋香川販賣株式會社に組織成るや何れも取締役として就任し兩社業發展に折角勇奮して居るが氏の長男敏夫氏は學窓を出づるや直に勤勞苦の積むべく父業に精進しつゝ模範的青年とはされて居る。

高松市築地町

中山東助

鐵鋼機械器具

同店は六十年前氏の祖父中山芳兵衛氏の創業にして芳兵衛氏は努力を惜まざる人微々たる中にも常に積極的行進を續けて地盤を成築した長男藤吉氏はその後を承け至極好評裡に經營に當つて居たが比較的商運には恵み薄く終つた、かくて其後當主東助氏とはなつたが時恰も歐洲戰亂の活況に惠まれ躍進發展は文字通りにして然かも氏の進取的商策は近代文化の必需品鐵鋼機械器具の販賣を加へ市内一流の商人たる名實を整へた日下は岡山方面にも驥足を伸して居る尙這般巨費を投じて營業所を新裝し更に時代的發展を期しつゝ一方高松商工會議所議員にも推されて本市商工界に寄與して居る。

高松市築地町

岡田喜平太

足袋、ゴム靴商

同氏は青年時より機業に志し岡山縣の機業地兒島地方に於て織物の研究し後織物會社を經營して居たが大正五年同地の木村足袋株式會社高松支店の支配人として來高し以來縣下一圓に亘り足袋一切の卸營業とその傍ら旭會を組織しアサヒ地下足袋の普及に努め更に昭和七年五月株式會社旭商會を組織し自ら社長としてこの經營に當つて居る日下一ヶ年の販賣數十五萬足の好成績を挙げ尙從來の木村支店はこれを合資會社岡田商店と改組して從來の足袋、ゴム靴等一切を販賣この統營に當つて居るが氏は事業に熱心かつて本縣織物審査員を囑托されし事もあり縣下斯界の逸材でもある。

高松市築地町

朝田清

陶器、タイル商

同店は先代朝田喜太郎氏が三十年前當に努力を資本に開業し其努力の一揆を以てよく今日の地盤を築いたもの先代は昨七年六十歳にて長逝長男清氏は目下從來の陶器の外に時代的タイル石綿煙突等を兼營し發展して居るが三十三歳新進の手腕家である。

高松市松島町今橋

松原久造

種苗問屋

創業天保年間にして始祖爲藏氏より六代を経て當主久造氏に至るが取引は内地北海道は勿論朝鮮、臺灣、滿洲、西比利亞、布哇にも及び農産物種子一切の問屋として著名である。猶温床器具其他を併せて發展して居る。

高松市松島町七丁目

奥田卯吉

呉服太物

同店は三百年の歴史あり明治十年當町に移轉し呉服太物等を營み現在に至つてゐる當主卯吉氏は資性濃厚にして今日の基礎と信用を築いて居る。

高松市松島町六丁目

佐野精造

内外種苗問屋

當店は明治四十三年の創業にして爾來内外各種子苗の卸小賣を營み取引は賑盛を極め東京、愛知、北海道、大阪、臺灣、朝鮮更らに又支那方面にも及んでゐる特産種子と苗としては金時人蔘、高菜、豆類と桑苗及種子花卉等がある。

高松市松島町七丁目

藤川榮太郎

酒卸小賣

明治二十一年の創業にして和洋酒、麥酒、サイダー各種の卸を營み、取引は主として東讃、備前に盛況である蓋し當代の着實勤勉と子息平八氏の熱心なるに依つて業績を赫々たらしめてゐる。

高松市玉藻町

和田太次郎

材木問屋

大正二年の創業にして各種材木問屋として高名である仕入れは阪神、伊豫、九州紀州等販路は縣下各地岡山地方である堅實と薄利主義を特色としてゐる。

高松市本町

半田卯太郎

材木問屋

創業明治元年當市斯界屈指の老舗にして先代は各種産業に着目貢獻の士であつて本業創始以來逐年發展し牢固たる基礎を築いた當主はその後を受けて以來一層堅實良材主義を墨守して半田屋の名聲を益々高からしめて居る。

高松市魚屋町

村上米一

木炭問屋

同店は創業以來四十五年にして特に村一印堅炭タドン年産(三萬箱)並炭團(年産一萬箱)外に千鳥印等製造し尙煉炭、無煙炭、石炭をも卸すが仕入先は九州、土佐、中國地方にして何れも縣下内外に獨特の盛名を轟はれて異常の發展をなして居る。

高松市新港町

西崎 幸助

木炭商

氏は元長崎縣技手であつた現在對馬木炭同業組合高松出張所主任として對馬の優良木炭の販賣專業にして四國岡山地方に十萬俵の販賣數字を示しつゝその大荒細丸小丸等は何れも品質はよく價格を凌駕する低廉を以つて好評を博して居る。

高松市新港町

和田 美夫

石炭商

當店は三十年前の開業にして主に筑豊宇部長崎の良質石炭の販賣をなし縣下製紙製絲業家及徳島方面に不動の地盤を擁して盛況を極めて居るが氏は稀に見る人格者にして町内發展の爲にも盡瘁しつゝある。

高松市濱ノ丁

野村 好之

自動車及附屬品販賣

昭和四年開業にして以來高松自動車商會として當市に於るフォード自動車及部品の特約販賣をなし又市内屈指の自動車修繕工場として其技術の練達を謳はれて居る。

高松市濱ノ丁

杉上 善雄

竹材問屋

創業以來三十年の歴史を有し各種竹材及シロ繩の卸販賣を以つて錚々たる問屋である特に良品と價格の廉なるは他の追隨を許さない所であつて當主の奮闘は愈よ店業を擴充して居る。

高松市西新通町

泉川 芳雄

内外青果問屋

同店は創業以來四十年の歴史を誇り縣内外に青果の喜樂の名も轟き亘つて居る現芳雄氏はさきに本縣斯界の統制に努力し目下高松青果市場の専務を勤めて居るが尙商工會議所議員にも推され新進の銳氣を奮つて活躍して居る。

高松市西新通町

久保梅 太郎

酒醬油商

大正十二年開業にして清酒醬油酢麥酒の卸をなし特にキツコーマン醬油の最古の特約店として西讃方面中國地方にも發展し現金主義薄利多賣を以て知られて居る

高松市西通町
七條 増藏

吳服商

同店は明治十二年頃先代の
糸商創始に發し漸次發展充
實して明治三十五年頃より
吳服類を扱ひ温厚と親切を
以つて香川綾歌の北部地方
人に信用を謳はれて居る。

高松市西濱町
伊勢島 猛

魚市場

伊勢島魚市場は明治四十五
年先代の創業に係り苦心經
營今日阪神方面へも取引を
爲すと同時に一方市内への
賣子は毎日五百名にも上る
この年額拾六萬圓に達し猛
氏は昭和六年父長松氏死亡
後専心これが經營に當つて
居る。

高松市西通町
小汐 重一

醬油醸造

同店は明治十七年先代松吉
氏が二十一歳の時小豆島よ
り來つて醸造を創め開業當
時本家小汐の援助を受けず
腕一本で今日の基礎を築い
た大正十二年先代の歿する
や妻女は亡夫の意志を堅持
して二女を育ひつゝ成人の
後長女に重一氏を迎へ目下
は氏が事業を統營活躍して
居る。

高松市木藏町
日中米吉

米穀商

同氏は二十五年前に本業を
創め爾來堅實な歩調を以つ
て進展し目下市内は勿論阪
神へも取引を有す。

高松市木藏町

住谷 清治

石炭商

父清吉氏が明治二十年頃石
炭商を始めたが其後木炭を
本業とし更に父の死後大正
三年當主は昔の石炭に復歸
した時は二十六歳にして以
來苦闘をなめつゝ今日の盛
況を招來した目下宇部炭を
取扱安價と確實を以つて異
常の發展を見てゐるが氏は
常に厚司の外減多に羽織等
を着た事なく不斷營業に精
進し高松有数の問屋である

高松市南新町

百十四銀行
南新町支店

同支店はかつて明治二十八
年以來高松銀行本店として
縣下金融界の双壁と呼ばれ
活躍したものであるが時代
の要求に棹し大正十三年縣
下斯界の兩雄は一丸合併の
結果百十四銀行南新町支店
として舊來の確固たる市内
地盤に依り經營しつゝある
現支店長木村傳氏は明治四
十年百十四本店に勤務以來
閱年行務に敏腕を揮ひ盛名
を馳せ昭和四年本店より同
支店に來任した誠直な人格
者である。

| | |
|--|--|
| <p>高松市木藏町 川西久造 指物商</p> | <p>明治四十年創業以來順調な商況を辿り繁盛である目下息又績氏を加へ共に致々製造販賣に従事して居る。</p> |
| <p>木田郡川島町 森米太 醬油醸造、酒小賣業</p> | <p>大正三年頃同地に於て雜貨商から轉業今日を築いた。その醬油は品質を謳はれて盛況を極めて居るが又清酒も薄利に發展して居る。</p> |
| <p>木田郡川島町 宮崎巽 酒造業</p> | <p>銘酒四方戒を以て知らるゝ氏の酒業は明治三十一年の創業にして以來逐年名聲を高揚して居る尙氏は前縣會議員、川島商工會長として令名を馳せ貢獻して居る。</p> |
| <p>木田郡平井町平木 森又三郎 醬油醸造と酒小賣</p> | <p>小賣本位の氏は明治三十年頃兄米太氏と代つて本業の經營に當つたが以來刻苦を以て品質の向上を一途に店業の發展を期したが目下同町の有力商店として酒醬油界に活動して居る。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>木田郡平井町平木 赤井昇次郎 金物、農蠶具商</p> | <p>氏は本年五十歳大正五年頃京都府福知山より來て蠶具店を始め誠實を以つて臨んだが其後金物類を加へて逐日基礎を築き店勢を擴充殊に各種農具の特許をも有するは其多能をこそ語る所である。</p> |
| <p>木田郡平井町池戸 渡邊豊吉 醬油醸造と酒小賣業</p> | <p>氏は二十五歳の時十河村より來つて本業經營に就き以來精進を續け商勢を進め同町有力商家として數へられ其醸造醬油は品質を謳はれて居る。</p> |
| <p>木田郡平井町池戸 溝淵喜三次 木材及建具商</p> | <p>氏は約二十年前約二十七歳にして本業を創始し濃厚な地方木材家具商人として同地方一帯の信用を博して居る。</p> |
| <p>木田郡平井町池戸 松原慶三郎 菓子製造卸賣</p> | <p>河内屋を以つて知らるゝ同氏は四代二百年の歴史あり明治四十四年頃店業傾き全く無一文の不勢時に奮起再興を期して滿洲より歸省した同氏は以來奮闘努力正直親切を信條に以つて今日を再建す本年五十二歳。</p> |

木田郡平井町池戸

谷本庄市

日用品卸小賣

氏は本年三十歳三代百三十年の商號新店を二十歳にして繼ぎ以來周心經營に店勢愈よ振ひ目下本郡内小賣商店として同店の右にいづるなき盛況にして番當二人外十二名の自他の店員は客の應接に遑なき繁忙にある。

木田郡屋島町

木村林七

酒造業

東嶺有力酒造家にして銘酒の譽ありさきに郡會議員たり現に屋島保勝會長として活動し屋島醬油の社長でもある。

木田郡屋島町

屋島醬油會社

式株 醬油醸造

大正七年創立資本金貳拾五萬圓販路四國を主として阪神へも發展して居るが造石高約一千石は品質の醇良を以つて知られて居る。

大川郡志度町

佐野幸太郎

吳服商

慶應三年の創業にして明治三十六年先代庄八氏の後を繼いだが以來豪商佐野屋は愈よ店勢を充實した目下氏は商工會長に推され信望を集中して居る。

大川郡志度町

赤澤近太郎

金物、鑄物製造

氏は十四代に及ぶ鑄物讃岐火鉢製造を以つて知られ大正四年時流を見て金物商を兼營是又異常の發展を示し目下町會議員、商工會副長として信用を擧はれて居る

大川郡志度町

三尾元三郎

米穀商

氏は明治二十五年二十五歳にして斯業に従事し夙に阪神斯界に修練せば爾來奮起誠實を旨として目下一ヶ年二十萬俵内外の取引をなし阪神地方に信用あり且町會議員でもある。

大川郡志度町

岡田正太郎

石炭石粉商

氏は四十年前に同業を始め堅實を以て木田大川にその商勢を示し目下息嚴氏二十八歳が當業に精進しつゝある。

大川郡志度町

砂山房太郎

下駄製造卸商

丹生村より二十數年前に轉來す十五歳にして斯業の弟子入をなし十九歳にして現在に於て開業す爾來精進を續け成功の今日に及んだ目下阪神を主に年額數萬圓の取引あり年四十五歳。

大川郡志度町

米澤宇三郎

食料品及金物

同店は六十年前父宇三郎氏
が本業を創始し爾來順境を
辿り目下息俊一氏主として
店業に従事氏は町議として
自治に貢献しつつある。

大川郡志度町

青木峰太

材木商

氏は青木萬吉氏の三男にし
て最初呉服の店員をなし實
兄の死後大正七年以來本業
に従事し日に盛況を極めそ
の販路は縣下及び徳島にも
亘る。

大川郡志度町

松原菊次郎

左官材料商

六年前に赤馬崎より來つた
が斯業には先代以來五十年
の歴史を有し誠直にて信用
も厚く最近の進展活躍は目
醒しいものがある。

大川郡志度町

池田彌太郎

穀物商

昭和三年父歿後其業を繼ぎ
阪神徳島和歌山を販路とし
て活躍しその將來を期待さ
れて居る一人である。

大川郡志度町

高松百十四銀行
志度支店

大正十一年東讃銀行を百十
四銀行合併同時に支店と改
稱營業す支店長近藤氏は東
讃時代より同地金融界に精
通し令名を馳せて居る。

大川郡長尾町

岸保太郎

呉服及醬油醸造

先代岸林兵氏の創業以來五
十年餘松屋商店と號し同地
方一流の商舖にして現保太
郎氏は温厚よく顧客の信頼
を博して居る。

大川郡長尾町

三好正五郎

呉服商

同氏は五十年の歴史ある大
阪屋の商號を以つて信用を
博し且同町商工會長として
令名こそ高い本年五十五歳

大川郡長尾町

近藤榮次郎

金物商

同氏は元憲兵伍長にして二
十五年前歸郷金物商を開業
以來逐年發展し實直其基礎
を築き目下東讃屈指の金物
商として正に立志の人であ
る。

| | |
|--|--|
| <p>大川郡長尾町 高木 恕 荒物商</p> | <p>同氏は同町是行谷に生れ青年時に津田大眉店に勤め二十八歳獨立して開業圓滿な人格は今日の盛況を來さしめて居る本年四十三歳。</p> |
| <p>大川郡長尾町 河野 謹一郎 醬油酢醸造業</p> | <p>大倉屋醬油の名に於て同地方に認識全き商家である當主は營業の側ら百十四銀行支店に勤務堅實な營業と人格を以つて知らるる年四十歳</p> |
| <p>大川郡長尾町 三好 新三郎 雜貨商</p> | <p>氏は約十五年前三笠屋吳服店より別家し躍進發展して今日の内容と基礎を築いて居るが同町の有力商家に數へらる。</p> |
| <p>大川郡長尾町 福西 武夫 文具商</p> | <p>同地方の代表的文具商にして學校其他諸官署の信用を博して居る。その抜くべからざる地盤は確乎不動である。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>大川郡長尾町 福西 傳吉 雜貨商</p> | <p>同氏は福西武夫氏の實弟にして商才に富み開店以來一般の人氣と信用を蒐めて異常の發展を遂げて居る。</p> |
| <p>大川郡長尾町 安富 義夫 生魚くずし</p> | <p>同店は、はまやの名を以つて七十年以上の歴史あり四季を通じて店頭には顧客の市をなす盛況である。</p> |
| <p>大川郡長尾町 三好 薰 吳服商</p> | <p>十三年前先代の死後男勝りの妻千代女は一意店の經營に當り目下息子薰君と共に奮闘盛況を極めて居ること雄々しき限りである。</p> |
| <p>大川郡長尾町 百十四銀行 長尾支店</p> | <p>同支店は明治三十一年長尾出張所に始り大正二年四月支店とはなつたが縣支金庫を兼ね東濃に於ける同行の重要營業所である現支店長赤松熊太郎氏は昭和四年志度支店より來任せし老練家にして一般に好評である。</p> |

大川郡長尾町
中國銀行
長尾支店

同支店は、大正十年合同銀行出張所以來地盤を拓き大正十一年支店に昇格した次いで昭和五年中國と改稱し同地金融界に活躍して居るが現支店長後藤伯郎氏は昭和六年八月坂出より來任し少壯敏腕を以つて知られて居る。

大川郡津田町
橋本彌吉
金物商

本町屈指の老舗にして百二十年の歴史あり東讃地方を販路とし目下商工會副會長として斯界のために盡しつゝある。

大川郡津田町
木村利三郎
材木商

創業以來六十年の歴史あり父庄三郎氏の後を繼いで東讃一圓に販路を擴めた氏は本年五十四歳活動の盛期にして子息秋穂君と共に専心業務に當りつゝ目下町會議員並に商工會々長に推されて居る。

大川郡津田町
橋本茂作
雜貨吳服商

今より五十年前橋本彌吉氏より分家し茂作氏は木田郡神前村より養嗣子として來り爾來店業の發展も見るべきあり目下商工會副會長として貢献して居る。

大川郡津田町
大眉東次郎
雜貨吳服商

今より三十五年前の創業にして以來盛況を刻んで今日に至る目下子息心一氏と共に販路を東讃一圓に擴め同町有力商家である。

大川郡津田町
高松百十四銀行
津田支店

同支店は元東讃銀行が大正十一年百十四銀行に合併後同行支店として開業し目下丹生に出張所あり支店長山本清平氏は大正十五年支店長として就任精勵家である

大川郡津田町
和田榮三郎
醬油醸造

同氏は元漁業界にあつたが今より三十年前本業の後を繼ぎ同町醬油醸造界の雄として異常の發展を辿つて居る。

大川郡津田町
中國銀行
津田支店

同支店は三本松に本店を有せし大内銀行支店として設置後香川銀行に合併され更に昭和三年合同に合併し六年十月中國銀行支店となる三本松、引田に出張所あり支店長田中正男氏は六年以來爰に勤務し快活行務に當り着々實績を擧げて居る。

| | |
|--|--|
| <p>大川郡三本松町 西尾兼太郎 書籍商</p> | <p>同店は三十餘年前の創業にかゝり東嶺に於ける有力書店として發展基礎を築かれて居る尙氏は店務の傍ら町産業組合方面にも關係し活動して居る。</p> |
| <p>大川郡三本松町 池田政太郎 荒物日用品商</p> | <p>氏は志度町に生れ二十五年前轉居開業したが大の奮闘家で遂に今日の成功を爲し地の有力商人と謳はれて居る。</p> |
| <p>大川郡三本松町 近藤甚三郎 運送と食料品</p> | <p>譽水村出身の氏はかつて二十四年間教職にあり大正十三年辭して長尾引田間自動車バスの經營を創始し後高德線開通と同時に現業に移り教員出身中稀な事業家である。</p> |
| <p>大川郡三本松町 松岡政吉 金物商</p> | <p>同店は二十六年前に開業以來金物一切を販賣し濃厚を以つて信用を博し業況は稀な繁多を極めて居る。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>大川郡三本松町 松下清吉 藥局</p> | <p>百年以上の老舗として世に認識さる商號大黒屋當主清吉氏はかつて郡會議員現に町會議員、所得調査員として人格徳望の士同町の代表的商家である。</p> |
| <p>大川郡三本松町 窪田楠太郎 酒商</p> | <p>氏は志度に生れ二十歳にして同町に來り酒小賣を始む以來熱心に從事して着々營業の基礎を固め目下同地一流の酒商現に信用組合長、町議として町勢の進展にも寄與する所大である。</p> |
| <p>大川郡三本松町 眞勢恒吉 吳服商</p> | <p>當主が創業以來堅實をモツト一に業礎を固め信用を獲得目下長男亮平氏の新進を加へて店勢を張り。盛況を誇つて居る。</p> |
| <p>大川郡三本松町 宮城清太郎 雜貨洋品</p> | <p>約三十年前の創業にして開業以來順風滿帆に發展し店勢も誇るべき同町の代表的商人又目下町議として町政にも貢獻しつゝある。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>大川郡白鳥本町 成瀬 又吉 莫大小製造</p> | <p>大正十五年一月手袋靴下の製造を開始以來殆んど全國に販路を開拓し斯界に雄名を馳せ現に本縣莫大小同業組合長、町會議員である。</p> |
| <p>大川郡白鳥本町 橋本 定吉 莫大小製造</p> | <p>大正三年斯業を創始以來主として關東關西に販路を求め又近くは滿洲方面へも進出の本縣斯界に於ける新進で組合評議員、町會議員に推されて居る。</p> |
| <p>大川郡白鳥本町 成瀬 歌吉 莫大小製造</p> | <p>氏は本店を大阪に置き工場を同町に有して東京、名古屋を中心し又滿洲支那印度等遠く海外まで長驅發展して居るが生産額の如きも全國第一位の盛況にある。</p> |
| <p>大川郡白鳥本町 鯛谷 安吉 莫大小製造</p> | <p>明治七年來の歴史を有つ同氏の莫大小業は大正四年父歿後これを繼承し製品の聲價又赫々たるものあり目下本縣同業組合副會長及び町議をも勤む。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>大川郡白鳥本町 神崎 マサ 莫大小業</p> | <p>同店の本店は大阪にあり大正六年始めて動力を利用して斯界に清新の氣を吐いたが以來内地向を主として盛況を極めて居る。</p> |
| <p>大川郡引田町 柏木 宇次郎 運輸扱業</p> | <p>氏は明治三十年頃より攝陽汽船の貨客取扱ひ東部讃岐と阪神間の交通に貢献しつゝ基礎を築き目下同町商工會副會長尙長女ユキ子は藥局を經營す。</p> |
| <p>大川郡引田町 寺島 伊平 荒物商</p> | <p>同店は柴屋と號し元豆腐製造乾物を業として居たが當主伊平氏に至つて店業の大擴充を圖り異常の發展を見て資産信用を築いて居る</p> |
| <p>大川郡引田町 寺島 平吉 雜穀、肥料商</p> | <p>三十餘年前に創業し努力の人として今日の基礎を築いて居るが同町の代表的商人である。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>大川郡引田町 徳田繁太郎 呉服商</p> | <p>同店は氏が二十四歳にして 獨立開業したが誠實顧客に 接しよく商程を固めて信用 を博し目下勢況を極めて居 る。</p> |
| <p>大川郡引田町 廣瀬常藏 荒物商</p> | <p>先代の青年時に開業以來三 十餘年の刻苦を積んで今日 の基礎と信用を築いたが當 主は昨年父を襲名して經營 に當つて居る。</p> |
| <p>香川郡香西町 千葉宗善 材木商</p> | <p>氏は木田郡古高松千葉宗信 の弟にしてかつて陸軍上等 計手十五年間の軍隊生活後 香西町に住居約十年前より 材木商を営みその人格と産 業に對する熱意はよく今日 の發展を馴致し目下商工會 長、町會議員として活躍し て居る。</p> |
| <p>香川郡香西町 大橋藤三郎 陶燒土器問屋</p> | <p>氏は大橋久米藏氏の長男幼 少より各所に於て刻苦をな め精勵よく貯へ二十年前現 在の土器商を始む今日の成 功は全く氏が青年時代より の苦闘果に外ならない。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>香川郡香西町 高原藤三郎 醤油醸造</p> | <p>父政吉氏が今より二十年前 に地の醤油老舗を買收始業 以來順風の業績を辿つて發 展し政吉氏の隱居後新進の 藤三郎氏は更に一層の進展 を劃して活躍して居る。</p> |
| <p>香川郡香西町 米澤彦太郎 菓子、呉服、雜貨商</p> | <p>同店は百年以上の老舗にし て先代徳次氏時代より菓子 屋の俗稱を以つて近郷に知 られ當主に至つて呉服を創 め盛況にして同町の代表的 商人である。</p> |
| <p>香川郡香西町 久保鶴千代 醤油業</p> | <p>同店は井筒屋の名に於て本 縣醬油界の老舗であるが時 運の不利に際會しつゝも日 下全力を傾注して自力更生 を期し雄躍して居る。</p> |
| <p>香川郡香西町 多田伊太郎 日用品青果 清涼飲料製造</p> | <p>父四郎氏の死後父業日用品 の外青果と清涼飲料水の業 を經營し青年商人として町 内に信用を持つ。</p> |

香川郡上笠居村

泉 吉太郎

材木、呉服、雜貨

氏は百年の歴史を誇る村第一の老舗であつて早く長男を失せ目下孫逸三君を擁して新しき躍進の歡喜を迎へて居る。

香川郡佛生山町

土井 虎吉

呉服商

明治三十一年の創業にして子息義男氏と共に一意業務に精勵し同町を中心に四方に販路を弘め近來の發展は以て衆目の羨望となる町會議員、商工會副會長にも推されて居る。

香川郡佛生山町

山本源七

肥料、醬油商

氏は明治三十一年醬油醸造を創業し明治四十年肥料の販賣を開始し爾來是に銳意して現在の隆盛を見るに至る而も町發展の爲めにする苦心努力は大にして目下町會議員、商工會長等の要務に就く。

香川郡佛生山町

山本 吾平

呉服、化粧品商

父吾平氏八年前死亡後二十歳の青春にも其業を承け専心業務進張に努力し幾多の難艱を経て今日の繁榮を見て居るが本町青年實業家として將來を囑さる。

香川郡佛生山町

佃 一 繁

賣藥、化粧品商

昭和三年の創業にして家傳の婦人藥産産後の諸藥の如き其效驗は著しく特に關西、中國、九州地方に於ける名聲は誇るべきがある。

綾歌郡坂出町

綾 喜七

金物商

新興坂出町の代表的商人として氏の如きは正に資質を整へた雄である多額納稅者たる氏は明治四十年創業以來着々として基礎を築き驚くべき進境を示して今日の榮をかち得て居るが他面多年同町卸賣組合長、町會議員、商工會役員等各方面に貢献し且興望を擔つて活躍して居る。

香川郡佛生山町

伊賀 憲二

呉服商

氏は父岩太郎氏の死後大正五年其業を繼ぎ以來販路の擴張に務め現在の如く伊勢島屋の商號も轟くに至つたかくて同町有力少壯實業家として目下町會議員の要務にも就く。

綾歌郡坂出町

久米仲三郎

米穀商

坂出町鐵砲町に店舗を有つ氏は坂出米穀界の第一人者にして父金九郎氏が創業以來刻苦逐次發展して榮えある今日を築いたがその父業專一と精進を續ける氏は本年四十七歳今を盛時に各種穀類精麥を以つて阪神は勿論關東方面に進出し目下同町米穀移出組合長、町議員、商工會役員等もつとめて居る。

綾歌郡坂出町

須崎角太郎

油卸商

坂出町富士見町須崎角太郎氏は今や青年の意氣を以つて躍進せる縣下に於ける生産商工の町坂出の商工業を擔つて立つ商工會長である然も信用組合専務理事、町會議員等の重職をかね而して其油商としても町内有數にして盛況を誇つて居る目下營業は養子信一氏専らこの衝に當るが商才に富み奮闘家である。

綾歌郡坂出町

木田醤油株式會社

代表者 木田惣助

同社は木田氏の醤油業を大正八年資本金拾萬圓の株式組織とせしもので氏の永年に亘る築かれた基礎の上に更に強度を加へては其業績信用は彌高く堅く販路は阪神を始め愛媛縣にも進出發展して居る目下氏は中讃醬油同業組合副組合長に推されて活躍して居る。

綾歌郡坂出町

綱干梅三郎

吳服商

坂出吳服商界に實力信用共に優れたる同氏は本年六十歳古き慶應塾の出身にしてさきに二十歳の頃創業せし以來刻苦して遂に今日を築いた殊にその爛眼はよく時代の尖端を歩み常に澁刺たるところには最近同店のマーケットの如き白熱的人氣を集中して居る殊に嗣子俊一氏兄弟を加へた同店の陣容こそ更に一層の多彩を思はせる。

| | |
|---|--|
| <p>綾歌郡坂出町 水尾長八 履物商</p> | <p>綾歌郡坂出町 濱田屋商店 呉服商</p> |
| <p>店主長八氏は綾歌郡川西村の出身でその壯年時代には街燈商として關西九州方面に飛躍した然して時代は電燈に變りかくて大正初年現商業に轉じた以來歐洲戦後の活況に恵まれるや躍進を續けて遂に今日の内容と基礎の確立し目下同町履物界の代表的商人である。</p> | <p>同店は先代阿河武平氏が明治十年開業武平氏歿後長女マヌエ女には親族に當る伊勢五郎氏を養子に父業を繼承したが大正八年夫伊勢五郎氏死亡以來同女は店業の一切を處營し目下は長男武千代氏と共に一意その營業に精進して居る尙マヌエ女の實弟阿河正行氏は伊勢五郎氏の爲めに捧げマヌエ年同店の爲めに約二十五名の男勝りと共に同店今日の盛況を招來せしめた。</p> |
| <p>綾歌郡坂出町 角谷正美 陶器商</p> | <p>綾歌郡坂出町 原彦太郎 呉服商</p> |
| <p>同店は明治三十五年頃先代七五郎氏が創業以來歲月と共に發展し大正五年現店主の經營に當るや青年時代より努力熱心家の定評ありその語るにも常に來客に對し感謝の意を捧げたいと此貴き意識は期せずして商盛を示現するのであつた。</p> | <p>同店は明治八年先代宗太郎氏が三豊郡辻村に開業を發足として盛名を博し其後炯眼の氏は昭和二年決然生氣ある坂出に進出開業した次で五年時代にふさはし店舗を新築し目下盛況を極め殊に養子秀雄氏の來客に對するサウピースは一般顧客の好感を蒐めて居る。</p> |

| | |
|------------------------------------|--|
| <p>綾歌郡坂出町 馬場恒一 靴類卸商</p> | <p>坂出驛前に廣大なる店舗と工場を構へたゴム靴専門商の同氏は元小學校教師であつたが二十四歳の時實業界に轉向を決意し直ちに學校化學用品店を開業しその店勢思はしからざるにも屈せず愈々多面的に奮闘し遂に多難を打開して現在の靴一切卸商として不動の基礎を築くに至つた、目下數十名の店員職工を役使し商勢は四國は固より中國、九州方面に卸取引して盛況を誇つて居るが氏の現實商況は内容外觀共に縣下有數の商家として又坂出の代表的商人ではある。</p> |
| <p>綾歌郡坂出町 高須義明 砂糖、小麥粉商</p> | <p>同店は明治初年以來讃岐特産砂糖商として山陰、山陽北海道方面にも進出して盛名を馳て居たが其後時代の趨勢にツイ洋糖に轉じさきの營業地盤に由つて活躍しつゝあつた先代は四十五歳にて急卒しその後は未亡人フサ女亡夫の遺志を繼いでこれを経営し活躍同女は商機に敏にして商才に富み眞に男優りの女丈夫である其後大正十一年龍川村より當主義明を迎へた當時氏は門司鐵道局に奉職して居たが入嗣と同時に退職實業家として營業に精進して居る目下砂糖と小麥粉を以つて活躍しつゝあり未だ三十五歳の新進の氏が將來は期待されて居る。</p> |

綾歌郡坂出町
海野勝一
雜貨商

坂出西塚町に雜貨卸商として盛況を謳はれて居る氏は大正五年二十五歳にして開業し以來全讃岐を販路として異常な活躍を續けたかくて逐年發展をなし近時では愛媛縣にも進出の勢にして挽近メリヤス製造をも開始して居るが少壯四十二歳その前途は刮目すべきものがある。

綾歌郡坂出町
福岡勝美
雜貨商

同店は明治四十年頃勝美氏の創業であるが同氏の祖代はかつて煙草の製造をなし更に專賣後中讃の煙草元賣捌きを爲しこゝに築かれた同店は同町代表的商人として内容の充實堅實を謳はれて居る。

綾歌郡坂出町
河合健太郎
材木商

神明町に店舗を有する氏の製材は明治四十年の創業であつて爾來町勢の發展と共に氏の營業も漸次進展を見せ今日の盛況を告たがその温厚は人望を高め目下町會議員、商工會役員として活動して居る。

綾歌郡坂出町
阪本敬次
學生服卸商

氏は五歳の時父を失ひ母ハルエ女に依りて養育された元々同店は呉服物商であつたが氏が營業に携りし大正十二年頃より學生服の製造卸販賣に着目一轉是に邁進したれば中讃一圓に異常な聲價を博し追隨も許さぬ現況の發展をなした。氏は本年三十三歳。

綾歌郡坂出町
森田虎三郎
藥局

坂出商店界の重鎮と謂はるゝ森田虎三郎氏は明治三十年藥種業を開業したが藥劑師たる氏は配劑の妙を謳はれて逐年發展した然かも其温厚と人格は現に本縣同業組合副長、支部長、縣商工代議員坂出商工會副會長等に推されて居る。

綾歌郡坂出町
塚田豊武
材木商

坂出町の南端三千坪の宏大な材木置場に山と積む諸材木この經營者塚田氏は琴平に生れ昭和六年坂出の將來に着目しこの地に進出したものである氏の積極商策は以來雄飛愛媛徳島岡山に跨つて盛況を極めて居る未だ五十二歳の氏は更に洋々たるものであらう。

綾歌郡坂出町
阿河徳助
吳服商

坂出中通町に店舗を構へた同氏は昭和三年父を襲名したが同店は先代が明治三十年の創業にして以來逐年發展して今日の盛況にある目下町商工界の錚々にして商工會の役員にも推され盡瘁して居る。

綾歌郡坂出町

松尾由太郎

金物商

同町大黒町に店舗を有する氏はその三十三歳の時開業以來順風を追ふて發展し今日の有力なる歩地を築いた目下商工會議員に推されて活躍して居る。

綾歌郡坂出町

和泉政吉

製綿業

本年五十五歳の氏が大正三年の開業であるが以來驚くべき進展を示してその蚊帳ふとん諸綿等は縣下一圓を販路に異常な進躍をなし今日の盛況を築いて居るこの繁榮下に氏は町會議員、商工會議員として公的にも協力して居る。

綾歌郡坂出町

野口専次

吳服商

明治初年以來の歴史を有する氏は湊町の老舗にして堅實を謳はれて居る殊に當主の濃厚篤實は同業組合長同町商工會議員等に推されて一般の信用を謳はれて居る

綾歌郡坂出町

鎌田秀夫

化粧品小間物商

同店は從來菓子糸店を營んで居たが氏が官を辭して營業に投入以來轉向し勇奮を續けて居るが先代に築かれた基礎の上にも不動然たるあり輝々たる所は坂出商人の中堅として商工會議員にも推されて居る。

綾歌郡坂出町

高松百十四銀行

坂出支店

かつて高松銀行支店として設置されし以來特殊系統の地盤を擁して發展した同支店は百十四銀行に合併後更に營業の進展を來し目下有力支店に數へられて居る現支店長三谷俊三氏は高松銀行時代より勤続精勵家にして琴平支店より來任其活然は新興坂出に相應しき人材である。

綾歌郡坂出町

中國銀行

坂出支店

同支店は中通町にありさきに第一合同銀行支店として營業以來その商業盛地に活躍して來たが昭和五年十二月山陽銀行と合併次で中國銀行支店に變更された現支店長中條嘉人氏は六年來任せし新進氣鋭の士にして坂出一般事業界に信頼を宛めて居る。

綾歌郡瀧宮村

岡田近男

雜貨商

同店は三代以前の祖父文造氏の創業にして雜貨商として七十年に亘る老舗である爾來發展して目下中讃南部に於ては稀に見る商盛にして當主近男氏は父早逝の後弟親任氏と共に祖業に携り一意精進の青年實業家である。

綾歌郡宇多津町

徳山梅太郎

酒造業

同店は三十五年前某經營の酒舗を氏が其一切を譲受けたものである氏は其翌年一躍酒造を着眼しこれを創始した爾來其銘酒梅の司、福の梅は同地方に好評を博し發展して居る。尙長子勇君は地の模範青年と云はれて居る。

綾歌郡瀧宮村

川邊清見

吳服商

同店は西屋と稱し先代仁三郎氏がかつて質店を經營しつゝありしを約二十年前その死亡と同時に當主はこれを轉向して現吳服を創始した爾來同地方に盛況を誇る業者であつてなほ業務の側ら地方發展の爲めに何かと盡瘁し一般の信望を蒐めて居る。

綾歌郡宇多津町

高松百十四銀行
宇多津支店

大正九年十二月十五日宇多津銀行が百十四銀行に合併して以來支店として經營されて居るが大正十年現在に新築し營業の進展を劃された現支店長須藤正志氏はかつて高松市内各支店を長として勤め評善き新進銀行家である。

丸龜市通町

三谷助四郎

吳服商

同店は創業以來三十年の歴史も輝く吳服洋反物商にして其基礎も築かれ抜くべからざるものあり尙氏は丸龜商工會長として多年商工界に盡瘁しつゝあるが店業の繁榮は氏の人格信用の反映にして丸龜商工界の代表者として其面目も赫々たるものがある。

丸龜市通町

今田茂治郎

金物問屋

同店は創業歴史四十年にして各種金物販賣をなし特にT・O・C・製品として和洋建築諸金具歐米諸機材又双物鎗物等を以つて市内有力商家に數へられ信用と盛況を誇つて居る。

丸龜市通町

藤井淺市

和洋酒卸商

同店は創業以來六十年の歴史あり白鶴、白鹿、竹の友朝日、櫻ビールを中西讃一圓に卸販賣し別に小兒痲藥蒼龍丸の縣下一手販賣もなしその盛況は氏の信用を如實に語る所である。

| | |
|-----------------------------------|---|
| <p>丸龜市通町 高島 爲祐 自轉車卸商</p> | <p>同店は開業以來五十年の歴史を有し高島商店本店として各種自轉車及附屬品、オートバイ、ブリミヤ日英製作、TK名古屋製作、攝津ゴムTKタイヤー等特約店で香川愛媛縣下の卸販賣を以つて信用を博して居るが多度津にも支店を設置し活躍して居る。</p> |
| <p>丸龜市通町 宇田 進 藥品卸問屋</p> | <p>同店は創業明治十七年先代調兵衛氏以來各藥種新藥外に醫療器械の販賣をなし縣下病院及藥局方面を取引先として信用を博し市内屈指の老舗かつて貧民に無料施藥する等社會奉仕の念に富む人である。</p> |
| <p>丸龜市通町 片山兼太郎 糸問屋</p> | <p>同店は明治二十二年の創業であつて同氏は年齡七十一歳にして各種糸の卸をなし薄利多賣をモットーに西讃全面に商盛を極む常に地方發展を念とし商工會員中の有力者である。</p> |
| <p>丸龜市通町 武田 秀則 時計貴金屬商</p> | <p>同店は明治四十年先代市太郎氏の開業にして時計商として市内斯界の老舗である當主秀則氏は夙に刻苦精勵の人西讃、愛媛徳島方面に確固たる勢力ありかつて香川縣商工聯合會より褒賞を受く。</p> |

| | |
|-----------------------------------|---|
| <p>丸龜市通町 水溪房太郎 洋服商</p> | <p>同店は創業以來三十五年であつて先代伊勢吉氏の開店である技術の卓絶なると優良なる生地的選擇はよく今日の聲名を馳せ丸龜斯界に抜くべからざる基礎と信用を築いて居る。</p> |
| <p>丸龜市通町 平尾徳三郎 教育材料品商</p> | <p>同店は創業二十年の歴史がある度量衡、化學藥品、運動具、理科實驗品等の卸商として多年斯業部面に注心教育器材の改良に没頭して疾くに聲價を博して居る。</p> |
| <p>丸龜市通町 曾根長次郎 糀味噌製造業</p> | <p>同店は大正五年の開業であつて大和屋と號し糀味噌の製造高は市内隨一である氏は常に品質の改良を心し最良なる讃岐米を以て精製し現金販賣主義に縣下及徳島に發展して居る。</p> |
| <p>丸龜市本町 吉岡金藏 荒物問屋</p> | <p>同店は創業の歴史も百五十年斯界に輝く老舗であるその鞆、柳行李、疊表、上敷等を三備京都大阪伯馬和歌山伊豫等産地より仕入れ薄利提供を信條に各地に取引し確實の定評信用は同店の誇りである。</p> |

丸龜市本町
櫻井求吉
諸藥、醫療器械

同店は創業以來既に四十年の店史を刻み氏は本年六十六歳救世堂藥局として又醫藥賣藥療器店として優良品の廉價をモットーに基礎を築いて居るが西讃斯界の雄である。

丸龜市本町
松田萬吉
時計商

同店は開業以來數十年にして各種時計、蓄音器、貴金屬を商ひ堅實なる基礎を以つて市内一流の商舖として特に各種高級品及大衆向各種を整へた新鮮は常に顧客の信用信頼を蒐めて居る。

丸龜市本町
松本傳治
荒物、文房具商

當舗は二百年の歴史があつて代々襲名し當代は九代目傳治氏である荒物、文房具問屋として西讃方面を主要販路とし活躍して居るが基礎の確固たる事は當市斯界に於る隨一にして他面商工會評議員としても盡瘁して居る。

丸龜市本町
片山伊平
内外文具問屋

同店は創業大正九年にして各種文具卸をなし特に和紙洋紙各帳簿又アラトインク縣下一手販賣の下に西讃伊豫までも發展しなほ日本生命代理店もして居るがその總ては確實丁寧を誦はれて居る。

丸龜市本町
高木マサ
小間物化粧品商

同店は創業以來既に三十三年の星霜を積んだ當市屈指の化粧品問屋であるがその店業の過去には幾多の隱忍刻苦ありそれを打開し遂に一族を以て株式組織となし丸龜に誇る化粧品商として今日の盛況を誇つて居る。

丸龜市本町
石井和夫
砂糖菓子商

同店は元秋田屋として當町に於て二百年前茶舗を営んで居たものである明治二十年頃先代砂糖商を營み白下樽入りのみを取扱ひ本縣洋糖移入の嚆矢をなし活躍發展を續け以來信用と聲價も輝き商盛を誦はれて居る。

丸龜市富屋町
都村源吉
建築金物商

同店は明治十年以來其和洋建築金物等を以て異常な信用を博して居る氏は商才に富み殊に地の（丸龜の一六デー）の夜店は氏の創案に基くが今や該備しは縣下に有名を誇るに至つた同町は大正九年頃迄は職人の住宅地とされた其町を氏が主導に依つて今日の飛躍を招來して居るこの如き敏明家で又多年卸商組合長としても斯界に貢献して居る事は周知にして實に商工丸龜の偉材である。

丸龜市富屋町

松尾義一
諸油問屋

同店は開業以來七十年の歴史の下に諸油商として米國ソコニバキユーム製品特約を結び縣下一般を販路として活躍して居る尙氏は濃厚にして信用も高く且人格者である。

丸龜市福島町

岡田喜三郎
米穀精米問屋

同店の創業は明治三年にして先代虎吉氏まづ米穀精米業を創始し以來逐年盛況を來し今日の發展を見て居る殊に瀬戸内島嶼方面に於ける信用は絶大である。

丸龜市富屋町

三好熊吉
菓子、食料品商

同店の創業は明治四十四年頃にして大黒堂と號し各種和洋菓子、食料材料品を以つて盛況を極めて居るが其處には氏が幼少の頃より斯業に經驗の徳と力行の苦難が織られて居るのである。

丸龜市福島町

神原義夫
材木問屋

同店は創業以來十五年にして特殊材、雜木材、淺野ベニア板、南洋材、北海材を以つて著名なる同店は同氏の精勵力行を數へて逐年店業の基礎を固め今や丸龜有數の商家として盛況を誇つて居る。

丸龜市濱町

岡本佳太郎
小間物化粧品商

同店の創業は明治十八年にして各種小間物化粧品卸商を營み特約として資生堂製品あり仕入は概ね東京及京阪神にして縣下一圓に取引の確實を以て信用を博して居る。

丸龜市濱町

三木瀧治郎
洋鐵問屋

同店の開業は明治十年であつて二代目瀧治郎氏の經營にして氏は特に頭腦明晰其炯眼は富市洋鐵界の重鎮とされ販路も西讃を中心として薄利多賣の堅實主義を以て店是とし斯界の雄舖を誇つて居る。

丸龜市濱町

重元爲男
青果問屋

同店は明治三十年始めて先代綾治氏が驛前の一角に店舗を開いたに始まるが以來清新なる内外果物を低廉なる正札を以て販賣し更に重元果物市場を經營し現實の繁榮と聲價は洵に誇るべきものがある。

丸龜市濱町

平尾彌三郎
材木問屋

同店は明治三十七年開店以來その活躍發展は實に目覺ましきものあり特に建築各材を以つて商號油喜の名も雄々しく西讃に喧傳され確實主義の終始一貫は同店の彩光である。

| | |
|--|---|
| <p>丸龜市米屋町 森 喜 平 砂糖、小麦粉問屋</p> | |
| <p>同店は各種砂糖メリケン粉の卸商であるが昭和三年頃より資本金拾五萬圓の同族合資組織に改め同時に明治製菓縣下總代理店として同社製品の一手販賣を兼營坂出高松市に支店を置き四國岡山方面に一大飛躍を遂げて居る當主喜平氏は斯界の經驗者で氏をこそ正に七轉八起の優者とはするが其養嗣子森博氏は松山村松浦伊平氏の兄何れも商才に富む敏腕家である。</p> | |
| <p>丸龜市濱町 尾藤久太郎 石炭木炭商</p> | <p>丸龜市魚屋町 吉田 龜 吉 海産物問屋</p> |
| <p>同店は創業以來二百七十年の歴史も輝き斯界の老舗である明治十二年當主これを繼承して以來西讃一帯に堅實なる商礎を基き異常の發展を見せ市内商工界の錚々として謳はれて居る。</p> | <p>明治十七年の開業であつて當主は二代目である海産物問屋として市内屈指の商勢を張り西讃、徳島、愛媛方面に進出發展して居る現に丸龜卸商組合役員にしてその人格は店員一同を薫化し店舗は活氣に満ちて居る。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>丸龜市米屋町 白石軍平 酒類商</p> | <p>丸龜市米屋町 新田勘次郎 團扇製造業</p> |
| <p>大正元年の開店であつて朝日ビール、ミツカン清酢、寶味淋焼酎の特約店として絶大なる信用あり西讃伊豫阿波方面にも進出しその親切丁寧と薄利多賣の方針はよく今日を築いた。</p> | <p>明治二十七年の創業で氏は二代目である優秀な製品を以つて全国的に高評あり年産五百萬本を數へ全國特産品博覽會に出品好評あり氏は目下丸龜團扇組合長として斯界の爲め多大の貢献をなしつつある。</p> |
| <p>丸龜市米屋町 吉塚與一 陶磁器問屋</p> | <p>丸龜市葭町 倉井正一 綿布商</p> |
| <p>同店は創業以來三十年先代金吉氏の創業にして當主與一氏は父業に就いて勤勉努力し不斷に販路の擴張を圖つて今や西讃伊豫方面にも異常の商盛信用を謳はれて居る。</p> | <p>明治三十九年創業の同店は各種綿布卸商としての老舗である特に無地綿布を以て名あり西讃方面に賣行盛況を極めて居る而もその濃厚篤實は一般商人の模範たるべき人と讃へられて居る。</p> |

| | |
|--------------------------------------|--|
| <p>丸龜市葭町 吉田清亮</p> <p>諸紙、文具問屋</p> | <p>同店は約八十年前の開業にして清亮氏は三代目であるが其業和洋紙、帳簿、蠟燭等卸小賣は夙に市内有数の店勢を示現して居る氏は明治三十八年東京高等商業學校を抜群の成績を以て卒業し爾來祖業に精進して今日の榮光を招来してゐるが現に商工會副會長として令名あり店業には薄利多賣親切を信條とし公私共に進むその人格識見は世の徳望を蒐めてゐる。</p> |
| <p>丸龜市葭町 平尾義直</p> <p>食料品、酒類</p> | <p>同店の創業は大正五年である和洋食料品店を以て市内有数の店勢にあり主として西讃愛媛に進出、現金主義を以て堅實を譲はれて居るが尙多年丸龜商工界の爲めにも盡す所も至大である。</p> |
| <p>丸龜市葭町 潮江永太郎</p> <p>嫁入道具商</p> | <p>品川屋として雄名を誇る同店は開店以來約八十年の歴史を刻み永太郎氏が繼承しても既に四十年に垂々とし漆器銅器家具の阪神四國中國地方への販路は堅陣である内容の充實せんと斯業の繁盛なるは市内有数と謂はれて居る。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>丸龜市葭町 神原直吉</p> <p>藥品卸商</p> | <p>創業以來二十六年同店は賣藥、醫藥、醫療器械、度量衡を以て着々基礎を築き今日の盛況を招来して居るその信用は中西讚業界に稱をも唱へ殊に市内一流の實勢は丸龜本店の外に高松驛前支店を設置して活躍して居る。</p> |
| <p>丸龜市西平山町 獅々友卯吉</p> <p>米穀精米精麥業</p> | <p>創業の歴史は實に一百年三代卯吉氏繼承してより一層販路を擴大し本縣斯界に覇を唱へらる現に香川縣米穀會々長及丸龜米穀組合長の要務に就き何かの貢献は實に多大である。</p> |
| <p>丸龜市西平山町 吉岡儀治郎</p> <p>酒卸商</p> | <p>明治三十二年の開店であつて清酒卸賣をなし特に丸龜酒造株式會社の重役にして又丸龜多度津酒類販賣同業組合副組合長にも推され丸龜酒界に貢献しつゝ自家は大黒正宗の發賣元として活躍の商況にある。</p> |
| <p>丸龜市西平山町 三好榮吉</p> <p>乾物問屋</p> | <p>創業以來七十年の歴史を有する同業は虎吉氏の開業にして榮吉氏繼承して以來既に三十年西讃岡山地方に取引盛況を極めて當町に於ける老舗たる面目も躍如たるものがある。</p> |

丸龜市土居

赤羽彌三郎

自轉車卸商

創業以來三十年にして各種自轉車及附屬品卸商としてサン自轉車、M型、ニューエス型、グロリヤ等の特約をなしKRタイヤ及び赤羽タイヤを發賣して西讃及東豫方面に多數の特約店を有し異常の發展を續け本縣斯界の錚々である。

丸龜市松屋町

佐藤篤生

肥料及度量衡商

同店は多度津屋と號し夙に數十年の歴史あり資産信用を誇る市内屈指の老舗にして當主は先代の業を承けて以來一意精進し確實なる商品と營業振を以てよくその面目を顯はれて居る。

丸龜市松屋町

白杵七五三

染塗料問屋

同店は創業以來二十五年の歴史あり特に關西ベイント岩城カセイント漆等の縣下總特約店として活躍し嘗て數期市會議員に又商工會常議員として商工界の爲にも盡瘁の士である。

丸龜市松屋町

尾崎武治郎

硝子商

同店は開業以來約三十年にして硝子及器具の卸商として月見町に製作工場を設置しランプ瓶等の大量生産して西讃、阿波、伊豫に進出活躍して居るが市内有力商家として數へらる。

丸龜市本町

高松百十四銀行

丸龜支店

同支店は同行支店中有有力支店にして明治十一年本店が御用銀行として爲替取扱ひを創始と同時に設置された支店であつて以來發展し同市商工業の爲めに貢献しつゝある日下丸龜縣支金庫として金融界の中樞をなし支店長香西泰祐氏は百十四生へ抜の幹部行員でかつて各地支店長を経て現任にあるがその機敏闊達を入れない所は利刀の定評こそある。

丸龜市鹽屋

濱本元良

團扇製造業

同氏は創業以來目覺しき活躍をつゞけ丸龜團扇界の錚々にして阪神地方への移出も年産三百萬と稱されなほ現に丸龜團扇工業組合の幹事として重きをなして居る

丸龜市通町

中國銀行
丸龜支店

同支店は元丸龜商業銀行が山陽銀行に合併し更に中國銀行に合同して今日の名の下に發展を見て居るが現支店長板野佐七氏は昭和六年四月合銀三原支店より來任した金融界の猛者で以來異數の進展を見せて居る。

丸龜市通町
安田銀行
丸龜支店

同支店は大正三年二十二銀行支店として開業し大正十二年安田支店と改稱した以來安田の堅實方針を以つて營業の發振を見て居る現支店長時田銳英氏は先に大阪堀江支店より來任した濃厚な銀行家である。

不動貯金銀行
丸龜支店

同支店は明治四十五年高松代理店出張所として下通町の開口僅か二間の借家に於て營業を開始した當時富士共榮、昌榮等各貯蓄銀行續出し委に端しなくも激烈なる競争となつたが三ヶ年後には他華々しき諸銀行は破綻遂に倒壊し借家住居の同行のみ不動然として發展を見たのであつた。而して大正三年事務所の狹隘を感じて現在に改築本社直營の代理店となり四年本社より小林儀三郎氏主任として着任し次で大正七年同市隨一の鐵筋洋館社屋を建築かくてその預金も遂に五拾萬に達すれば支店に昇格しいよいよ本格的店勢の下に發展に入つた以來躍進し現在參百萬圓の預金を擁して居る。現支店長内田勝啓氏は七年四月本店より來任是ニコノ趣旨を體し統營に當つて居る。

仲多度郡多度津町
宮川源治
材木商

同店は明治維新前の創業にして四代の歴史を有する有力材木商である販路は縣下を一圓愛媛、岡山にも及びその宏大二千坪の製材工場と貯木場は業況の盛大を語る所であつて未だ三十八歳其前途は洋々たるものがある。

仲多度郡多度津町
勵商會
米穀肥料商

同商會は景山董氏の經營にして明治十一年三月景山甚左衛門、合田政助、武田熊造氏等三富豪に依つて共同事業に創始し北海道方面よりニシン其他の肥料を移入經營して居たが明治十八年景山氏これを引受けて名も勵商會と稱へ専ら肥料雜穀を取扱ひ異常の盛況を極む昭和五年以來店を資本金五萬圓の同族合資となし董氏を代表社員として經營しつゝあるが米田朋三氏を支配人として西讃一流の米肥商として活躍して居る。

仲多度郡多度津町
熊谷長四郎
肥料商

氏は三豊郡大野原村出身にして明治二十一年此處に開業し一般農家の信用を獲得其後大正七年以來合田幸四郎氏と合流經營しつゝあり目下營業の衝に當れる合田氏は濃厚にして熊谷氏と共に地の代表的商人である。

仲多度郡多度津町
鹽田智章
竹材商

町の多額納稅者にしてかつて鹽田岩五郎氏が明治初年に創始し専ら多度津丸龜等團扇用として盛況を極め現在智章氏の經營下に老練の支配人大平專吉氏が營業の衝に當る竹材は概ね大分岩見福岡伊勢方面より移入して居る。

仲多度郡多度津町

竹内龜太郎

材木商

氏は奥白方の農家に生れ其虚弱の故を以つて商業を志し遂に何れも失敗に終り結局三十歳の頃郵便局に雇はれたがこれも辭し下駄製造を開始した而してその材料たる杉材が時折農家の人々に買はれ往く事を思察した氏は材木商に轉向し薄利多賣の方針で逐日發展其基礎を築き目下販路は縣内外に進出盛況を極む尙息萬平氏は夙に大阪一流の材木商に斯業を經驗し歸省爾來父子協力營業に當つて居る。

仲多度郡多度津町

神原健吉

藥物商

同藥店は三代前の八左衛門氏の始業にして逐年發展し現店主は英明商才に富み縣下屈指の藥房として令名高く大正四年高松へ進出を始めとし愛媛、徳島、岡山にも進展盛況を謳はれて居る尙町會議員、商工會役員等公的にも努力して居る。

仲多度郡多度津町

中國銀行
多度津支店

同店は大正初年琴平銀行支店として設置され昭和二年十月山陽銀行支店に改稱し昭和五年更に中國銀行支店に變更現在に至つて居る現同支店長安達正氏四十三歳は昭和六年十月同支店に來任氏は香川銀行琴平支店長として多年の經驗を有する敏腕家である。

仲多度郡善通寺町

千葉熊太郎

陸海軍
御用商人

氏は字多津町の出身にして明治三十年陸軍御用商人として第十一師團諸隊に僅少の青物を納入して居た然るに日露戦後陸海軍の被服拂下品扱ひに着眼しその頃は被服も彈丸痕一つだにあればこれを拂下げ氏はこれを修理して販賣して居たがその耐久力に意外の好評を博した氏は更に武器其他一切の廢品に手を染めこれを修理又は加工して青年團學校等に供給し漸次基礎を築いた其後店を合資組織に改め支店を東京、大阪、岡山等に設置して愈々發展を續け又内には職工數十名を僱用して青年訓練所々用裝具一式を調製する等異常の躍進を遂げた目下軍隊拂下品を取扱ふ外鐵道、遞信六大都市々電等諸官衙の拂下品も扱ひ更に同店製造にかゝる八千代印防水布の納入もなし一世に誇る商況を展開して居るが一方町商會長として令名を馳せて居る。

仲多度郡善通寺町

森佐雄祐

圖書、印刷、出版

善通寺の兵林館の名は餘りに明るい存在と認識を受く善通寺前大通り電車筋に沿ふ同店は現存森又氏が書籍及吳服商を經營して居たが當主入嗣以來一層の進展をなし専ら書籍と文具印刷に専念第十一師團の指定商として發展して居る當主は同町商工會副會長として活躍しつゝある。

仲多度郡善通寺町

香川房三郎

吳服商

善通寺門前に新裝成つて盛況を極めて居る同店は大正九年時計商より轉向して創めたのであるがその信用と迫力は期せずして店勢を礎いて今日に至り然かも其家族的協力は益々發展を招來して居る。

仲多度郡善通寺町

山下榮次郎

吳服、洋品商

かめやの商號を以つて發展せる氏は同町の有力者である。吳服部は長男洋品部は次男各々その衝に當つて居る。氏はこれを統營して居るがその内容の堅實は同町の代表的商家とされて居る。

仲多度郡善通寺町

森林造

吳服商

西かめやの商號を以つて知られて居る氏の吳服店は森又市氏が明治十六年荒物商より發し其後明治三十年現吳服商に轉向したのである。その後當主は經營に當るや逐年發展し牢固たる地盤を成築し盛況の今日を來たさしめて居る。

仲多度郡善通寺町

高松百十四銀行

善通寺支店

同支店は明治三十一年十二月師團司令部設置と同時に日本銀行高松支金庫善通寺派出所として設置し當時出張所主任は井上耕作氏にして師團長乃木中將であつた。明治三十二年高松貯蓄銀行代理店を兼ね三十四年町制執行と同時に善通寺支金庫に昇格し更に日露戰役當時には一日の電報料八百六拾六圓貳拾錢にも上る繁忙振りを示したのであつた。大正二年高松百十四銀行支店として一般銀行事務を開始し現支店長野島忠一氏は昭和七年一月任に就き以來上海事變の非常時に際會して遺憾なく行務を遂行活躍した。同氏は二十餘年の經驗を有する同行の偉材である。

仲多度郡善通寺町

井上英一

文房具、印刷業

氏は同町の有力者であつて約三十年前文具商を創業以來堅實を一途に精進し發展して居るが特に軍隊學校方面に信用を博して居る。

仲多度郡琴平町

藤井忠次郎

材木商

氏は仲多度郡十郷村に生れ商業を志し山代原木商を營み傍らこれを製材して居た。大正十二年地の塚田製材工場を買収し以來地松製材を以つて聲價を博すると共に着々基礎を築いた殊にその經驗に因る材質を見るの眼は氏をして今日あらしめて居るが目下新進の忠雄君を加へて益々發展の盛況にある。

仲多度郡善通寺町

四國銀行支店

同支店は高知市に本店を有する安田系統の銀行であつて始め藤岡銀行と云ひ地の人の經營せし所であつた。次いで明正銀行に變更しさらに大正十二年四國銀行支店と改稱された。現支店長濱田重喜氏は昭和六年松山支店より來任温厚な銀行家として行務の發展に精進しつゝある。

仲多度郡琴平町

松島實

製藥業

松島琴松堂として古くより世の認識を博して居るが同店は約七十年前祖父直太郎氏の創始にかゝり大正六年實氏がこれを繼承した。特に同舖の製藥千金丹、養胃丸、琴神丸、松島湯、日藥、エソキ丸、小兒丸等は遠く北陸、北海道を始め全國的に盛名を博して居る。

仲多度郡琴平町
谷口卯之助
鋸製造業

同氏の鋸製造技術は全國的に有名にして谷口卯之助の銘は資質を謳はれて居る同氏の先代平太郎氏は京都の人であつて琴平參詣の時この地に着留し遂に開業したものである其後を繼いだ卯之助氏は又特技も先天的にして製品は全國的に聲價を博し尙海外南洋までも發展して居る。

仲多度郡琴平町
仁井傳三郎
吳服商

同店は約百年前商祖嘉兵衛氏の創業にして以來大黒屋吳服店の名は地を離れた盛名を培ひ特に高級品を以つて其質と値は追隨を許さぬ所である當主傳三郎氏は町會議員商工會役員、信用組合理事を勤めて居る。

仲多度郡琴平町
眞鍋純夫
藥局

しまや屋と號する同店は二百年の歴史あり初代は醫師にして二代目より藥業に轉向した八代に亘る老舗の店頭には古色の燈堂ありその面目を誇つて居る當主純夫氏は大阪藥專卒業後祖業に精進し代々の堅實主義を信條に基礎と信用を謳はれて居る。

仲多度郡琴平町
平尾一郎
藥局

同店は元祿年間の創業にして古今連続の藥房であるその確實なる營業振りは當主の温厚を加へて信用を博し且方面委員信用組合理事商工會理事等に推されて活躍して居る。

仲多度郡琴平町
鈴木信太郎
荒物商

同店は二百年の歴史あり國屋の號を以つて六代の老舗であるがその確固たる基礎は同町斯界に不動を讃へられて居る店主は目下商工會副會長を勤め町會議員、信用組合理事にも推されて居る。

仲多度郡琴平町
金關勘太郎
名物一刀彫

琴平驛前に店舗を有し一躍琴平名物の一に數へられた氏の一刀彫は珍たるものであるその事業は兄弟四名の共同事業であつた準太氏の特技こそ多年の修練に由るもの實に琴平の誇りでもある。

仲多度郡琴平町
小濱秋次郎
雜貨商

しきじやの屋號を以つて知られる氏は明治十五年先代吾平氏の開業にして爾來店勢を擴充して同町雜貨商の覇を爲した約二十年前先代の歿後氏はこれを繼承したが温厚と親切を以つて益々信用を博し不動の基礎を築くと共に町議にも推されて盡瘁して居る。

仲多度郡琴平町
高松百十四銀行
琴平支店

同支店は大正十四年三月普通寺同支店の出張所として設置以來業務進展し昭和五年三月支店に昇格近く新舎屋建築の筈であり支店長西條保則は昭和八年來任し多年南新町支店に多年在勤の實務家と謂はれて居る。

仲多度郡琴平町
中國銀行
琴平支店

昭和二年十月十二日琴平銀行は山陽銀行に買収され支店となり更に昭和五年十二月中國の支店と改稱支店長川島誠一氏は第一合同銀行に在職し後中國鴨島支店より轉動した奮闘家である。

三豊郡仁尾町
山地正男
酒造業

地の奇勝平石の名に因む氏の酒造は文政元年の創始にして雄名である販路は西中讃に専ら發展し正男氏は新進の醸造家にして本年三十五歳其前途を矚目されて居る。

三豊郡仁尾町

吉田長太郎
足袋製造業

同店はふじやの商號を以て七代に亘る歴史あり其製造に係るふじや足袋は堅牢と「型」高尚を以つて知られ縣下はもとより愛媛徳島の三縣を販路とし抜くべからざる地盤を固め盛況を誇つて居る近時營業の衝に當れる清一氏は時代の人にして祖業に奮進近時學生服の製造も開始活躍して居る。

三豊郡仁尾町

中橋眞八
製酢業

舊藩時代に指定醸造所として縣下第一と謳はれた同場は當主眞八氏となつて製酢を開始し夙に營業の基礎定まれるあり米酢として品質の優良と共に其仁尾酢は一躍聲價を博した目下養子その衝に當つて居る。

三豊郡仁尾町
株式會社 垣石商會
自轉車附屬品製造業

同店は昭和八年三月株式組織に改め更に發展を劃したがこの經營の衝に當るは浪越龜吉氏であつて同社の製作品は從來自轉車の半ヶ一スに改良を加へ堅牢無比體裁優美取付簡易價格低廉等の特異性に全く自轉車界の福音とされ従つて同社の前途又多望と謂ふの外ない。

三豊郡仁尾町

高松百十四銀行
仁尾支店

同支店は大正十一年出張所を昇格して支店となり以來逐年預金の増加を見つゝ發展して居る現支店長田代亮氏は二十年近くも同行に勤務し昭和四年上高瀬より榮轉した眞面目な銀行家である。

三豊郡仁尾町
喜田吉次
人造眞珠製造業

同氏は大正六年改進舎として人造眞珠の製造を創始し海外貿易を主に一大飛躍を遂げ令名を馳した目下氏は多數製造家に原料の販賣と製造の兩面に活躍して居る。

三豊郡觀音寺町

清水民治郎
文房具商

同町卸賣組合長たる氏は父業を約十五年前に繼承以來堅實なる商策商況の下に不動の信用を以つて活動しつゝあり七年十一月以來組合長に推され商工會理事として温厚着實の評がある。

三豊郡観音寺町

大西 幸吉

吳服商

十日屋西支店を以つて知られた同氏は大正七年本家より分家して斯業を創めたがその熱心と堅實商策に忽ち信用を博し目下では本家十日屋と共に同町の有力商家として商工會評議員に推され異常な店勢を示して居る

三豊郡観音寺町

株式會社白川吳服店
代表者

白川 蔦次

明治三十一年以來の歴史ある白川吳服店はかつて普通寺に於て開業せしあり又下高瀬に於ても店を經營して居たが大正九年頃はじめ西讃の中心地観音寺に來り資本金五萬圓の會社組織による吳服店を開いた以來商機を見る敏なる氏の店業は逐年基礎を固め現に資本金貳拾萬圓を以つて西讃斯界第一の商況を誇つてゐる。

三豊郡観音寺町

大西林 太郎

吳服商

十日家本店として歴史を誇る同店は父平五郎氏が木綿太物問屋以來の老舗なれば不動の基礎の上に極めて地味な商策を採りつゝ、尙斯界の有力商家として抜くべからざる信用を誇つて居る。

三豊郡観音寺町

高辻 幸一

吳服卸小賣

氏は十三歳の時より白川吳服店に勤めよく斯界の妙道を極め後高辻家に貰はれて養子となつた次いで大正九年現店に本家と別れて營業を創始したが以來先きの體験に愈々拍車の精進と薄利多賣の方針を以つてせば店勢は漸次進展擴充し遂に同町有数の商人として年額二十數萬圓の売上を示すの勢況とはなつた。

三豊郡観音寺町

眞鍋 光義

金物商

氏は約十年間粟井村より同地に來て開業したが元來肥料商として時機を見る敏なる氏は着々基礎を固めて内容充實し信用と盛況を誇るに至つた。

三豊郡観音寺町

中野 鶴一

米穀商

同店は三代に亘る營業にして始祖良平氏が慶應の創業以來着々基礎を築き取引の盛況を見たが當主鶴一氏は三中出身本年四十歳約二十年前より本業に携り精米精麥支麥雜穀類の取扱高年額八萬依に上り西讃一を謳はる目下の販路は北海道、北陸、朝鮮、中國等異常の活躍發展を示して居る。

三豊郡観音寺町

藤田 惠次

食料品

氏は大正十年分家して此處に開業し當時三十歳の氏は誠實を以つてモットーとなし一意奮闘を續けた殊に坂商出身の氏は坂出精神の堅實なる積極方針に著々信用を博し目下地の鉦々たる商人として謳はれてゐる。

三豊郡観音寺町

加藤安太郎

材木商

観音寺驛頭に安大一千坪の材木商を營業せる氏は桑山村の出身大正十三年同所に於て開業以來誠直堅實なる材木商として信用を高め斯界に有力な歩地を築いて發展して居る

三豊郡観音寺町

大畑爲三郎

讃岐人形製造業

由來讃岐人形の製造を以て知らるゝ同店は百年の歴史を持つた老舗であつて殊に三月の雛人形五月の武者人形八月の祭り人形床帳りは全國的聲譽を博し最近では滿洲方面にも進出しつゝある。

三豊郡観音寺町

藤川 一夫

家具製造

同町の青年事業家として澄刺たる商況を展開して居る氏は上高野村出身小學校卒業後直に岡山に於て斯業を修練し二十歳の時百五十圓を資本に開業以來その努力は寢食を外に精進を続け世の青年の模範と謳はれつゝ、現況の發展を築いた目下伊豫西條に支店を設け諸官廳に納入しつゝ、異常な信用をかち得て居る。

三豊郡観音寺町

高橋伊三郎

足袋毛糸商

氏は粟井村出身にして大正十三年現在に開業したが足袋の製造販賣の外に時代の要求を察し昭和五年頃より毛糸編機械を以て各編製品を生産し西讃、愛媛縣等に發展し近來の出色を謳はれて居る。

三豊郡観音寺町

澁谷米太郎

鐵類セメント工具類

大正九年別家して創始せる氏の營業は逐年發展して異常な進境を示して居る目下氏は商工會理事として自己營業と町商工會に盡して居る。

三豊郡観音寺町

黒川伊勢松

焼印製造業

氏は梓田村の出身幼時より大阪に於て焼印製造を習得し大正六年歸郷現在に於て創業した以來一意精勵の氏は各種美術的諸焼印を創案製造しよく各地博覽會等に出品して受賞され目下阪神九州朝鮮北海道臺灣等より續々注文に接し名譽を博して居る。

三豊郡観音寺町

高松百十四銀行

観音寺支店

同支店は明治二十五年縣観音寺支金庫として開業し以來同町發展と共に百十四銀行支店として銀行業務を取扱ふ事となつた數ヶ所に出張所あり同行の有力支店に數へらる中山支店長は同行古參行員として重きを爲し産業観音寺に評又好き人材である。

| | |
|--|---|
| <p>三豊郡観音寺町 中國銀行 観音寺支店</p> | <p>三豊郡観音寺町 安田銀行 観音寺支店</p> |
| <p>大正十一年九月第一合同支店として開設後數次の合併異動の都度業務進展して昭和五年中國支店となる詭聞に出張所あり傳統の方針を以つて業務の擴充を見て居る支店長奥村正平氏は豊濱支店長より七年四月來任し快活の士である。</p> | <p>大正六年七月一日二十二支店として開設十二年安田と改稱同地金融界に活躍して居るが支店長岡部晴夫氏は大阪西濱支店より來任し活動家である。</p> |
| <p>三豊郡豊濱町 合田熊之祐 肥料商</p> | |
| <p>日向屋の屋號を以つて知られたる同店は明治二十年頃氏の先代が二十三歳の時僅が十五圓の少資を以つて開業し當時穀物、染料、フスマ等を商ひ微々たるものであつたが精勵して漸次基礎を固め次いで肥料に轉向した大正七年氏が二十六歳の時先代の死に因つて以來營業の一線に立つた熊之祐氏は父の襲名して目下同地商工會評議員、肥料聯合會評議員等をつとめ温厚の士である。</p> | |

| | |
|---|--|
| <p>三豊郡豊濱町 合田万龜男 米穀、海産物麵類</p> | <p>三豊郡豊濱町 合田種次郎 米穀精麥業</p> |
| <p>同店は明治三十五年先代吉氏の創業にして以來同地特産素麵、米穀、海産物等を徳島、高知兩縣に高速自動車を以つて移出販賣しつゝあり有力な問屋である。</p> | <p>同店は先代定吉氏が明治初年の創業にして吉野屋と號し同町屈指の米穀問屋にして殊に精米麥は阪神關東北海道を販路として活躍して居る。</p> |
| <p>三豊郡豊濱町 大野繁男 石炭、煉炭商</p> | <p>三豊郡豊濱町 大久保朝雄 日用雜貨商</p> |
| <p>同店は元肥料商として信用を博し先代源平氏早世後義弟茂夫氏に依つて繼承されて居たが現繁男氏成年後本業に轉向三豊郡養蠶家の信用を勝ち得て近時異常な躍進振りを示して居る。</p> | <p>同店は豊濱町に於ける代表商店である氏は今年四十八歳であつて昭和六年開業以來雜貨日用品學用品一切を販賣し日尙淺きにも不拘隆々たる盛況を極めて居る大久保氏は地の有志大久保増吉氏の弟でかつて十六年間同町役場に勤め温厚は信望を高めて居る。</p> |

三豊郡豊濱町

合田平三

素麵製造業

豊濱町素麵界の雄に合田平三氏がある氏は代々地の農家であつたが二十二歳の時同地に於ける製麵業の將來の有望に着想明治四十二年創始した経験に乏しき氏は一時經營難に遭遇したがこれを打開し更に苦心努力を以て今日の基礎を築き最近の不況にも二十餘名の職工を使用し年産六萬箱内外の乾うどんを製造愛媛、廣島に發展してその品質を謳はれて居るが同町の代表的事業家である。

三豊郡豊濱町

大久保雅彦

味の満製造

同店は大正十四年頃迄は味の製造業であつたが昭和元年より時代の要求に應ずる味の満製造業に轉じた味の満は粉末と液の二種にして總ての食料品調味料として營業者は勿論一般家庭に愛用され好評を博して居る氏は今年四十六歳にして敏腕と雄辯を以て知られ同町消防組頭其の他町自治にも盡瘁して居る。

三豊郡豊濱町

中國銀行支店

同支店は元丸龜銀行の支店であつたが昭和二年九月山陽銀行に合併後山陽支店として經營中又も昭和五年十二月中國と合同改稱した川ノ江に出張所を置いて發展して居る現支店長中村俊平氏は七年四月來任した多年の経験家である。

小豆郡土庄町

大森大藏

呉服商

氏は幼にして斯業に従事して刻苦精進よく今日を招來せしめて居る實に氏の如き其若き時には苦勞を買へ而して老いては樂むの好事例にしてこゝもと善因善果を齎して居るのである目下堅實不動の商況の下に氏は信用組合長として恪勤し町商工會長町會議員等に推されて居る。

小豆郡土庄町

岡田儀八

酒問屋

同店は元庄屋と稱し笠井某の酒造を氏が買収したが氏は大鐸の山村に生れ幼時同酒場に雇はれ其後長じて主人の信認を得るや大正の初め共同經營の談纏まりこゝに氏は少資を以つて發足した以來經驗の偉力と至誠の商策は逐年苟の伸びる如く發展擴充して往つた日下酒商として島一に讃へられ其販賣年量一千石を超えるの盛況にある。

小豆郡土庄町

溝内常三郎

運送代理業

土庄尼崎代理店の經營に當れる氏は昭和二年四月以來代理店を引受けて運輸に鋭意して居るがかつて町會にも推されて活躍して居る。

小豆郡土庄町

高松百十四銀行

土庄支店

同支店はさきに小豆島銀行として營業して居たが昭和三年合併と同時に改稱經營して居る昭和五年新築堂々たる店舗を整へ同支店長笠井重夫氏は又地の有力者である。